

令和7年度里海づくりを通じた藻場干潟の保全と利活用  
基盤構築支援業務におけるモデル事業実施報告書

事業名:博多湾から始める沿岸と地域が繋ぐ  
人の営みと自然調和

令和8年2月

団体名:一般社団法人ふくおかFUN

## 目 次

1	事業概要	1
	① 事業名	
	② 事業目的	
	③ 事業内容	
	④ 発注者	
	⑤ 請負者	
	⑥ 事業実施期間	
2	取組内容および成果	2
	(1) 学術連携・基礎調査	2
	① 目的	
	② 実施状況	
	③ 結果	
	(2) 教育プログラム・人材育成	286
	① 目的	
	② 実施状況	
	③ 結果	
	(3) プロジェクト全体のビジョン策定	319
	① 目的	
	② 実施状況	
	④ 結果	
3	今後の課題、次年度以降の取組方針	326
4	総括（まとめ）	328

## 1 事業概要

### (1) 事業名

博多湾から始める沿岸と流域が繋ぐ人の営みと自然調和

### (2) 事業目的

自然環境に対して、立場や枠組みを超えた皆が当事者意識を持って向き合い続ける社会を実現する先に、海と人が調和し、誇らしく、より豊かになった自然とともに愉しく笑い続けられる地域づくりを目指す。

### (3) 事業内容

実施した事業は下記のとおり

- ① 学術連携・基礎調査
- ② 教育プログラム・人材育成
- ③ プロジェクト全体のビジョン策定

### (4) 発注機関

公益財団法人国際エメックスセンター

### (5) 請負者（実施団体）

一般社団法人ふくおか FUN

### (6) 事業実施期間

令和7年5月29日（契約日）から令和8年2月27日まで

## 2 取組内容および成果

### (1) 学術連携・基礎調査

#### ①目的

当該地域の現状を正確に把握し、より効果的な保全活動を行うために、潜水による藻場造成のための調査や水中を含む生物や自然環境のモニタリング調査を行う。また、季節ごとの環境 DNA 調査と潜水調査を行うことで、当該地域の生物の生息環境を明らかにする。

#### ②実施状況

令和 7 年 5 月期において、下記の海洋モニタリング調査を実施した。  
調査結果は次ページ以降に記述する。

実施日	実施場所	取組内容
5 月 31 日	志賀島 (弘)	潜水調査およびアカモク母藻設置 (※1)
5 月 31 日	志賀島 (明石)	潜水調査およびアカモク母藻設置 (※1)
6 月 4 日	地行浜 (東側)	潜水調査およびアマモ花枝移植 (※2)
6 月 7 日	能古島・地行浜	潜水調査およびアマモ花枝移植 (※2、3、4)
6 月 11 日	志賀島 (志賀)	潜水調査およびアマモ花枝採取 (※5)
6 月 12 日	今津海岸	潜水調査およびアマモ苗移植 (※4)
7 月 21 日	志賀島 (明石)	アカモク生育状況調査 (※1)
7 月 21 日	志賀島 (弘)	アカモク生育状況調査 (※1)
7 月 22 日	能古島 (東側)	アマモ場調査 (※3)
7 月 22 日	能古島 (南側)	アマモ場調査および環境 DNA 調査 (※3)
7 月 24 日	地行浜 (東側)	アマモ場調査および環境 DNA 調査 (※2)
7 月 24 日	志賀島 (勝馬)	環境 DNA 調査
7 月 24 日	室見川 (中流)	環境 DNA 調査
7 月 24 日	室見川 (河口)	環境 DNA 調査
8 月 6 日	室見川 (下流)	河川環境評価および生物採捕
8 月 6 日	室見川 (中流)	河川環境評価および生物採捕
8 月 19 日	志賀島 (志賀)	アマモ場調査 (※5)
8 月 19 日	志賀島 (明石)	アカモクの育成状況調査 (※1)
8 月 21 日	地行浜 (東側)	アマモ場調査 (※2)
8 月 26 日	能古島 (東側)	アマモ場調査 (※3)
8 月 26 日	能古島 (南側)	アマモ場調査 (※3)
9 月 12 日	瑞梅寺川 (中流)	河川ゴミ調査および生物採捕
9 月 12 日	瑞梅寺川 (中流)	河川ゴミ調査および生物採捕
9 月 17 日	能古島 (東側)	アマモ場調査 (※3)
9 月 17 日	能古島 (南側)	アマモ場調査 (※3)
9 月 18 日	志賀島 (志賀)	アマモ生育調査 (※5)
9 月 23 日	唐泊海域	ウニ駆除

9月29日	地行浜（東側）	アマモ場調査（※2）
実施日	実施場所	取組内容
10月2日	志賀島（弘）	アカモク生育状況調査（※1）
10月2日	志賀島（明石）	アカモク生育状況調査（※1）
10月14日	地行浜（東側）	アマモ場調査（※2）
10月16日	能古島（東側）	アマモ場調査（※3）
10月16日	能古島（南側）	アマモ場調査（※3）
10月24日	能古島（南側）	環境DNA調査
10月24日	地行浜（東側）	環境DNA調査
10月24日	志賀島（勝馬）	環境DNA調査
10月24日	室見川（中流）	環境DNA調査
10月24日	室見川（河口）	環境DNA調査
11月11日	志賀島（明石）	アカモク生育調査（※1）
11月13日	能古島（東側）	アマモ場調査（※3）
11月13日	能古島（南側）	アマモ場調査（※3）
11月19日	志賀島（志賀）	アマモ生育調査（※5）
11月24日	志賀島（弘）	アカモク生育調査（※1）
11月24日	志賀島（勝馬）	アマモ生育調査（※5）
12月8日	椎原川（上流）	河川ごみ調査および生物採捕
12月8日	室見川（中流）	河川ごみ調査および生物採捕
12月12日	能古島（東側）	アマモ場調査（※3）
12月12日	能古島（南側）	アマモ場調査（※3）
12月15日	金屑川（中流）	生物採捕
12月16日	志賀島（志賀）	アマモ場調査（※5）
12月16日	志賀島（明石）	アカモク生育調査（※1）
12月18日	地行浜（東側）	アマモ場調査（※2）
1月6日	能古島（東側）	アマモ場調査（※3）
1月6日	能古島（南側）	アマモ場調査（※3）
1月16日	志賀島（志賀）	アマモ場調査（※5）
1月16日	志賀島（弘）	アカモク場調査（※1）
1月16日	志賀島（明石）	アカモク場調査（※1）
1月26日	地行浜（東側）	アマモ場調査（※2）
2月12日	地行浜（東側）	アマモ場調査（※2）
2月17日	能古島（東側）	アマモ場調査（※3）
2月17日	能古島（南側）	アマモ場調査（※3）
2月21日	志賀島（志賀）	アマモ場調査（※5）
2月21日	志賀島（弘）	アカモク場調査（※1）

※1 福岡市漁業協同組合 弘支所との連携により実施した。

※2 福岡市海浜公園指定管理者 マリゾン・博多湾環境整備共同事業体との連携により実施した。

※3 福岡市漁業協同組合 能古支所との連携により実施した。

- ※4 福岡県水産技術センターとの協働により実施した。
- ※5 福岡市漁業協同組合 志賀支所との連携により実施した。

# 志賀島（弘）アカモク生育状況調査報告

令和7年5月31日（土）

## 1. 地点情報

調査地点：志賀島（弘）

### 【地図】



GPS 座標：33.684444, 130.288829

調査：潜水調査およびアカモクの生育状況調査

天候：晴れ

海況 波高：1.5m

風速、風向：11:00 北 5.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 00:46（163cm）、12:11（189cm）

干潮 06:05（83cm）、19:27（25cm）

## 2. 潜水情報

調査員名：智原、中島、古賀

エントリー時間：11:54

エグジット時間：12:21

最大水深：7.0m

平均水深：6.1m

水温：18.8℃

透視度：2m

### 3. 調査内容

- 目的

海洋環境調査および撮影。

昨年度（令和6年5月）、自生のアカモク母藻をスポアバッグに入れて種子を投下した藻場造成場（志賀島 弘）に、今年度も更なる藻場の拡大を目的として同様の手法により藻場造成活動を行う。

- 所見

志賀島 弘の造成場において5株のアカモクを確認した。

令和6年度における造成場の石は、砂で埋まっているものもあった。

- 見られた生物

アカモク、ワカメ、メバル（幼魚）、キュウセン、ホンベラ、アナハゼ、アサシアナハゼ

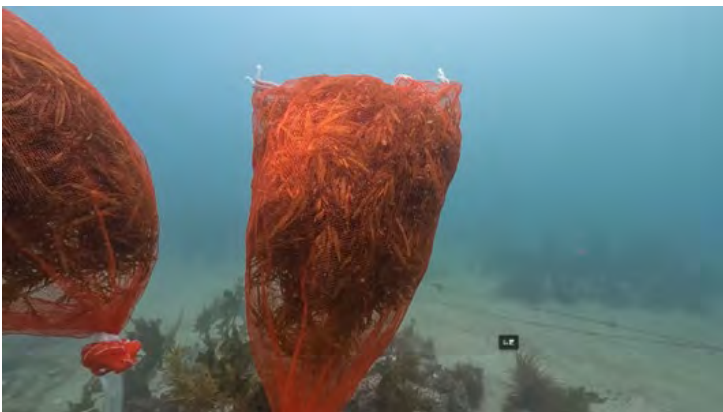
【水中の写真】



スポアバッグ設置前（上から）



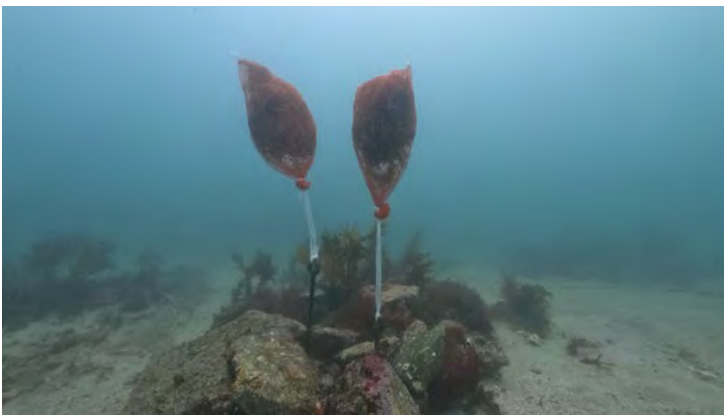
スポアバッグ設置前（横から）



設置したスポアバッグ



スポアバッグ設置後（上から）



スポアバッグ設置後（横から）

#### 4. その他、特記事項

令和6年度に造成した場所の石は砂に埋もれているものもあったため、新たな石を運び入れた。

アカモク母藻を入れたスポアバッグを2袋設置した。

## 志賀島（明石）潜水調査およびアカモク母藻設置

令和7年5月31日（土）

### 1. 地点情報

調査地点：志賀島（明石）

#### 【地図】



GPS 座標： 33.675523, 130.288063

調査： 潜水調査およびアカモク母藻設置

天候：晴れ

海況 波高：1.5m

風速、風向：11:00 北 5.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 00:46（163cm）、12:11（189cm）

干潮 06:05（83cm）、19:27（25cm）

### 2. 潜水情報

調査員名：智原、中島、古賀

エントリー時間：13:15

エグジット時間：13:45

最大水深：4.4m

平均水深：2.6m

水温：19.9℃

透視度：2m

### 3. 調査内容

- 目的

海洋環境の調査および撮影。  
転石場へのスポアバッグ設置。

- 所見

サンゴ藻は確認されたが、その他の海藻は確認されなかった。

- 見られた生物

ボラ、クサフグ、メジナ、メバル幼魚、ネンブツダイ

【水中の写真】



スポアバッグ固定用のペグ打ちの様子



スポアバッグ



スポアバッグ設置

4. その他、特記事項

- ・福岡市漁業協同組合 弘支所長との協議によりアカモク母藻設置に至った。
- ・ペグを2本と、ロープを岩に括って設置場所を作成。
- ・6袋のスポアバッグを設置した。

## 地行浜（東側）アマモ場調査報告

令和7年6月4日（水）

### 1. 地点情報

調査地点：地行浜（東側）

#### 【地図】



GPS 座標：33.598440, 130.360308

調査：潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候：晴れ

海況 波高：0.5m

風速、風向：9:00 西北西 3.0m

風速、風向：12:00 西 3.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 04:29（140cm）、16:40（139cm）

干潮 10:59（89cm）、23:00（75cm）

### 2. 潜水情報

調査員名：智原、中島、古賀

エントリー時間：10:33

エグジット時間：11:27

最大水深：3.0m

平均水深：2.4m

水温：21.2℃

透視度：2.0m

### 3. 調査内容

- 目的

6月7日に行われるアマモの植え付けに生分解性のポットを使用するためその使用感や流れを確認した。

- 所見

生分解性のポットは水中で崩れることはなく植え付けには問題なかった。  
植え付けたアマモは生育状況を随時、確認していく。

- 見られた生物

アマモ、クサフグ

【水中の写真】



生分解性ポット植え付け前



生分解性ポット植え付け後

## 潜水調査および能古島から地行浜へのアマモ花枝移植

令和7年6月7日（土）

### 1. 地点情報

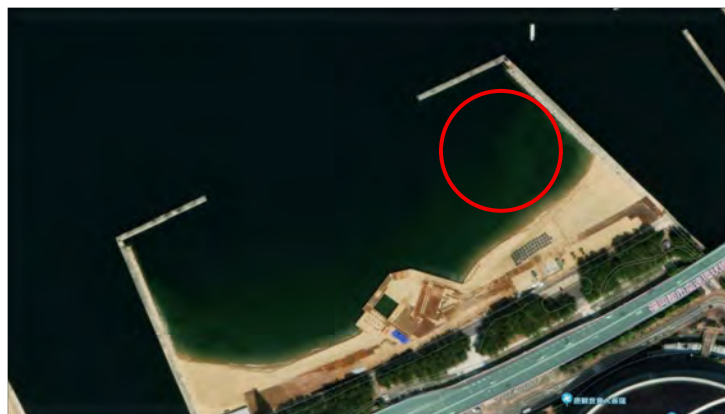
調査地点：地行浜（東側）、能古島（東側）

#### 【地図】



能古島（東側）

GPS 座標： 33. 6177020, 130. 3140940



地行浜（東側）

GPS 座標： 33. 598440, 130. 360308

内容：潜水調査およびアマモ花枝移植

天候：晴れのち曇り

海況 波高：0.2m

風速、風向：10:00 東 2.1m

風速、風向：12:00 西北西 2.1m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 06:59（163cm）、19:59（149cm）

干潮 00:39（82cm）、13:39（52cm）

## 2. 潜水情報

調査員名：中島、山崎

1 本目（能古島）

エントリー時間：8:47

エグジット時間：10:12

最大水深：1.8m

平均水深：1.4m

水温：21.6℃

透視度：2.0m

2 本目（地行浜）

エントリー時間：14:23

エグジット時間：15:08

最大水深：2.2m

平均水深：1.6m

水温：22.8℃

透視度：2.0m

## 3. 調査内容

### ・目的

能古島東側におけるアマモ花枝の採取および採泥。

アマモ群生地を泥を活用した地行浜東側へのアマモ花枝移植。

### ・所見

150 株のアマモを能古島から地行浜へ移植した。

地下茎を 2 節以上残すよう留意しながら採取した。

### ・よく見られた生物

アマモ、クサフグ

【水中の写真】



能古島（東側）に群生するアマモ



生分解性ポットに入ったアマモ



地行浜へ移植したアマモ

4. その他、特記事項

移植時には視界不良によりの広角での撮影が不可能な状況であった。後日、モニタリングの際に広角撮影を実施する。

## 志賀島（志賀）潜水調査およびアマモ花枝採取

令和7年6月11日（水）

### 1. 地点情報

調査地点：志賀

#### 【地図】



GPS 座標： 33.660919, 130.314945

調査：潜水調査およびアマモ花枝採取

天候：曇り

海況 波高：1.0m

風速、風向：11:00 南南東 6.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 09:20 (200cm)、22:39 (175cm)

干潮 03:20 (75cm)、16:00 (15cm)

### 2. 潜水情報

調査員名：智原、古賀

エントリー時間：10:48

エグジット時間：12:52

最大水深：2.3m

平均水深：1.6m

水温：21.0℃

透視度：1.0m

### 3. 調査内容

- 目的

アマモの生育状況調査および花枝採取。

- 所見

アマモの群生が確認された。今回は花枝も多数確認されたが、種子が落ち切った花枝も散見された。

- 見られた生物

アマモ、ガザミ、メバル（幼魚）、メバル

【水中の写真】



アマモ場の様子



アマモ花枝採取の様子



採取した花枝

4. その他、特記事項

福岡市農林水産局水産振興課と福岡市漁業協同組合 志賀支所にアサリ養殖の実験結果をヒアリングした。

## 今津海岸 潜水調査およびアマモ苗移植

令和7年6月12日（木）

### 1. 地点情報

調査地点:今津海岸

#### 【地図】



GPS 座標: 33.5958947 130.2699650

調査:潜水調査およびアマモ苗移植

天候:雨

海況 波高:1.0m

風速、風向:14:00 北北西 2.1m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 09:31（107cm）、23:00（129cm）

干潮 03:38（80cm）、16:15（28cm）

### 2. 潜水情報

調査員名:大神、中島、古賀

エントリー時間:14:30

エグジット時間:15:30

最大水深:1.2m

平均水深:1.0m

水温:21.0℃

透視度:1.0m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島より採取したアマモ苗の移植。

福岡県水産海洋技術センターの施設で陸上養殖されたアマモ苗の移植。

(上記ともに生分解性ポットを使用)

- 所見

一定数の自生のアマモが確認された。

能古島産のアマモ 27 株、水産技術センターで発芽した株を 24 株植え付けた。

自生アマモにカミナリイカの卵が産み付けられており、そのすぐ近くに親イカと思われる個体を確認した。

- 見られた生物

アマモ、カミナリイカ

【水中の写真】



今津海岸に自生するアマモ



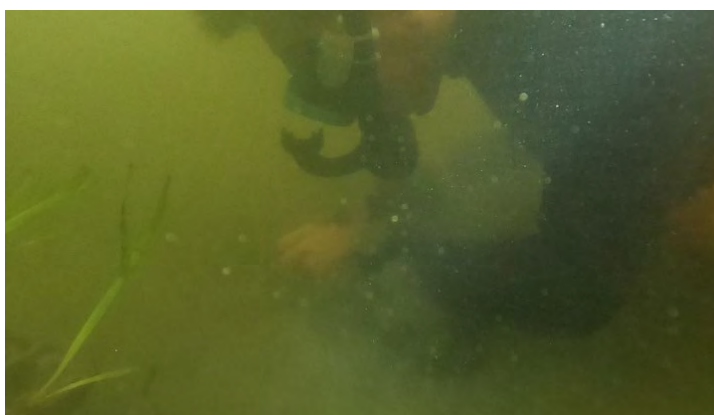
アマモに産み付けられたカミナリイカの卵



カミナリイカ



植え付け前のアマモ



アマモを植え付けるダイバー



植え付け後の様子

## 志賀島（明石）アカモク生育状況調査報告

令和7年7月21日（月）

### 1. 地点情報

調査地点：志賀島（明石）

#### 【地図】



GPS 座標：33.675523, 130.288063

調査：潜水調査およびアカモクの生育状況調査

天候：晴れ

海況 波高：1.0m

風速、風向：10:00 北 4m

風速、風向：11:00 北 4m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 06:11（170cm）、19:53（149cm）

干潮 13:16（34cm）

### 2. 潜水情報

調査員名：智原、中島

エントリー時間：10:40

エグジット時間：11:12

最大水深：4.1m

平均水深：2.6m

水温：27.0℃

透視度：2.0m

### 3. 調査内容

- 目的

志賀島（明石）における造成したアカモクの生育状況調査

※2025年5月に自生のアカモクをスポアバッグに入れ、投下した造成場

- 所見

2cmほどに成長したアカモクの実生を約100株程度確認した。

方形枠（0.5m×0.5m）の枠内で17株確認した。

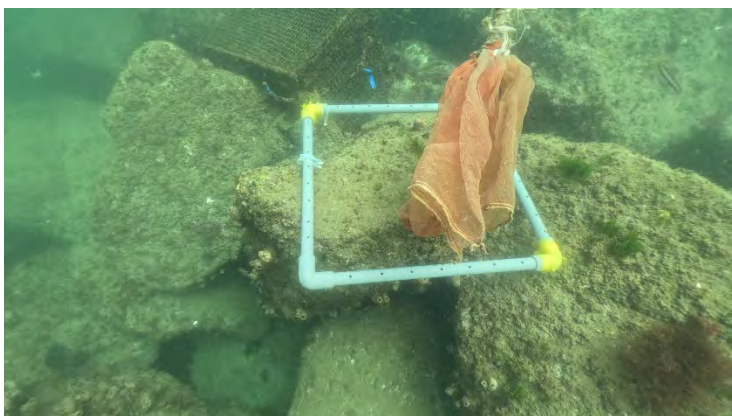
- 見られた生物

メジナ、メバル幼魚、キュウセン、ハコフグ、マダイ、ムラサキウニ

【水中の写真】



スポアバッグの様子



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アカモクの実生



ムラサキウニ

4. その他、特記事項

福岡市漁業協同組合 弘支所より依頼を受け、ウニ駆除活動も行った。

# 志賀島（弘）アカモク生育状況調査報告

令和7年7月21日（月）

## 1. 地点情報

調査地点: 志賀島（弘）

### 【地図】



GPS 座標: 33.684444, 130.288829

調査: 潜水調査およびアカモクの生育状況調査

天候: 晴れ

海況 波高: 1.0m

風速、風向: 12:00 北 4m

風速、風向: 13:00 北 4m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 06:11（170cm）、19:53（149cm）

干潮 13:16（34cm）

## 2. 潜水情報

調査員名: 智原、中島

エントリー時間: 12:05

エグジット時間: 12:40

最大水深: 5.8m

平均水深: 3.7m

水温: 25.5°C

透視度: 4.0m

### 3. 調査内容

- 目的

志賀島（明石）における造成したアカモクの生育状況調査

※2025年5月に自生のアカモクをスポアバッグに入れ、投下した造成場

- 所見

2cmほどに成長したアカモクの実生を約200株程度確認した。

- 見られた生物

アカモク、メバルの幼魚、キュウセン、ホンベラ、クロダイ

【水中の写真】



アカモクの生育状況

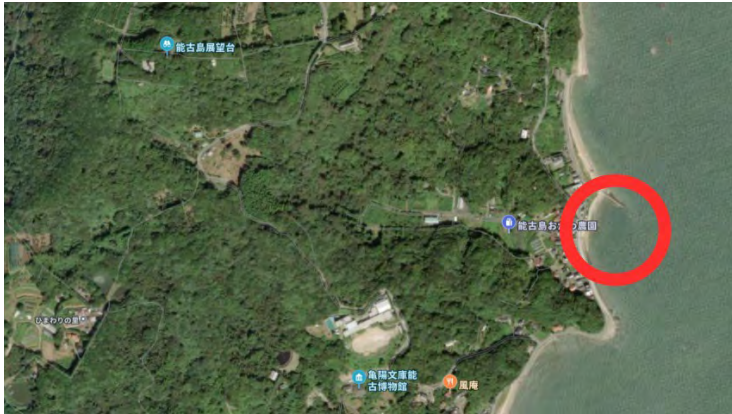
# 能古島（東側）アマモ場調査報告

令和7年7月22日（火）

## 1. 地点情報

調査地点:能古島（東側）

### 【地図】



GPS 座標:33. 617745, 130. 314098

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:11:00 東 1.0m

風速、風向:12:00 東 1.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 09:55 (217cm)、22:53 (191cm)

干潮 03:25 (89cm)、16:27 (26cm)

## 2. 潜水情報

調査員名:中島、古賀

エントリー時間:10:50

エグジット時間:11:20

最大水深:2.3m

平均水深:2.1m

水温:27.7℃

透視度:1.0m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島（東側）におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

水深 2m 地点から浅瀬 50cm に至るまでアマモが繁茂していた。

カミナリイカの産卵が見られ、産卵基質として機能していることが分かった。

底質が若干粘土質で締まりが良い。

- 見られた生物

アナアオサ、アマモ、カミナリイカ、タイワンガザミ

【水中の写真】



アマモの生育状況



カミナリイカの産卵



カミナリイカの卵



タイワンガザミ



底質調査の様子

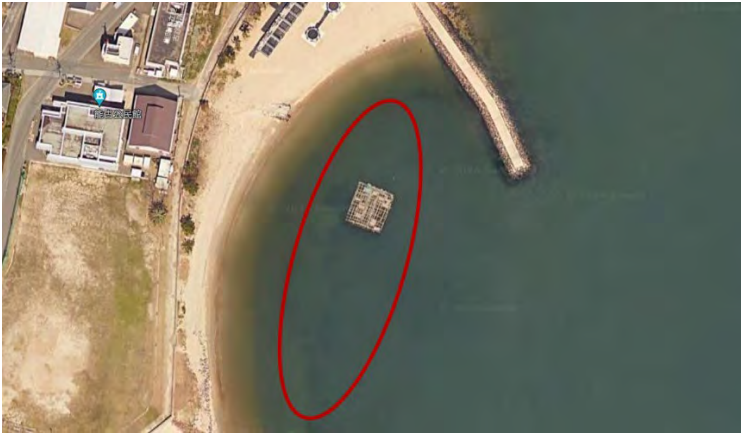
# 能古島（南側）アマモ場調査 および 環境 DNA 調査報告

令和7年7月22日（火）

## 1. 地点情報

調査地点:能古島（南側）

### 【地図】



GPS 座標:33.609597, 130.308784

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査、環境 DNA 調査の為の採水

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:10:00 東 1.0m

風速、風向:11:00 東 1.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 09:55 (217cm)、22:53 (191cm)

干潮 03:25 (89cm)、16:27 (26cm)

## 2. 潜水情報

調査員名:中島、古賀

エントリー時間:09:55

エグジット時間:10:20

最大水深:1.7m

平均水深:1.5m

水温:28.3℃

透視度:1.0m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島（南側）におけるアマモの生育状況調査。  
環境 DNA 調査の為の採水。

- 所見

アマモの生育を確認することができた。一方、アナアオサが大量発生しており、海底一帯が覆われている箇所も見られた。

- 見られた生物

アナアオサ、アマモ、スズキ

【水中の写真】



アマモの生育状況



アナアオサ



底質調査の様子

4. その他、特記事項

環境 DNA 調査については、連携している研究機関（一般財団法人 九州環境管理協会）からの結果報告を待っている状態である。（8月4日現在）

# 地行浜（東側）アマモ場調査及び環境 DNA 採水実施報告

令和 7 年 7 月 24 日（木）

## 1. 地点情報

調査地点:地行浜（東側）

### 【地図】



GPS 座標:33. 598440, 130. 360308

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査、環境 DNA 調査の為の採水

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:10:00 南南東 2m

風速、風向:11:00 南南東 2m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 09:00 (218cm)、22:08 (192cm)

干潮 15:52 (25cm)、02:56 (97cm)

## 2. 潜水情報

調査員名:智原、中島

エントリー時間:10:12

エグジット時間:11:03

最大水深:3.7m

平均水深:1.9m

水温:28.7℃

透視度:1.5m

### 3. 調査内容

- 目的

地行浜東側におけるアマモの生育状況調査。  
環境 DNA 調査の為の採水。

- 所見

5月8日に能古島から移植したアマモは多少腐泥の蓄積が確認されたが、生育を確認できた。

6月7日に能古島から移植した生分解性のポットを使用しているアマモは腐泥の蓄積が確認されたが、生育を確認できた。

- 見られた生物

アマモ、ウミサボテン、クサフグ、メジナ、アカエラミノウミウシ

- 測定したもの

アマモ:55cm

【水中の写真】



環境 DNA 調査の為の採水



5月8日に移植したアマモ



6月7日に移植したアマモ



アマモ測定の様子

# 室見川（中流）環境 DNA 調査報告

令和7年7月24日

## 1. 地点情報

- ・地点名:室見川（中流）

### 【地図】



天候:晴れ  
気温:32.0℃

### 【現場の環境写真】



採水地点の様子①



採水地点の様子②

2. 調査情報

- ・調査員名:古賀

3. 調査内容

- ・目的

室見川（中流）における生物の生息状況調査。  
環境 DNA 調査の為の採水。

4. その他、特記事項

環境 DNA 調査については、連携している研究機関（一般財団法人 九州環境管理協会）からの結果報告を待っている状態である。（8月4日現在）

# 室見川（河口）環境 DNA 調査報告

令和7年7月24日

## 1. 地点情報

- ・地点名:室見川（河口）

### 【地図】



天候:晴れ  
気温:32.0℃

### 【現場の環境写真】



採水地点の様子①



採水地点の様子②

2. 調査情報

- ・調査員名：古賀

3. 調査内容

- ・目的

室見川（河口）における生物の生息状況調査。  
環境 DNA 調査の為の採水。

#### 4. 調査結果

7月に実施した環境DNA調査の結果を下記に記す。

##### 【分類の意味】

##### ●海域

周年定住種:一年を通して藻場に定住する種。

季節定住種:産卵の時期や稚魚・幼魚期等、特定の時期だけ藻場に生息する種。

一次的来遊種:藻場に一時的に回遊してくる種。

##### ●淡水域

純淡水種:一生を淡水で過ごす種。

両側回遊種(狭義):川で産卵・孵化し、成長のため一時的に海へ下る種。

降海回遊種:海で生まれ、川で成長し、産卵のために再び海へ下る種。

汽水種:河口など淡水と海水が混じり合う箇所に生息する種。

一次的来遊種:河口に一時的に回遊してくる種。

2025/7/24 能古島（南側）		
科名	種名	リード値
トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ	34543
スズキ科	スズキ	12968
タイ科	クロダイ / ミナミクロダイ	8401
フグ科	クサフグ	7484
キス科	シロギス	5926
ヒイラギ科	ヒイラギ	2984
ウミヘビ科	ホタテウミヘビ	2179
ボラ科	ボラ	2159
スズキ科	ヒラスズキ	1469
ニシン科	サツパ	1270
カタクチイワシ科	カタクチイワシ	1125
ハゼ科	スジハゼ	1065
ニシン科	コノシロ	937
ハゼ科	モヨウハゼ	867
ハゼ科	ヒメハゼ	692
コチ科	マゴチ	525
シマイサキ科	シマイサキ	463
タイ科	キチヌ	429
サヨリ科	サヨリ	305
タウエガジ科	ダイナンギンポ	202
タイ科	ヘダイ	123
サバ科	マサバ	43
イソギンポ科	イダテンギンポ	15

	周年定住種
	季節定住種
	一時的来遊種

2025/7/24 志賀島（勝馬）		
科名	種名	リード値
フグ科	クサフグ	29162
スズキ科	スズキ	16320
ハゼ科	ドロメ	14490
アイナメ科	クジメ	4145
タウエガジ科	ダイナンギンポ	3277
ボラ科	ボラ	2604
タウエガジ科	ベニツケギンポ	2496
イソギンポ科	ホシギンポ	2392
へビギンポ科	へビギンポ	2267
ハゼ科	アゴハゼ	2140
ダツ科	オキザヨリ	1595
イソギンポ科	ニジギンポ	1395
キス科	シロギス	1184
タイ科	クロダイ / ミナミクロダイ	870
イソギンポ科	ナベカ	715
メバル科	カサゴ	635
ベラ科	ホンベラ	563
シマイサキ科	シマイサキ	417
トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ	262
トビウオ科	トビウオ類	260
メバル科	メバル属	235
アジ科	マルアジ	222
イソギンポ科	イソギンポ	216
エソ科	トカゲエソ	206
サヨリ科	サヨリ	167
アイゴ科	アイゴ	78
キビナゴ科	キビナゴ	74
トウゴロウイワシ科	ギンイソイワシ	67
カジカ科	アサヒアナハゼ	42
ハゼ科	アベハゼ	38
メジナ科	メジナ	32
ウミタナゴ科	ウミタナゴ/マタナゴ/アオタナゴ	27
ハゼ科	スミウキゴリ	25
カタクチイワシ科	カタクチイワシ	10

2025/7/24 地行浜（東側）		
科名	種名	リード値
カタクチイワシ科	カタクチイワシ	46251
フグ科	クサフグ	44617
ヒイラギ科	ヒイラギ	15158
スズキ科	スズキ	8781
ニシン科	マイワシ	6846
キス科	シロギス	6343
ボラ科	ボラ	3399
トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ	2922
イソギンポ科	イソギンポ	1624
タイ科	クロダイ / ミナミクロダイ	790
ハゼ科	ヒメハゼ	537
ハゼ科	マハゼ	461
ニシン科	コノシロ	290
シマイサキ科	シマイサキ	133
カレイ科	イシガレイ	106
ニベ科	シログチ	84

2025/7/24 室見川（河口）		
科名	種名	リード値
スズキ科	スズキ	17974
コイ科	オイカワ	13171
コイ科	カマツカ	7114
アユ科	アユ	6956
タイ科	クロダイ / ミナミクロダイ	6760
コイ科	フナ類（ギンブナ）	6599
ボラ科	ボラ	4491
ヒイラギ科	ヒイラギ	3440
フグ科	クサフグ	2987
ハゼ科	ゴクラクハゼ	2356
ハゼ科	ビリンゴ	2172
コイ科	イトモロコ	2059
コイ科	コイ（飼育型）	1930
ハゼ科	チチブ / ヌマチチブ	1556
コイ科	ゲンゴロウブナ	1335
ハゼ科	マハゼ	915
ハゼ科	シマヨシノボリ	899
コイ科	ムギツク	799
ハゼ科	オオヨシノボリ / トウヨシノボリ類	742
ハゼ科	アベハゼ	714
コイ科	ニゴイ / コウライニゴイ	538
イソギンポ科	イダテンギンポ	516
ドンコ科	ドンコ	493
スズキ科	ヒラスズキ	408
ウナギ科	ニホンウナギ	293
トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ	151
ハタ科	アオハタ	135

	純淡水種
	両側回遊種（狭義）
	降海回遊種
	汽水種
	一時的来遊種

2025/7/24 室見川 (中流)		
科名	種名	リード値
コイ科	オイカワ	14852
ハゼ科	オオヨシノボリ / トウヨシノボリ類	14307
コイ科	カマツカ	13094
コイ科	コイ (飼育型)	9527
コイ科	フナ類 (ギンブナ)	4557
コイ科	ムギツク	4175
コイ科	イトモロコ	3664
ハゼ科	シマヨシノボリ	3120
ドンコ科	ドンコ	2667
コイ科	タカハヤ	1771
カジカ科	カジカ	1579
コイ科	カワムツ	1573
アユ科	アユ	1486
コイ科	アブラボテ	745
ウナギ科	ニホンウナギ	523
ケツギョ科	オヤニラミ	368
ドジョウ科	ヤマトシマドジョウ	361
コイ科	モツゴ	249
ナマズ科	ナマズ	28

## 室見川（下流）水生生物調査報告

令和7年8月6日（水）

### 1. 地点情報

- ・地点名:室見川（下流）

#### 【地図】



GPS 座標:33.559323, 130.325802

天候:晴れ

気温:31.4℃

### 2. 調査情報

- ・調査員名:智原、古賀

### 3. 調査内容

- ・実施調査:たも網調査、投網調査、河川環境評価

- ・目的

室見川（下流）における水生生物の生息状況調査。

【現場の環境写真】






調査地点の様子①



調査地点の様子②

【採捕した水生生物一覧】

種名・分類群	採捕方法	写真	特記事項 (絶滅危惧等)
コイ目コイ科 ハス属 オイカワ	投網		福岡県レッドリスト 2024 で情報不足 (DD) ※在来系統のみ
コイ目 コイ科 カマツカ属 カマツカ	投網		
十脚目 テナガエビ科 テナガエビ属 テナガエビ	タモ網		両側回遊を行う

十脚目 イワガニ科 モクズガニ属 モクズガニ	タモ網		降海回遊を行う
---------------------------------	-----	--	---------

【河川環境評価】

	環境要素	良好な状態	評価	備考
①	低・中茎草地	氾濫原性の草本類がまとまって成立・維持	○	
②	河辺性の樹林・河畔林	水際部に木本が川面にせり出し、河川縦断方向に連続	△	
③	自然裸地	砂や礫で構成される開放的な砂洲・河原が洪水に伴う河川のかく乱によってまとまって維持	○	
④	外来植物生育地	外来植物が優占する空間が無いこと	×	
⑤	水生植物帯	湿地性の植物や抽水植物が河川縦断方向にまとまって成立・維持	○	
⑥	水際の自然度	自然の水際（土で被覆、植物が繁茂）の割合が高い	○	
⑦	水際の複雑さ	水際線が複雑に入り組んでおり、浅く緩やかな水際がある	○	
⑧	連続する瀬と淵	瀬と淵が交互に現れ、多様な水深流速の場が形成	×	瀬のみ確認
⑨	ワンド・たまり	本流とは別の止水域があり、洪水に伴う河川の氾濫で維持	○	
⑩	湛水域	人工構造物によって湛水域が生じていないこと	×	

## 室見川（中流）水生生物調査報告

令和7年8月6日（水）

### 1. 地点情報

- ・地点名:室見川（中流）

#### 【地図】



GPS 座標:33.541961, 130.324090

天候:晴れ

気温:31.4℃

### 2. 調査情報

- ・調査員名:智原、古賀

### 3. 調査内容

- ・実施調査:たも網調査、投網調査、河川環境評価
- ・目的  
室見川（中流）における水生生物の生息状況調査。

【現場の環境写真】






調査地点の様子①



調査地点の様子②

【採捕した水生生物一覧】

種名・分類群	採捕方法	写真	特記事項 (絶滅危惧等)
コイ目コイ科 ハス属 オイカワ	投網		福岡県レッドリスト 2024 で情報不足 (DD) ※在来系統のみ
キュウリウオ目 キュウリウオ科 アユ属 アユ	投網		福岡県レッドリスト 2024 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 両側回遊を行う
ダツ目 メダカ科 メダカ属 ミナミメダカ	タモ網		福岡県レッドリスト 2024 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

十脚目 テナガエビ科 テナガエビ属 テナガエビ	タモ網		両側回遊を行う
十脚目 イワガニ科 モクズガニ属 モクズガニ	タモ網		降海回遊を行う
無尾目 アカガエル科 アメリカアカガエル属 ウシガエル	タモ網		特定指定外来生物 生態系被害防止外来種リストにおける総合対策外来種のうち、重点対策外来種

### 【河川環境評価】

環境要素		良好な状態	評価	備考
①	低・中茎草地	氾濫原性の草本類がまとまって成立・維持	△	
②	河辺性の樹林・河畔林	水際部に木本が川面にせり出し、河川縦断方向に連続	×	
③	自然裸地	砂や礫で構成される開放的な砂洲・河原が洪水に伴う河川のかく乱によってまとまって維持	○	
④	外来植物生育地	外来植物が優占する空間が無いこと	△	オオカナダモが点在
⑤	水生植物帯	湿地性の植物や抽水植物が河川縦断方向にまとまって成立・維持	△	小規模な水生植物帯を確認
⑥	水際の自然度	自然の水際（土で被覆、植物が繁茂）の割合が高い	○	
⑦	水際の複雑さ	水際線が複雑に入り組んでおり、浅く緩やかな水際がある	○	
⑧	連続する瀬と淵	瀬と淵が交互に現れ、多様な水深流速の場が形成	×	瀬のみ確認
⑨	ワンド・たまり	本流とは別の止水域があり、洪水に伴う河川の氾濫で維持	×	
⑩	湛水域	人工構造物によって湛水域が生じていないこと	×	

# 志賀島（志賀）アマモの生育状況調査報告

令和7年8月19日（火）

## 1. 地点情報

調査地点: 志賀島（志賀）

### 【地図】



GPS 座標: 33.661000, 130.314997

調査: 潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候: 晴れ

海況 波高: 1.0m

風速、風向: 10:00 南南西 2.0m

風速、風向: 11:00 北 3.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 10:49 (201cm)、23:11 (187cm)

干潮 04:37 (37cm)、17:12 (21cm)

## 2. 潜水情報

調査員名: 智原、中島

エントリー時間: 10:54

エグジット時間: 11:23

最大水深: 1.9m

平均水深: 1.6m

水温: 31.5℃

透視度: 2.0m

### 3. 調査内容

- 目的

志賀島志賀におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

前回調査と同様にアマモの群生を確認した。

アマモの群落から数メートル離れた場所に新たに若いアマモの群落を確認した。

- 見られた生物

アカエイ、クサフグ、スズキ、アミメハギ、アカオビシマハゼ

- 測定したもの

アマモ 13cm～30cm

【水中の写真】



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモの測定の様子



底質調査の様子



アマモ場全体の様子



アマモ場の拡がり



アカオビシマハゼ



スズキ



海底ごみの回収

# 志賀島（明石）アカモク生育状況調査報告

令和7年8月19日（火）

## 1. 地点情報

調査地点：志賀島（明石）

### 【地図】



GPS 座標：33.675523, 130.288063

調査：潜水調査およびアカモクの生育状況調査

天候：晴れ

海況 波高：1.0m

風速、風向：12:00 北西 5m

風速、風向：13:00 北北西 5m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 10:49 (201cm)、23:11 (187cm)

干潮 04:37 (37cm)、17:12 (21cm)

## 2. 潜水情報

調査員名：智原、中島

エントリー時間：13:08

エグジット時間：13:51

最大水深：3.1m

平均水深：2.5m

水温：31.6℃

透視度：2.0m

### 3. 調査内容

- 目的

2025年5月に自生のアカモクをスポアバッグに入れ、種子を投下した造成場。

志賀島明石におけるアカモクの生育状況調査。

藻場保全のためのウニ駆除。

- 所見

2cm～5cmほどに成長したアカモクの実生を約200株確認した。

方形枠(0.5m×0.5m)の枠内で33株確認した。

中には食害にあったアカモクを確認した。

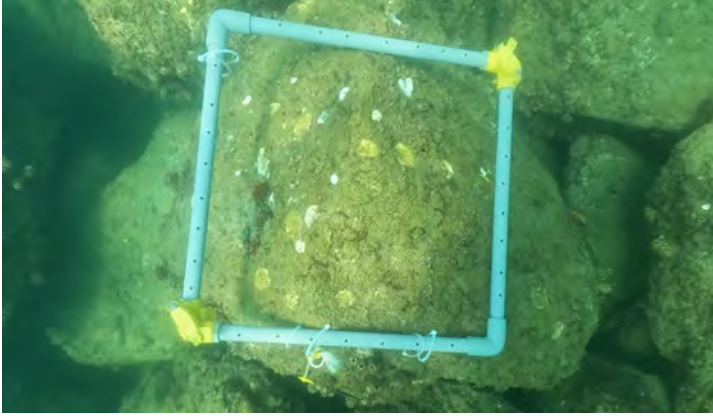
- 見られた生物

メジナ、メバル幼魚、キュウセン、マダイ、イワシ、イシダイ、ムラサキウニ

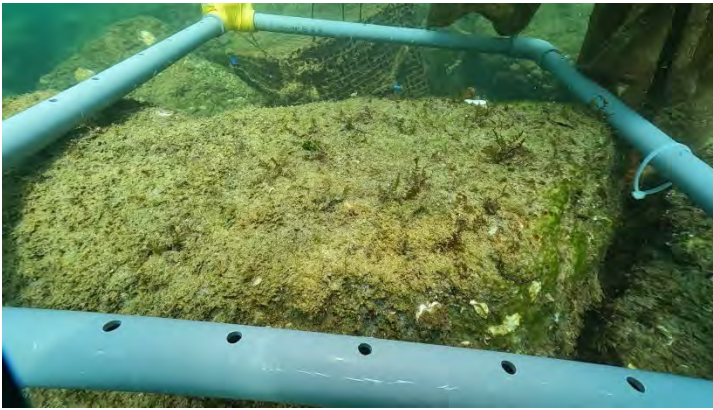
- 測定したもの

アカモク 2cm～5cm

【水中の写真】



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



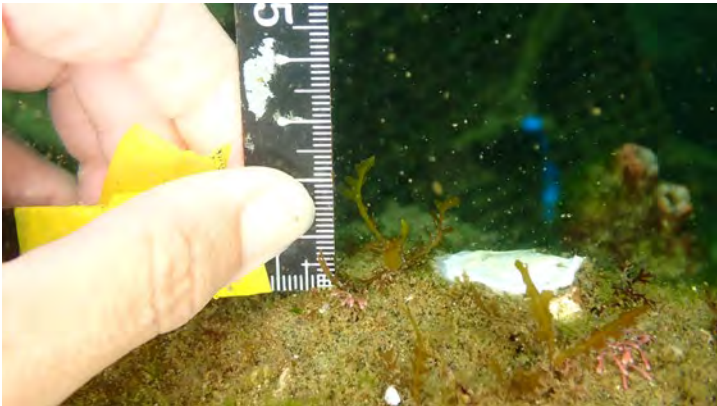
アカモク測定の様子



アカモクの実生



スポアバッグの様子



食害にあったアカモクの芽



ムラサキウニの駆除

## 地行浜（東側）アマモ場調査報告

令和7年8月21日（木）

### 1. 地点情報

調査地点:地行浜（東側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.598440, 130.360308

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:12:00 東南東 3m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 08:19 (189cm)、21:20 (168cm)

干潮 02:19 (84cm) 、15:10 (17cm)

### 2. 潜水情報

調査員名:中島、古賀

エントリー時間:10:39

エグジット時間:11:15

最大水深:3.0m

平均水深:2.3m

水温:29.5℃

透視度:1.5m

### 3. 調査内容

- 目的

地行浜東側におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

移植したアマモは衰退が見られた。自生のアマモは葉の長さが短くはなっていたが、先月と変わらず群生していることを確認した。

海底には大量のホトトギスガイの死骸やアオサをはじめとした一部の海藻類の繁茂を確認した。

- 見られた生物

アマモ、アオサ、タイラギ、ウミサボテン、コショウダイ、ホトトギスガイ

- 測定したもの

アマモ 28cm～38cm

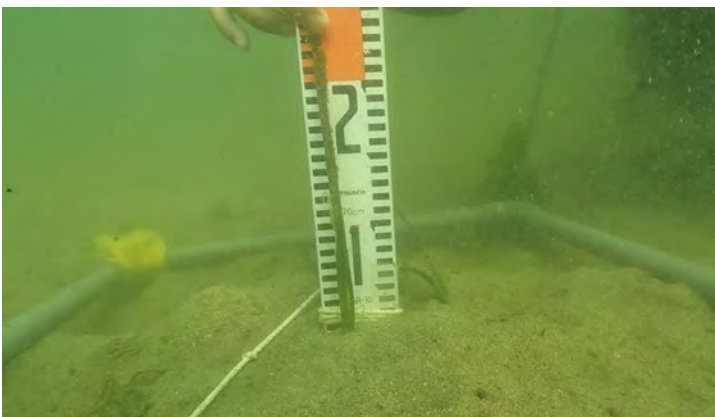
【水中の写真】



アマモ場の状況  
方形枠（0.5m×0.5m）の上から撮影



アマモ場の状況  
方形枠（0.5m×0.5m）の横から撮影



アマモ計測の様子



底質調査の様子



自生しているアマモの生育状況



ホトトギスガイの死骸



アナアオサ



タイラギ



コショウダイ



ウミサボテン

# 能古島（東側）アマモ場調査報告

令和7年8月26日（火）

## 1. 地点情報

調査地点:能古島（東側）

### 【地図】



GPS 座標:33.617745, 130.314098

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:11:00 北北西 3.6m

風速、風向:12:00 北北西 3.4m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 11:27 (204cm)、23:38 (196cm)

干潮 04:53 (64cm)、17:20 (58cm)

## 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀

エントリー時間:11:40

エグジット時間:12:29

最大水深:2.7m

平均水深:1.8m

水温:30.0℃

透視度:1.0m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島東側海域におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

海底を覆っていたアナアオサの減少を確認した。

南側のアマモの群落よりもアマモの葉の長さを保っていたことを確認した。

- 見られた生物

アナアオサ、アマモ、アミメハギ

- 測定したもの

アマモ 31cm～61cm

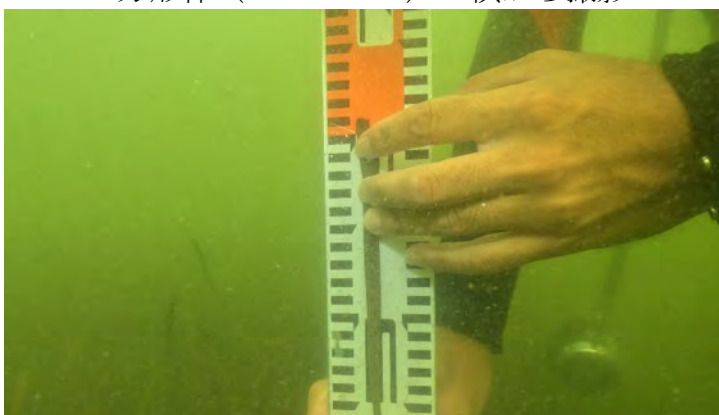
【水中の写真】



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモの計測の様子



底質調査の様子



アマモの生育状況



アマメハギ

## 能古島（南側）アマモ場調査報告

令和7年8月26日（火）

### 1. 地点情報

調査地点:能古島（南側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.609597, 130.308784

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:10:00 南南西 2.6m

風速、風向:11:00 北北西 3.6m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 11:27 (204cm)、23:38 (196cm)

干潮 04:53 (64cm)、17:20 (58cm)

### 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀

エントリー時間:10:30

エグジット時間:11:20

最大水深:1.6m

平均水深:1.2m

水温:33.0℃

透視度:1.0m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島南側におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

アマモの生育を多数確認することができた。例年通り、長さが17～28cmまで短くなっていたが、アミメハギやガザミといった主にアマモ場やその周辺に生息する海洋生物を確認した。

一方、前回と同様にアナアオサが大量発生しており、海底一帯が覆われている箇所を確認した。

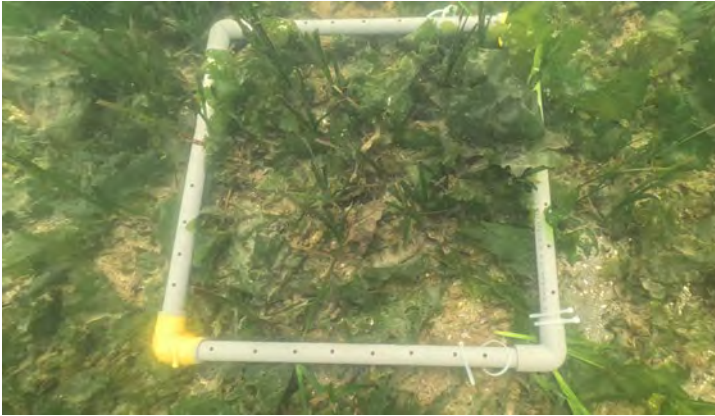
- 見られた生物

アマモ、アナアオサ、アミメハギ、コロダイ、アカオビシマハゼ、ガザミ、ヤドカリ

- 測定したもの

アマモ 17cm～28cm

【水中の写真】



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



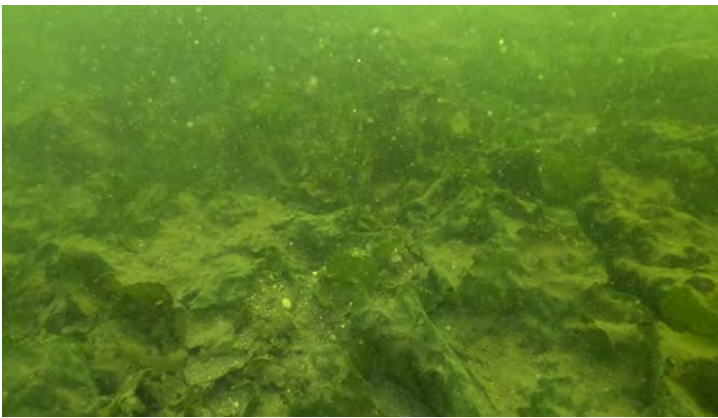
アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモ計測の様子



底質調査の様子



アナアオサ



コロダイ



アミメハギ



アカオビシマハゼ



ヤドカリ

## 瑞梅寺川（中流）水生生物調査報告

令和7年9月12日（金）

### 1. 地点情報

- ・地点名:瑞梅寺川（中流）

#### 【地図】



GPS 座標:33.554490, 130.234660

天候:曇り

気温:29.2℃

### 2. 調査情報

- ・調査員名:古賀、山崎

### 3. 調査内容

- ・実施調査:たも網調査、投網調査、河川ゴミ調査

- ・目的

瑞梅寺川（中流）における水生生物の生息状況調査。

瑞梅寺川（中流）における河川ゴミ調査

【現場の環境写真】



調査地点の様子①



調査地点の様子②



調査状況







底質の様子（礫質）



底質の様子（泥質）

【確認種一覧】

種名・分類群	採捕方法	写真	特記事項（絶滅危惧等）
コイ目コイ科 ハス属 オイカワ	投網		在来系統は福岡県レッドリスト2024で情報不足（DD）
コイ目コイ科 カワムツ属 カワムツ	投網		
コイ目コイ科 タモロコ属 タモロコ	投網		福岡県では国内外来種

コイ目 コイ カマツカ属 カマツカ	投網		
ダツ目メダカ科 メダカ属 ミナミメダカ	タモ網		福岡県レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) 環境省レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
オモダカ目 トチカガミ科 オオカナダモ属 オオカナダモ	目視		
ツユクサ目 ミズアオイ科 ホテイアオイ属 ホテイアオイ	目視		

ゴミ回収量:2.9kg (プラスチック類 2.5kg、缶類 0.4kg)

ゴミ内訳:プラスチック類 86% 缶類 14%

確認されたゴミ:肥料袋、食品類の袋、缶類



回収した河川ゴミ



回収したゴミの計量（プラスチック類）



プラスチック類計量結果（青タライ 500 g 分加算）



回収したゴミの計量（缶類）



缶類計量結果（青タライ 500 g 分加算）

## 瑞梅寺川（中流）水生生物調査報告

令和7年9月12日（金）

### 1. 地点情報

- ・地点名:瑞梅寺川（中流）

#### 【地図】



GPS 座標:33.560851, 130.232723

天候:曇り

気温:29.2℃

### 2. 調査情報

- ・調査員名:古賀、山崎

### 3. 調査内容

- ・実施調査:たも網調査、投網調査、河川ゴミ調査

- ・目的

瑞梅寺川（中流）における水生生物の生息状況調査。

瑞梅寺川（中流）における河川ゴミ調査

【現場の状況写真】



調査地点の様子①



調査地点の様子②



調査状況

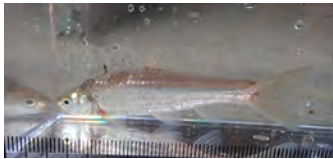




底質の様子（砂礫質）



底質の様子（泥質）

【確認種一覧】

種名・分類群	採捕方法	写真	特記事項（絶滅危惧等）
コイ目コイ科 タモロコ属 タモロコ	投網		福岡県では国内外来種
コイ目 コイ カマツカ属 カマツカ	投網		
ダツ目メダカ科 メダカ属 ミナミメダカ	タモ網		福岡県レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類（VU） 環境省レッドリスト 絶滅危惧Ⅱ類（VU）

スズキ目ドンコ科 ドンコ属 ドンコ	タモ網		
無尾目アカガエル科 アメリカアカガエル属 ウシガエル	タモ網		特定指定外来生物 生態系被害防止外来種リス トにおける総合対策外 来種のうち、重点対策外 来種
オモダカ目ヒルムシロ 科 ヒルムシロ属 エビモ	目視		
ユキノシタ目 アリノトウグサ科 フサモ属 オオフサモ	目視		特定外来生物 生態系被害防止外来種リス トにおける緊急対策外 来種

ゴミ回収量:1kg

ゴミ内訳:プラスチック類 100%

確認されたゴミ:タバコの吸い殻、糸島市指定ゴミ袋、肥料袋、食品類の袋



回収した河川ゴミ



河川ゴミ回収前



回収したゴミの計量



計量結果（青タライ 500 g 分加算）

# 能古島（東側）アマモ場調査報告

令和7年9月17日（水）

## 1. 地点情報

調査地点:能古島（東側）

### 【地図】



GPS 座標:33. 617745, 130. 314098

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:12:00 南 4.0m

風速、風向:15:00 西北西 3.7m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 06:14 (159cm)、19:55 (150cm)

干潮 00:22 (113cm)、13:13 (44cm)

## 2. 潜水情報

調査員名:智原、中島

エントリー時間:12:16

エグジット時間:12:26

最大水深:3.0m

平均水深:1.9m

水温:30.3℃

透視度:1.0m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島東側海域におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

前回同様アマモの生育を確認することができた。

水深の浅い場所は砂が動いているのか、アマモが砂に埋まっていた。

所々に底質が黒化している箇所がみられた。

アマモにはシルトが蓄積しており、横たわっているアマモが確認された。

- 見られた生物

アナアオサ、アマモ、アミメハギ、フレリトゲアメフラシ、クサフグ

- 測定したもの

アマモ 18cm～23cm

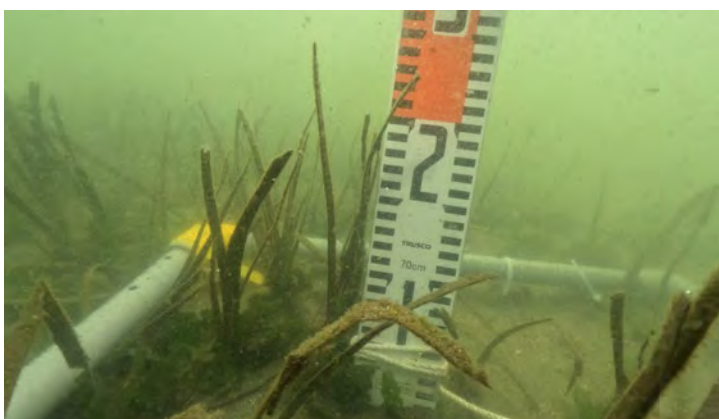
【水中の写真】



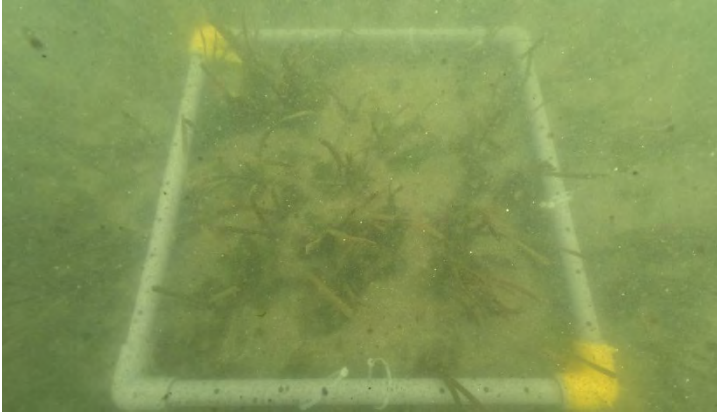
アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモの測定の様子



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



底質調査の様子



黒化した底質



アマモに蓄積したシルト



砂に埋まっているアマモ

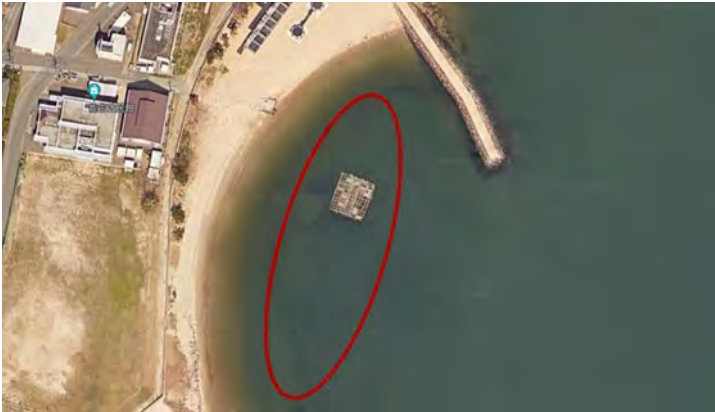
## 能古島（南側）アマモ場調査報告

令和7年9月17日（水）

### 1. 地点情報

調査地点:能古島（南側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.609597, 130.308784

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:12:00 南 4.0m

風速、風向:15:00 西北西 3.7m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 06:14（159cm）、19:55（150cm）

干潮 00:22（113cm）、13:13（44cm）

### 2. 潜水情報

調査員名:智原、中島

エントリー時間:10:51

エグジット時間:11:22

最大水深:1.8m

平均水深:1.2m

水温:31.2℃

透視度:1.0m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島南側におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

前回までアマモの生育を確認することができていた箇所に、アオサが大量発生しておりアマモの生育を確認することができなかった。昨年と同様の傾向であるため、地下茎が残存し冬頃に再び葉が出現する可能性は考えられる。

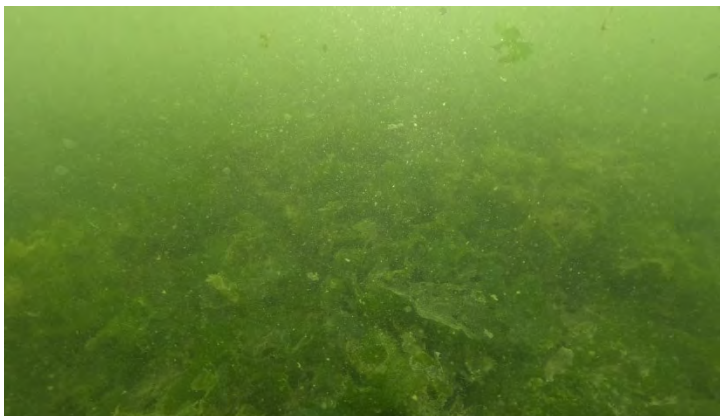
- 見られた生物

アナアオサ、アミメハギ、クロホシフエダイ、ガザミ、フレリトゲアメフラシ

【水中の写真】



底質調査の様子①



海底のアナアオサの様子



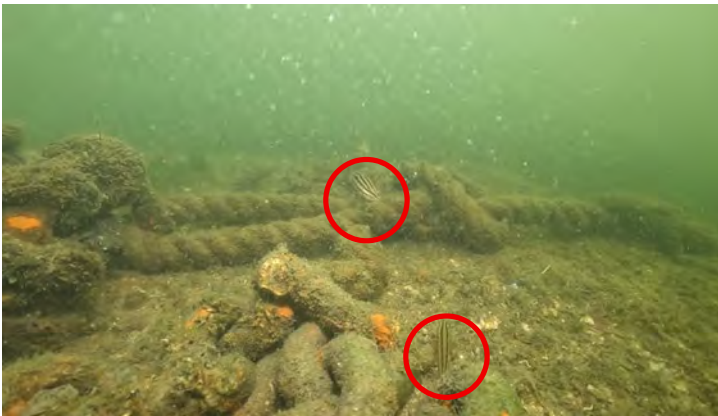
底質調査の様子②



海底一面のホトトギスガイ



アミメハギ



クロホシフエダイとアカオビシマハゼ



フレリトゲアメフラシ



ガザミ



前回調査でアマモの生息が確認された場所

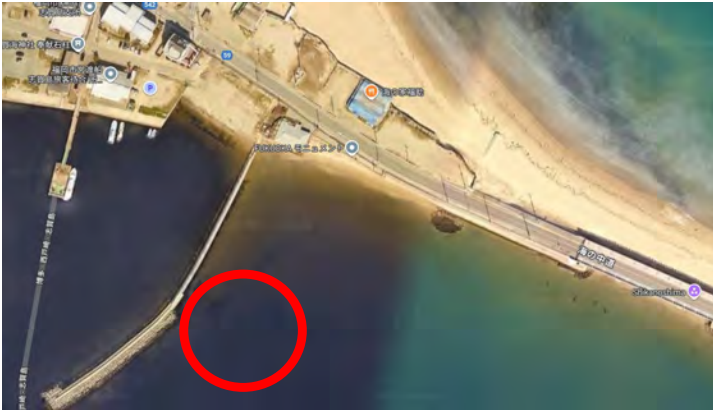
# 志賀島（志賀）アマモの生育状況調査報告

令和7年9月18日（木）

## 1. 地点情報

調査地点:志賀島（志賀）

### 【地図】



GPS 座標:33.661000, 130.314997

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:雨

海況 波高:1.0m

風速、風向:10:00 西 3.5m

風速、風向:12:00 北北東 4.6m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 07:00（174cm）、20:20（169cm）

干潮 01:20（107cm）、13:59（47cm）

## 2. 潜水情報

調査員名:中島、古賀

エントリー時間:10:45

エグジット時間:11:22

最大水深:1.6m

平均水深:1.5m

水温:28.4℃

透視度:2.0m

### 3. 調査内容

- 目的

志賀島志賀におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

前回の調査と同様にアマモの群生を確認した。前回より葉の長さが短くなっており、被度が低下していた。

- 見られた生物

アマモ、アミメハギ、ニジギンポ、トゲモミジガイ、サンショウウニ

- 測定したもの

アマモ 13cm～30cm

【水中の写真】



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモの測定の様子



底質調査の様子



トゲモミジガイ



サンショウウニ



アミメハギ



ニジギンポ

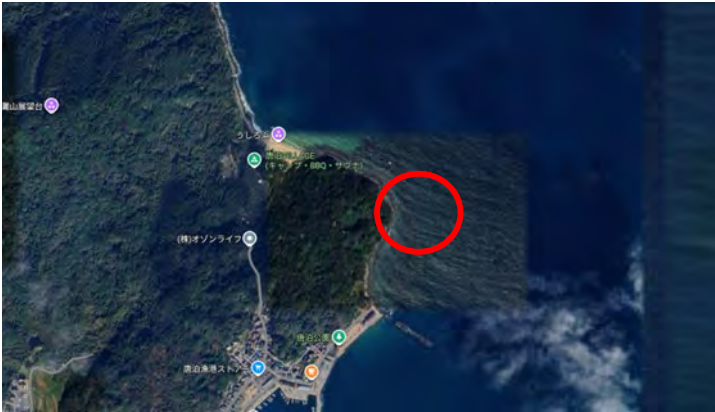
# 唐泊ウニ駆除調査報告

令和7年9月23日（火）

## 1. 地点情報

調査地点:唐泊海域

### 【地図】



GPS 座標:33.647869, 130.237178

調査:ウニ駆除

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:12:00 北北東 0.6m

風速、風向:15:00 北西 3.1m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 10:24 (210cm)、22:23 (213cm)

干潮 04:04 (46cm)、16:23 (54cm)

## 2. 潜水情報

調査員名:大神、中島、智原

エントリー時間:13:07

エグジット時間:13:57

最大水深:9.2m

平均水深:4.5m

水温:26.9℃

透視度:3.0m

### 3. 調査内容

- 目的

唐泊におけるウニ駆除。

- 所見

ムラサキウニは水深 2～4m の間で最も多くみられた。

潜水員 3 名で約 3000 個体駆除を行った。

- 見られた生物

ムラサキウニ、ホンベラ、キュウセン、スズメダイ、イサキ、マダコ、ミノカサゴ、ユウレイクラゲ

【水中の写真】



方形枠 (0.5m×0.5m) ウニ駆除前



方形枠 (0.5m×0.5m) ウニ駆除後



ウニ駆除後



ユウレイクラゲ



マダコ



イサキとスズメダイ

# 地行浜（東側）アマモ場調査報告

令和7年9月29日（月）

## 1. 地点情報

調査地点:地行浜（東側）

### 【地図】



GPS 座標:33.598440, 130.360308

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:10:00 北西 4m

風速、風向:11:00 北西 4m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 00:30（166cm）、14:20（121cm）

干潮 07:10（75cm）、18:29（106cm）

## 2. 潜水情報

調査員名:中島、古賀

エントリー時間:10:10

エグジット時間:11:00

最大水深:2.4m

平均水深:1.6m

水温:27.0℃

透視度:1.5m

### 3. 調査内容

- 目的

地行浜東側におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

前回までアマモの生育を確認することができていた箇所にアマモの生育を確認することができなかった。また、地下茎が残っているか搜索したが確認できなかった。昨年と同様の傾向であるため、地下茎が残存し冬頃に再び葉が出現する可能性は考えられる。

- 見られた生物

アナアオサ、タイラギ、ホトトギスガイ、アカエイ、トサカギンポ、クロギンポ、カタクチイワシ、マハゼ、ガザミ

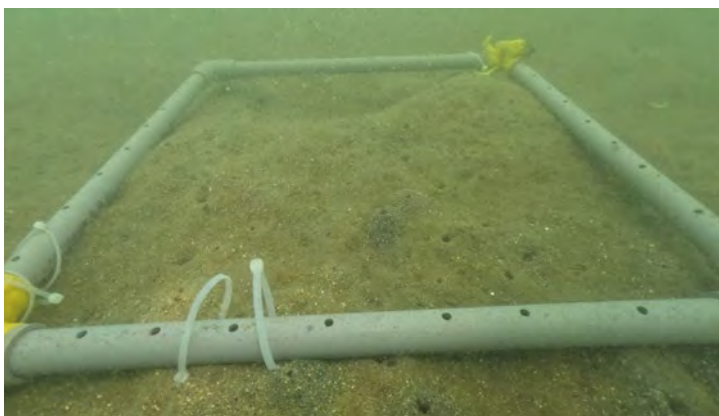
- 測定したもの

なし

【水中の写真】



方形枠 (0.5m×0.5m) 上から



方形枠 (0.5m×0.5m) 横から



底質調査の様子



トサカギンポ



シマイサキ



マハゼ



アナアオサ



ガザミ

# 志賀島（弘）アカモク生育状況調査報告

令和7年10月2日（木）

## 1. 地点情報

調査地点:志賀島（弘）

### 【地図】



GPS 座標:33.684444, 130.288829

調査:潜水調査およびアカモクの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:2m

風速、風向:11:00 北 4.9m

風速、風向:12:00 北 4.6m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 05:09（155cm）、19:33（154cm）

干潮 12:47（77cm）

## 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀

エントリー時間:11:30

エグジット時間:12:19

最大水深:5.9m

平均水深:5.2m

水温:26.0℃

透視度:3.5m

### 3. 調査内容

- 目的

2025年5月に自生のアカモクをスポアバッグに入れ、種子を投下した造成場である志賀島弘におけるアカモクの生育状況調査。

- 所見

方形枠（0.5m×0.5m）の枠内に66株のアカモクの芽を確認した。順調に生育しており、特に食害を受けている様子も無かった。

- 見られた生物

アカモク、クロサギ、コロダイ、サビハゼ、クツワハゼ、ネンブツダイ、ソラスズメダイ、メジナ、ムラサキウニ

- 測定したもの

アカモク 3cm～4cm

【水中の写真】



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アカモクの測定の様子



アカモクの生育状況



クロサギ



ネンブツダイ



サビハゼ



クツワハゼ



ソラスズメダイ



メジナ



コロダイ



ムラサキウニ

# 志賀島（明石）アカモク生育状況調査報告

令和7年10月2日（木）

## 1. 地点情報

調査地点：志賀島（明石）

### 【地図】



GPS 座標：33.675523, 130.288063

調査：潜水調査およびアカモクの生育状況調査

天候：晴れ

海況 波高：2m

風速、風向：13:00 北東 3.4m

風速、風向：14:00 北 3.2m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 05:09（155cm）、19:33（154cm）

干潮 12:47（77cm）

## 2. 潜水情報

調査員名：智原、古賀

エントリー時間：13:20

エグジット時間：13:56

最大水深：3.6m

平均水深：2.8m

水温：27.0℃

透視度：2.0m

### 3. 調査内容

- 目的

2025年5月に自生のアカモクをスポアバッグに入れ、種子を投下した造成場である志賀島明石におけるアカモクの生育状況調査。  
藻場保全のためのウニ駆除。

- 所見

方形枠（0.5m×0.5m）の枠内に1株のアカモクの芽を確認した。周辺にはアカモクの芽は確認されなかった。藻食性の生物に食害を受け、株数が激減したと思われる。

- 見られた生物

アカモク、キュウセン、ヒゲダイ、イシダイ、カワハギ、コロダイ、クサフグ、アミメハギ、ムラサキウニ

- 測定

アカモク 1cm

【水中の写真】



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アカモク計測の様子



アカモクの生育状況



ムラサキウニの駆除の様子



キュウセン



コロダイ



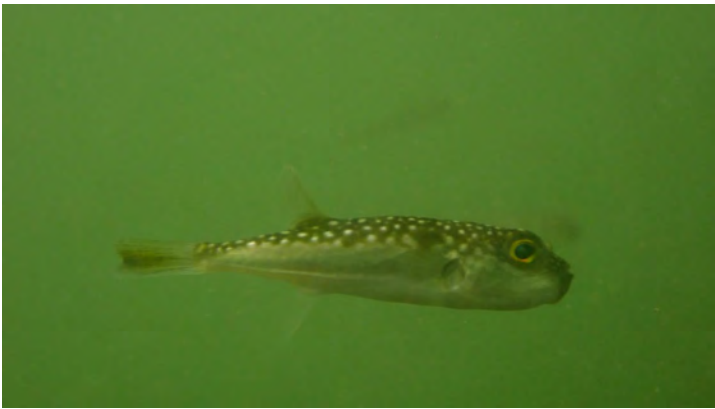
イシダイ



クツワハゼ



ニジギンポ



クサフグ

## 地行浜（東側）アマモ場調査報告

令和7年10月14日（火）

### 1. 地点情報

調査地点:地行浜（東側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.598440, 130.360308

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:10:00 南 2m

風速、風向:11:00 西 4m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 01:59（160cm）、17:30（128cm）

干潮 10:20（58cm）、22:00（118cm）

### 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀

エントリー時間:10:30

エグジット時間:11:30

最大水深:1.5m

平均水深:1.0m

水温:27.0°C

透視度:1.0m

### 3. 調査内容

- 目的

地行浜東側におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

前回同様、アマモの生育及び地下茎の残存を確認することができなかった。昨年と同様の傾向であるため、地下茎が残存し冬頃に再び葉が出現する可能性は考えられる。

- 見られた生物

アナアオサ、ウミサボテン、ガザミ、ホトトギスガイ、マハゼ

【水中の写真】



底質調査の様子



地下茎搜索の様子



アナアオサ



ウミサボテン



ホトトギスガイ



マハゼ



ガザミ

# 能古島（東側）アマモ場調査報告

令和7年10月16日（木）

## 1. 地点情報

調査地点:能古島（東側）

### 【地図】



GPS 座標:33. 617745, 130. 314098

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:12:00 南西 4.0m

風速、風向:13:00 南西 4.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 06:00 (155cm)、19:29 (150cm)

干潮 00:10 (105cm)、12:59 (52cm)

## 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀

エントリー時間:12:30

エグジット時間:13:00

最大水深:2.1m

平均水深:1.7m

水温:26.0℃

透視度:1.0m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島（東側）におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

前回同様アマモの生育を確認することができたが、葉はさらに短くなり、確認した全ての株が 10cm 以下となっていた。

- 見られた生物

アナアオサ、アマモ、アミメハギ、ツメタガイ、クロホシフエダイ

- 測定したもの

アマモ 1cm～8cm

【水中の写真】



アマモ場の状況  
方形枠（0.5m×0.5m）の上から撮影



アマモ場の状況  
方形枠（0.5m×0.5m）の横から撮影



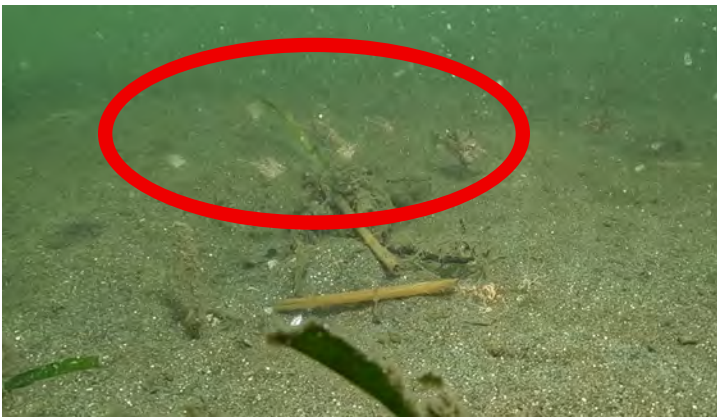
アマモの測定の様子



アマモの生育状況



底質調査の様子



アミメハギ



ツメタガイ



クロホシフエダイ

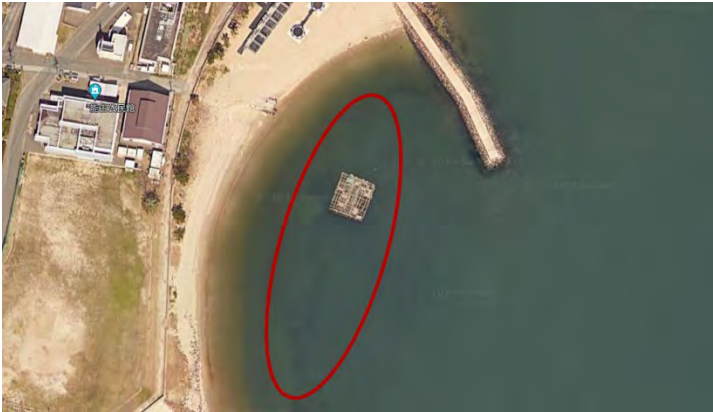
## 能古島（南側）アマモ場調査報告

令和7年10月16日（木）

### 1. 地点情報

調査地点:能古島（南側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.609597, 130.308784

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:10:00 南西 4.0m

風速、風向:11:00 南西 4.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 06:00（155cm）、19:29（150cm）

干潮 00:10（105cm）、12:59（52cm）

### 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀

エントリー時間:10:30

エグジット時間:11:30

最大水深:1.6m

平均水深:1.3m

水温:26.0℃

透視度:1.0m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島南側におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

前回と同様、アマモの生育を確認することができなかったが、地下茎を2本確認することができた。前回はアナアオサが海底を覆いつくしていたが、今回の調査では激減しており、散見される程度であった。

- 見られた生物

アマモ、アナアオサ、ホトトギスガイ

【水中の写真】



底質調査の様子



地下茎搜索の様子



アマモの地下茎



海底一面のホトトギスガイ

# 環境 DNA 調査報告書

令和 7 年 10 月 24 日 (金)

## 1. 地点情報

調査地点: 室見川 (中流)、室見川 (河口)、地行浜 (東側)、能古島 (南側)、志賀島 (勝馬)

### 【地図】



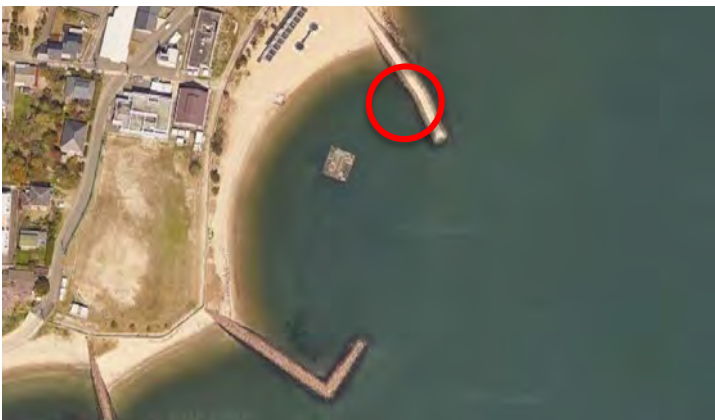
GPS 座標: 33. 529755, 130. 321973 室見川 (中流)



GPS 座標: 33. 583686, 130. 340113 室見川 (河口)



GPS 座標: 33. 598552, 130. 360675 地行浜 (東側)



GPS 座標: 33. 609690, 130. 309231 能古島 (南側)



GPS 座標: 33. 687431, 130. 290795 志賀島 (勝馬)

・当日天気: 晴れ 気温: 20.0°C

2. 調査内容  
環境 DNA 採水

### 3. 調査結果

10月に実施した環境DNA調査の結果を下記に記す。

#### 【分類の意味】

##### ●海域

周年定住種:一年を通して藻場に定住する種。

季節定住種:産卵の時期や稚魚・幼魚期等、特定の時期だけ藻場に生息する種。

一次的来遊種:藻場に一時的に回遊してくる種。

##### ●淡水域

純淡水種:一生を淡水で過ごす種。

両側回遊種(狭義):川で産卵・孵化し、成長のため一時的に海へ下る種。

降海回遊種:海で生まれ、川で成長し、産卵のために再び海へ下る種。

汽水種:河口など淡水と海水が混じり合う箇所に生息する種。

一次的来遊種:河口に一時的に回遊してくる種。

##### ・所見

室見川(中流)では純淡水種が多く検出されたが両側回遊種(狭義)であるオオヨシノボリ/トウヨシノボリが多く検出された。

室見川(河口)では全体的に一時的来遊種と汽水種が多く検出された。今回の環境DNA採水は上げ潮の時に実施したためと考えられる。

一方で一時的来遊種と汽水種の中でアユが多く検出された。10月下旬はアユの産卵期であり、産卵のために河川を流下したことで多く検出されたと考えられる。

地行浜(東側)ではクロダイ/ミナミクロダイのリード値が突出して高く、周辺の藻場がこれらの種の重要な生息拠点となっていると考えられる。また、イダテンギンポなどの周年定住種も多く検出された。

志賀島(勝馬)ではアイゴが多く検出されたほか、唯一南方種であるクロホシマンジュウダイが検出されており、外洋の潮の影響を強く受けていると考えられる。

能古島(南側)ではヒイラギが最も多く検出された。サッパやカタクチイワシといった浮魚類も多く検出されており、能古島周辺が回遊魚の通り道や一時的な滞留場所として機能していると考えられる。

【現場の記録写真】



室見川（金武中学校横）の様子



室見川（金武中学校横）の検体



室見川（河口）の様子



室見川（河口）の検体



地行浜（東側）の様子



地行浜（東側）の検体



能古島（南側）の様子



能古島（南側）の検体








志賀島（勝馬）の様子



志賀島（勝馬）の検体

2025/10/24 室見川（中流）		
科名	種名	リード値
コイ科	オイカワ	61125
ドンコ科	ドンコ	24800
ハゼ科	オオヨシノボリ / トウヨシノボリ類	17827
コイ科	カマツカ	16350
コイ科	イトモロコ	12825
コイ科	ムギツク	9346
コイ科	カワムツ	8432
コイ科	フナ属	5188
コイ科	コイ（飼育型）	3100
コイ科	タカハヤ	2978
ハゼ科	シマヨシノボリ	2454
アユ科	アユ	2356
カジカ科	カジカ	2091
ドジョウ科	ヤマトシマドジョウ	971
ウナギ科	ニホンウナギ	966
フグ科	クサフグ	437
ナマズ科	ナマズ	233
ヤツメウナギ科	ミナミスナヤツメ	165
メダカ科	ミナミメダカ	119
コイ科	モツゴ	116
コイ科	アブラボテ	92
コイ科	タモロコ / ホンモロコ	80

	純淡水種
	両側回遊種（狭義）
	降海回遊種
	汽水種
	一時的来遊種

2025/10/24 室見川 (河口)		
科名	種名	リード値
ヒイラギ科	ヒイラギ	74010
タイ科	クロダイ / ミナミクロダイ	30984
フグ科	クサフグ	27784
ボラ科	ボラ	15268
スズキ科	スズキ	9947
アユ科	アユ	9240
ニシン科	サッパ	8687
カタクチイワシ科	カタクチイワシ	6786
ニシン科	コノシロ	4552
コイ科	オイカワ	3621
ハゼ科	マハゼ	3175
コチ科	マゴチ	2543
コイ科	カマツカ	2112
コイ科	フナ属	2026
サバ科	サワラ	1185
タイ科	キチヌ	789
コイ科	コイ (飼育型)	764
ドンコ科	ドンコ	592
ネズッコ科	ネズミゴチ / ヌメリゴチ	543
ハゼ科	ヒモハゼ	500
コイ科	カワムツ	434
ハゼ科	ヒメハゼ	331
ニベ科	シログチ	248
コイ科	イトモロコ	213
ハゼ科	アカオビシマハゼ	114
トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ	22
ナマズ科	ナマズ	17
ハゼ科	アシシロハゼ	9

2025/10/24 地行浜（東側）		
科名	種名	リード値
タイ科	クロダイ / ミナミクロダイ	96591
イソギンポ科	イダテンギンポ	30851
ヒイラギ科	ヒイラギ	24081
アイゴ科	アイゴ	11069
イソギンポ科	トサカギンポ	5503
ハゼ科	マハゼ	4410
ニシン科	サッパ	4123
カタクチイワシ科	カタクチイワシ	3256
シマイサキ科	シマイサキ	2878
ハゼ科	ツマグロスジハゼ	2449
ボラ科	ボラ	2009
タイ科	キチヌ	1649
キス科	シロギス	1161
ハゼ科	ウロハゼ	995
ウミタナゴ科	ウミタナゴ/マタナゴ/アオタナゴ	964
ニシン科	コノシロ	590
スズキ科	スズキ	390
ハゼ科	ヒメハゼ	295
ハゼ科	アカオビシマハゼ	250

	周年定住種
	季節定住種
	一時的来遊種

2025/10/24 能古島（南側）		
科名	種名	リード値
ヒイラギ科	ヒイラギ	56696
タイ科	クロダイ / ミナミクロダイ	22016
ニシン科	サッパ	18375
フグ科	ショウサイフグ / ゴマフグ	11506
キス科	シロギス	7896
ハゼ科	アカオビシマハゼ	6971
スズキ科	スズキ	4845
メジナ科	メジナ	3450
ボラ科	ボラ	2767
カタクチイワシ科	カタクチイワシ	1844
イソギンポ科	イソギンポ	1822
イソギンポ科	イダテンギンポ	1133
ハゼ科	モヨウハゼ	1048
タウエガジ科	ダイナンギンポ	518

	周年定住種
	季節定住種
	一時的来遊種

2025/10/24 志賀島 (勝馬)		
科名	種名	リード値
フグ科	クサフグ	35234
アイゴ科	アイゴ	21666
ハゼ科	ドロメ	15113
タイ科	クロダイ / ミナミクロダイ	10947
トウゴロウイワシ科	トウゴロウイワシ	5329
ボラ科	ボラ	4552
イソギンポ科	ホシギンポ	4300
タイ科	ヘダイ	3426
ハタ科	クエ	2959
ヘビギンポ科	ヘビギンポ	2015
タウエガジ科	ダイナンギンポ	1998
クロホシマンジュウダイ科	クロホシマンジュウダイ	1847
イソギンポ科	カエルウオ	1362
スズキ科	スズキ	1318
メジナ科	メジナ	1174
イサキ科	コショウダイ	921
シマイサキ科	シマイサキ	855
ゴンズイ科	ゴンズイ	842
ハゼ科	セジロハゼ	766
スズキ科	ヒラスズキ	762
キビナゴ科	キビナゴ	761
メバル科	カサゴ	740
メジナ科	クロメジナ	715
キス科	シロギス	564
ベラ科	ホンベラ	506
タウエガジ科	ベニツケギンポ	441
ベラ科	キュウセン	419
ヒラメ科	ヒラメ	417
ウミタナゴ科	ウミタナゴ/マタナゴ/アオタナゴ	398
イソギンポ科	イダテンギンポ	318
カワハギ科	カワハギ	308
フエフキダイ科	ハマフエフキ	263
メバル科	メバル属	171
タカノハダイ科	タカノハダイ	167
ハゼ科	スジハゼ	165

カワハギ科	アミメハギ	132
ベラ科	ホシササノハベラ	99
ヘビギンポ科	アカヘビギンポ	93
ハゼ科	アカオビシマハゼ	26
ハゼ科	イソミミズハゼ	23
ハダカイワシ科	ハダカイワシ属	19
イソギンポ科	イソギンポ	14

## 志賀島（明石）アカモク調査報告

令和7年11月11日（火）

### 1. 地点情報

調査地点：志賀島（明石）

#### 【地図】



GPS 座標：33.675523, 130.288063

調査：潜水調査およびアカモク生育状況調査

天候：晴れ

海況 波高：1.0m

風速、風向：12:00 北 1.0m

風速、風向：13:00 北 4.5m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 06:52 (170cm)、19:36 (176cm)

干潮 00:51 (74cm) 、13:05 (56cm)

### 2. 潜水情報

調査員名：智原、山崎

エントリー時間：11:52

エグジット時間：12:18

最大水深：4.1m

平均水深：2.7m

水温：21.0℃

透視度：5.0m

### 3. 調査内容

#### ・目的

2025年5月に自生のアカモクをスポアバッグに入れ、種子を投下した造成場。

志賀島明石におけるアカモクの生育状況調査。

藻場保全のためのウニ駆除。

#### ・所見

2cm程度に成長したアカモクの芽を、1株だけ確認することができた。

造成場周辺ではムラサキウニは観測されなかった一方、アイゴやメジナ等の雑食性魚類が多く観測され、アカモクの芽を好んで摂食していたと考えられる。

造成場近くに落ちていたかご網内部にもアカモクの芽が確認された。かご網によって雑食性魚類の食害を免れたと考えられる。

#### ・見られた生物

アカモク、アイゴ、ミナミハタンポ、キュウセン、ムラサキウニ、クロサギ、ホンベラ、シマイサキ、タカノハダイ、オヤビッチャ、ウミタナゴ、メジナ

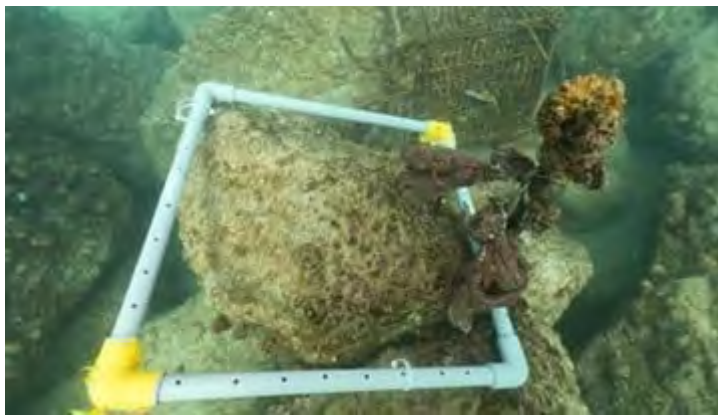
#### ・測定したもの

アカモク 2～3cm

【水中の写真】



スポアバッグの様子



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アカモクの測定の様子



アカモクの生育状況



かご網内部のアカモクの芽



食害を受けたアカモクの芽



ウミタナゴとアイゴ



方形枠 (0.5m×0.5m) 内のムラサキウニ駆除前



方形枠 (0.5m×0.5m) 内のムラサキウニ駆除後

## 能古島（東側）アマモ場調査報告

令和7年11月13日（木）

### 1. 地点情報

調査地点:能古島（東側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.617745, 130.314098

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:13:00 北 4.0m

風速、風向:14:00 北 4.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 03:30 (148cm)、17:39 (137cm)

干潮 10:59 (61cm)、23:29 (94cm)

### 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀、松本

エントリー時間:13:24

エグジット時間:13:55

最大水深:1.6m

平均水深:1.5m

水温:19.1℃

透視度:1.5m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島東側海域におけるアマモの生育状況調査。

- 所見

前回の調査時のアマモは葉の長さが 10cm 以下となっていたが、今回の調査では最大 32cm にまで伸長していた。古い葉が朽ちて、新しい葉が伸長している株が多く確認された。

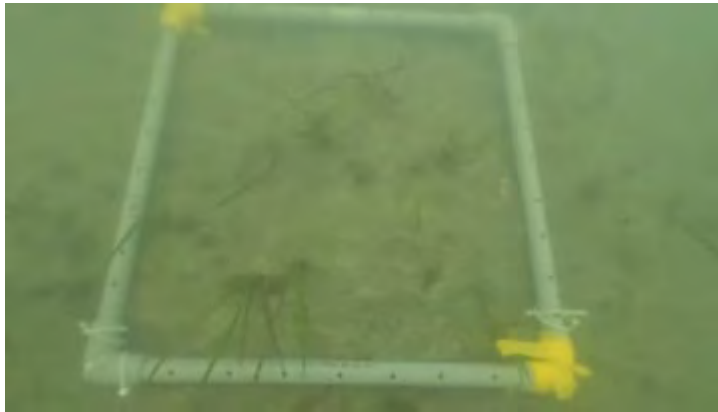
- 見られた生物

アマモ、ガザミ

- 測定したもの

アマモ 11cm～32cm

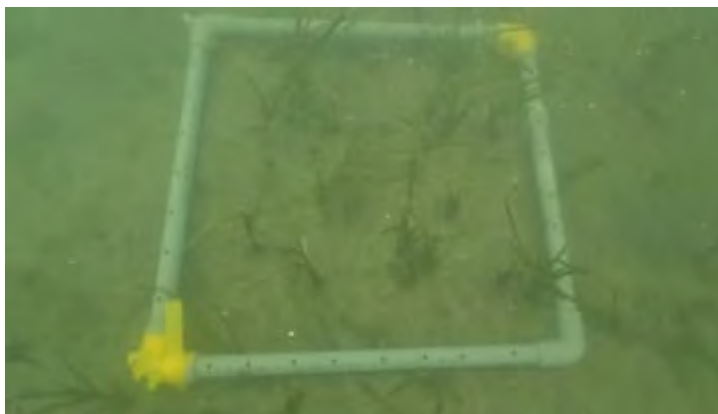
【水中の写真】



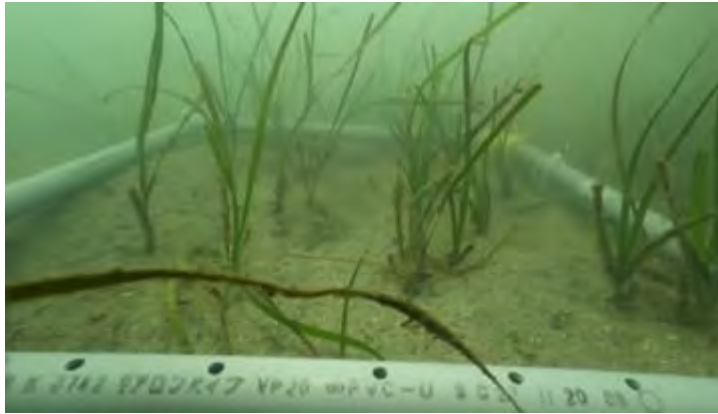
アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠（0.5m×0.5m）の横から撮影



底質調査の様子



アマモの測定の様子



アマモの生育状況



朽ちている古い葉と新しい葉

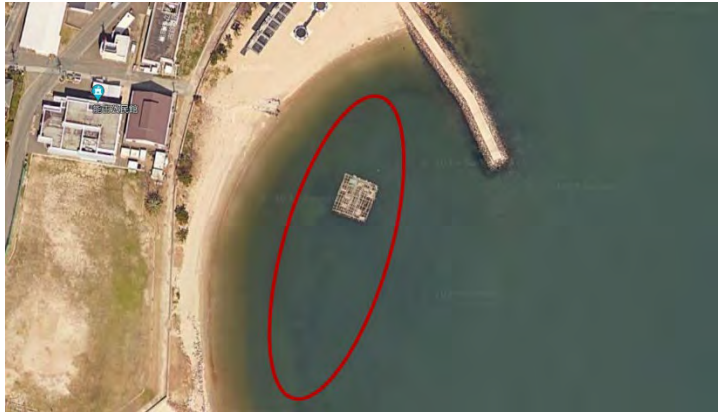
## 能古島（南側）アマモ場調査報告

令和7年11月13日（木）

### 1. 地点情報

調査地点:能古島（南側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.609597, 130.308784

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:11:00 北 4.0m

風速、風向:12:00 北 4.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 03:30 (148cm)、17:39 (137cm)

干潮 10:59 (61cm)、23:29 (94cm)

### 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀、松本

エントリー時間:11:00

エグジット時間:12:00

最大水深:1.6m

平均水深:1.2m

水温:19.0℃

透視度:2.0m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島南側におけるアマモの生育状況調査。  
海底ごみの回収

- 所見

前回と同様、アマモの生育を確認することができなかったが、地下茎を4本確認することができた。しかし、発見した地下茎は地中ではなく地表面にでていたものであり、どれも黒く変色し、中が空洞になっていた。このことから、今回発見した地下茎は枯死したあるいは枯死寸前のものと考えられる。地中の地下茎は発見することができなかった

- 見られた生物

ホトトギスガイ、アカオビシマハゼ、トゲモミジガイ、タイワンガザミ

【水中の写真】



底質調査の様子



地下茎搜索の様子



アマモの地下茎



アカオビシマハゼ



トゲモミジガイ



タイワンガザミ



海底ごみの回収（ビニール袋）



海底ごみの回収（ライター）

## 志賀島（志賀）アマモの生育状況調査報告

令和7年11月19日（水）

### 1. 地点情報

調査地点：志賀島（志賀）

#### 【地図】



GPS 座標：33.660919, 130.314945

調査：潜水調査およびアマモ、サンショウウニの状況調査

天候：曇り

海況 波高：1.0m

風速、風向：12:00 北西 4.0m

風速、風向：13:00 北西 4.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 09:10（179cm）、20:59（194cm）

干潮 02:49（19cm）、14:59（58cm）

### 2. 潜水情報

調査員名：中島、古賀

側線①

エントリー時間：12:54

エグジット時間：13:14

最大水深：1.9m

平均水深：1.7m

水温：18.0℃

透視度：2.0m

側線②

エントリー時間：13:49

エグジット時間：14:09

最大水深：1.8m

平均水深：1.5m

水温：18.0℃

透視度:2.0m

### 3. 調査内容

#### ・目的

アマモの生育状況調査およびサンショウウニの個体数、密度の測定をライントランセクト法、方形枠(0.5×0.5m)を用いて行った。側線はアマモ場の周辺かつサンショウウニが多数生息していることを基準に選定した。

#### ・所見

側線①では1㎡あたり平均45個体確認され、アマモの被度は全地点で0であった。側線②では平均15個体確認され、アマモの被度は10m地点と25m地点で被度1、15m地点と20m地点で被度2、5m、30m、35m、40m地点で被度0であった。

側線①では50個体/㎡に近く高密度から過密状態といえ、食害やアマモ場が衰退するリスクが高いと言える。現に側線①上にはかつてアマモ場が広がっていたが、今回の調査ではアマモ場が消失していた。アマモ場の消失とサンショウウニとの関連は今後調査していく必要がある。

また漁業者の協力のもとサンショウウニの中を確認したところアマモを摂食していることが確認された。

#### ・見られた生物

アマモ、サンショウウニ

#### ・測定したもの

アマモ 20~30cm

### サンショウウニの個体数

#### 側線①

5m	11個体	アマモ被度:0
10m	8個体	アマモ被度:0
15m	9個体	アマモ被度:0
20m	16個体	アマモ被度:0
25m	14個体	アマモ被度:0
30m	22個体	アマモ被度:0
35m	30個体	アマモ被度:0
40m	10個体	アマモ被度:0

0.25平方メートル

平均15個体

#### 側線②

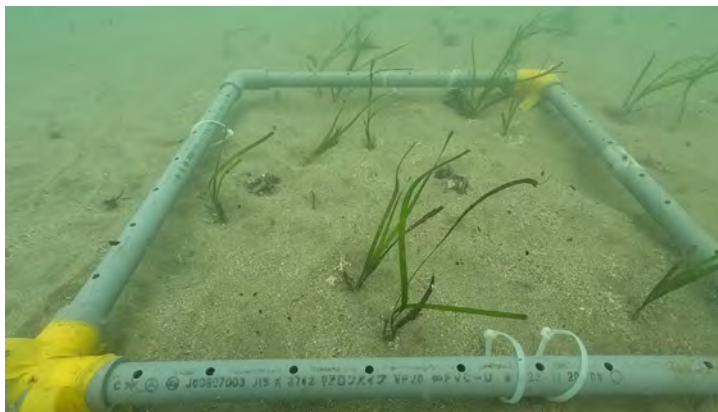
5m	5個体	アマモ被度:0
10m	6個体	アマモ被度:1
15m	4個体	アマモ被度:2
20m	1個体	アマモ被度:2

25m 3 個体 アマモ被度:1  
30m 2 個体 アマモ被度:0  
35m 5 個体 アマモ被度:0  
40m 11 個体 アマモ被度:0  
0.25 平方メートル  
平均 4.6 個体

【水中の写真】



アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



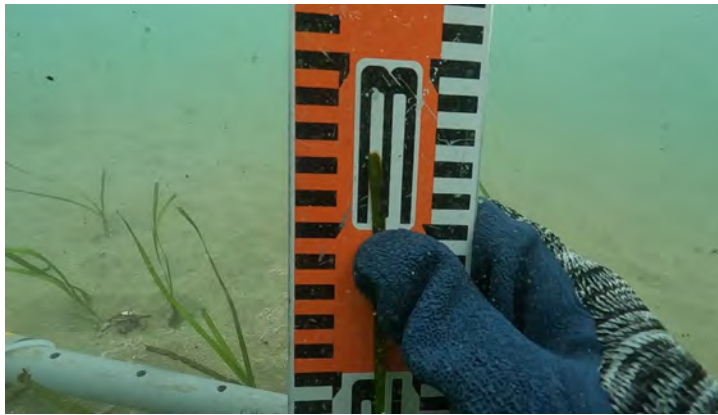
アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影

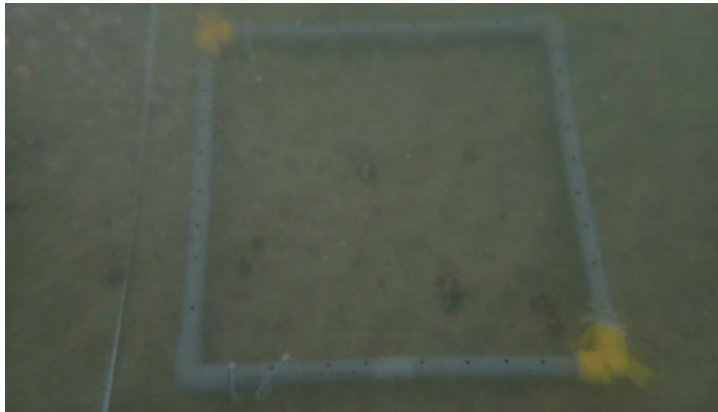


アマモの測定の様子

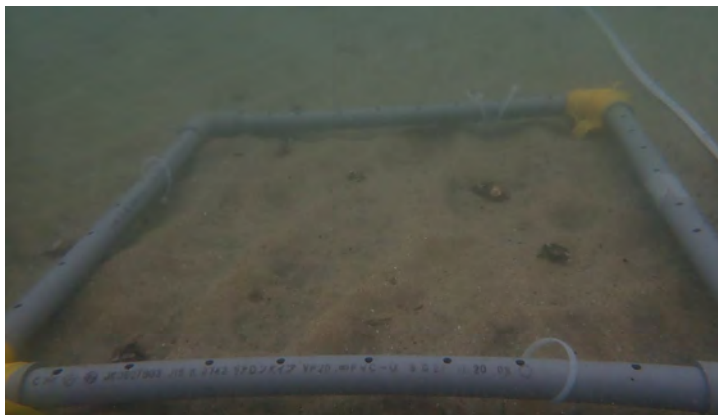


アマモの生育状況

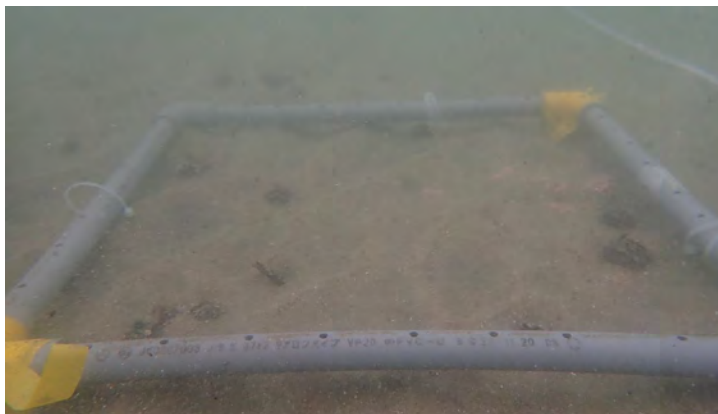
【サンショウウニの個体数密度測定】



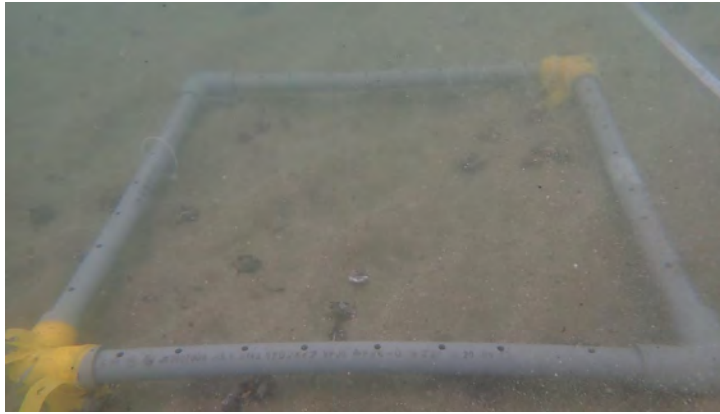
側線①方形枠 (0.5m×0.5m) 5m 地点



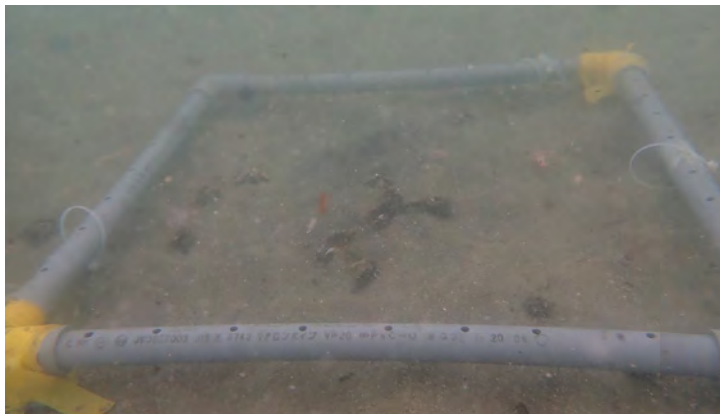
側線①方形枠 (0.5m×0.5m) 10m 地点



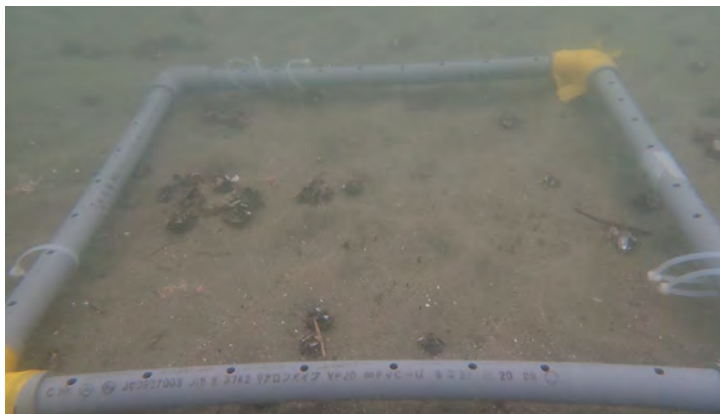
側線①方形枠 (0.5m×0.5m) 15m 地点



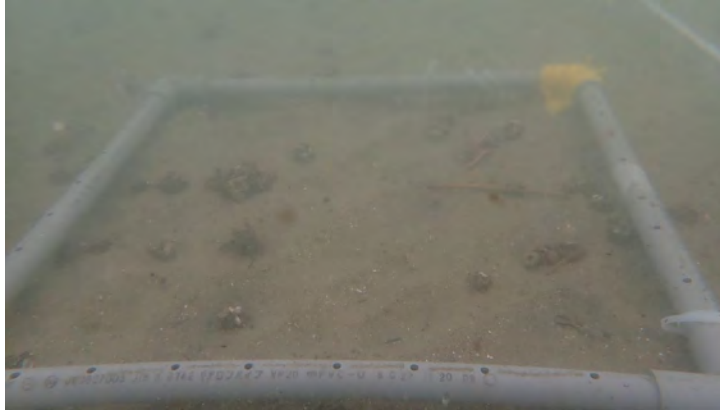
側線①方形枠 (0.5m×0.5m) 20m 地点



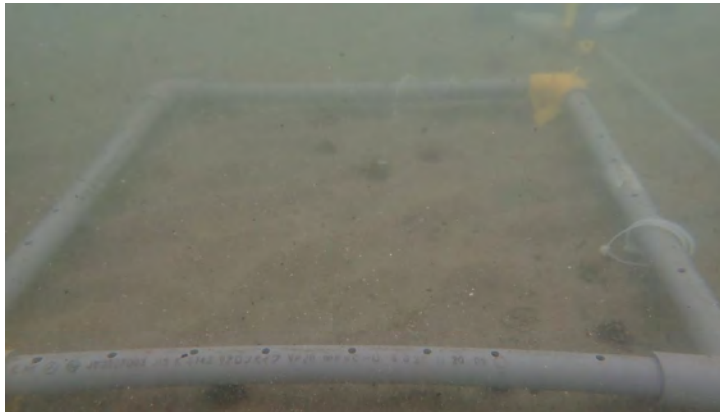
側線①方形枠 (0.5m×0.5m) 25m 地点



側線①方形枠 (0.5m×0.5m) 30m 地点



側線①方形枠 (0.5m×0.5m) 35m 地点



側線①方形枠 (0.5m×0.5m) 40m 地点



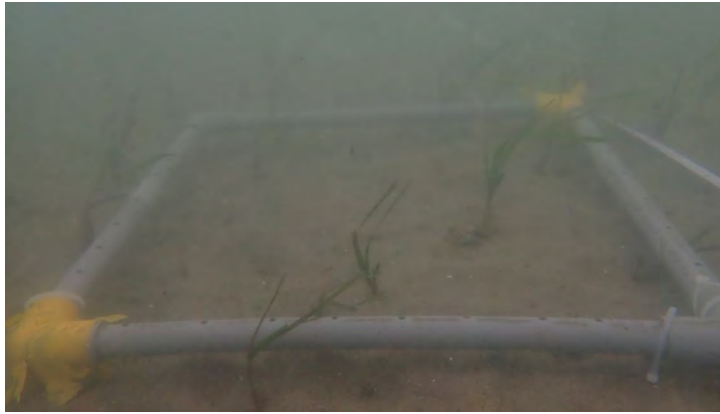
側線②方形枠 (0.5m×0.5m) 5m 地点



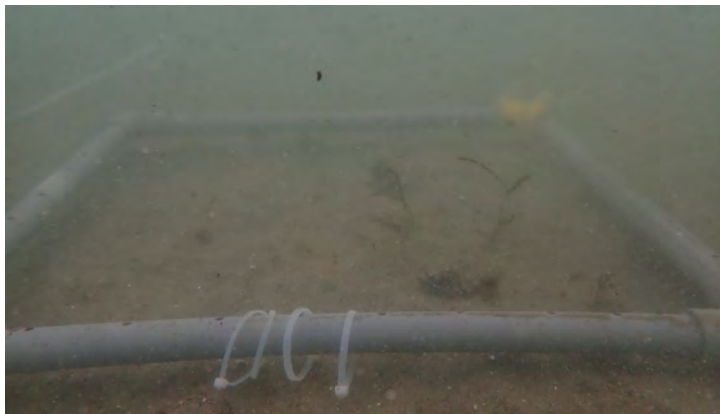
側線②方形枠 (0.5m×0.5m) 10m 地点



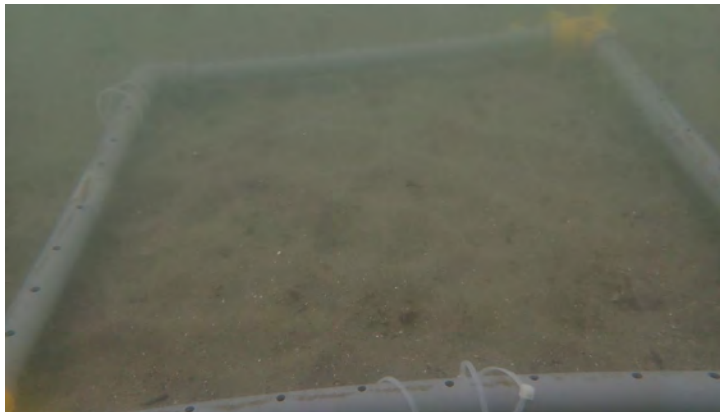
側線②方形枠 (0.5m×0.5m) 15m 地点



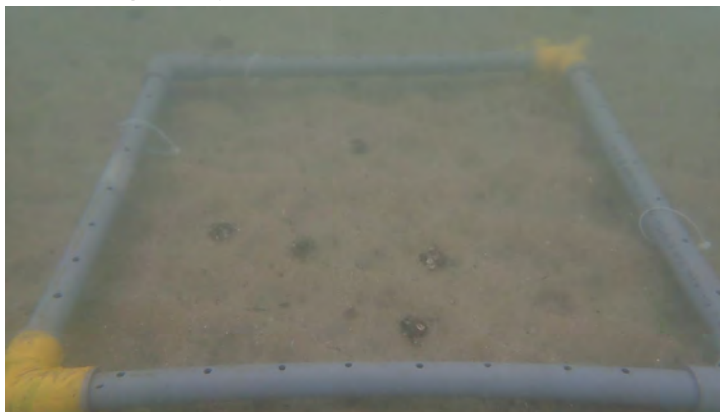
側線②方形枠 (0.5m×0.5m) 20m 地点



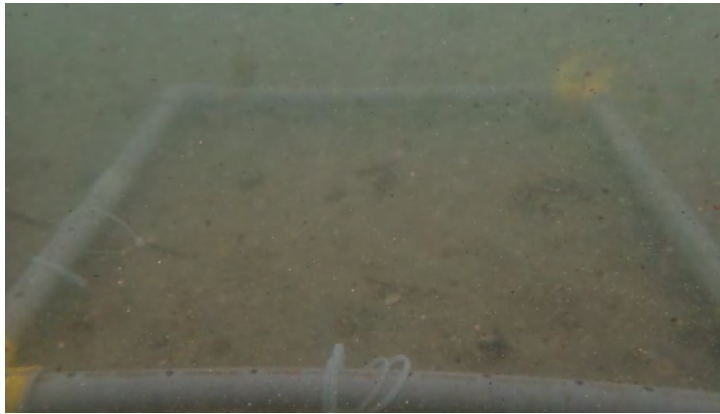
側線②方形枠 (0.5m×0.5m) 25m 地点



側線②方形枠 (0.5m×0.5m) 30m 地点



側線②方形枠 (0.5m×0.5m) 35m 地点



側線②方形枠 (0.5m×0.5m) 40m 地点



サンショウウニ



サンショウウニの殻

## 志賀島（弘）アカモク生育状況調査報告

令和7年11月24日（月）

### 1. 地点情報

調査地点:志賀島（弘）

#### 【地図】



GPS 座標:33.684444, 130.288829

調査:潜水調査およびアカモクの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:10:00 南西 3.0m

風速、風向:12:00 南西 3.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 12:20 (154cm)、23:40 (182cm)

干潮 05:59 (23cm)、17:39 (81cm)

### 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀、藤井

エントリー時間:11:00

エグジット時間:11:55

最大水深:6.6m

平均水深:5.8m

水温:19.0℃

透視度:7.0m

### 3. 調査内容

- 目的

志賀島（明石）における造成したアカモクの生育状況調査

※2025年5月に自生のアカモクをスポアバッグに入れ、投下した造成場

- 所見

方形枠（0.5m×0.5m）の枠内に6株のアカモクの芽を確認した。前回調査時の10月2日には66株のアカモクの芽が確認されており、前回調査時から株数が大幅に減少した。

- 見られた生物

アカモク、ムラサキウニ、シロウミウシ、ホシササノハベラ、クツワハゼ、メジナ、タカノハダイ、キュウセン、ホンベラ、イシダイ、メバル

- 測定したもの

アカモク 1cm～3cm

【水中の写真】



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アカモクの測定の様子



アカモクの生育状況



クツワハゼ



タカノハダイ



ホシササノハベラ



メジナ



ムラサキウニ

## 志賀島（勝馬）アマモ場調査報告

令和7年11月24日（月）

### 1. 地点情報

調査地点：志賀島（勝馬）

#### 【地図】



GPS 座標：33.687850, 130.291011

調査：潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候：曇り

海況 波高：1.5m

風速、風向：13:00 南西 3.0m

風速、風向：14:00 南西 3.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 12:20 (154cm)、23:40 (182cm)

干潮 05:59 (23cm)、17:39 (81cm)

### 2. 潜水情報

調査員名：智原、古賀、藤井

エントリー時間：12:49

エグジット時間：13:17

最大水深：2.2m

平均水深：1.4m

水温：19.0℃

透視度：3.0m

### 3. 調査内容

- 目的

志賀島勝馬海域におけるアマモの生育状況調査および生物の撮影。  
海底ごみの回収。

- 所見

一昨年移植したアマモが根付き、定着しているのを確認した。  
この場所は砂が少なく砂の動きが激しいため、アマモが砂に埋没していたり、地下茎が露出している箇所がみられた。

- 見られた生物

アマモ、オヤビッチャ、ボラ、ムラサキウニ、ホンベラ、キュウセン、コケギンポ、オオクチイシナギ幼魚

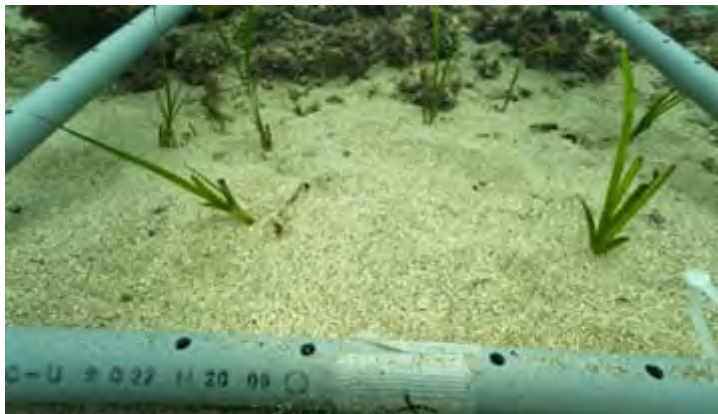
- 測定したもの

アマモ 10cm～20cm

【水中の写真】



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモの測定の様子



アマモの生育状況



オヤビッチャ



ボラ



コケギンポ



ムラサキウニ



海底ごみの回収 (プラスチックごみ)

## 能古島（東側）アマモ場調査報告

令和7年12月12日（金）

### 1. 地点情報

調査地点:能古島（東側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.617745, 130.314098

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.5m

風速、風向:11:00 北東 7.0m

風速、風向:12:00 北東 7.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 02:49 (150cm)、15:40 (142cm)

干潮 09:39 (64cm)、22:19 (84cm)

### 2. 潜水情報

調査員名:中島、古賀、山崎

エントリー時間:12:00

エグジット時間:12:30

最大水深:1.6m

平均水深:1.5m

水温:14.0℃

透視度:0.5m

### 3. 調査内容

- ・目的

能古島東側海域におけるアマモの生育状況調査

- ・所見

前回の調査に引き続き、今回の調査でも既存の地下茎から伸長したと考えられるアマモが多数確認された。

- ・見られた生物

アマモ

- ・測定したもの

アマモ 30cm

【水中の写真】



アマモの測定の様子



アマモの生育状況

## 能古島（南側）アマモ場調査報告

令和7年12月12日（金）

### 1. 地点情報

調査地点:能古島（南側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.609597, 130.308784

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.5m

風速、風向:11:00 北東 7.0m

風速、風向:12:00 北東 7.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 02:49 (150cm)、15:40 (142cm)

干潮 09:39 (64cm)、22:19 (84cm)

### 2. 潜水情報

調査員名:大神、中島、古賀、山崎

エントリー時間:11:08

エグジット時間:11:30

最大水深:1.6m

平均水深:1.2m

水温:14.0℃

透視度:0.5m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島南側におけるアマモの生育状況調査

- 所見

今回の調査で、種子から発芽したものと考えられるアマモが確認された。しかし合計で3本しか確認できず、生息密度は低かった。また、既存の地下茎から伸長した栄養株と地中の地下茎は確認されなかった。

- 見られた生物

アマモ

【水中の写真】



発芽したアマモの様子

# 志賀島（志賀）アマモの生育状況調査報告

令和7年12月16日（火）

## 1. 地点情報

調査地点: 志賀島（志賀）

### 【地図】



GPS 座標: 33.660919, 130.314945

調査: 潜水調査およびアマモ、サンショウウニの状況調査

天候: 曇り

海況 波高: 2m

風速、風向: 11:00 北西 5.0m

風速、風向: 15:00 北西 5.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 07:29 (146cm)、19:09 (164cm)

干潮 01:00 (44cm)、13:00 (74cm)

## 2. 潜水情報

調査員名: 中島、古賀

エントリー時間: 11:15

エグジット時間: 11:40

最大水深: 1.6m

平均水深: 1.5m

水温: 13.0°C

透視度: 1.0m

### 3. 調査内容

- ・目的

アマモの生育状況調査およびサンショウウニの個体数調査

- ・所見

前回調査時と同様にアマモの群落を確認した。既存の地下茎から伸長したアマモに加え、種子から発芽したアマモも確認した。

サンショウウニは方形枠（0.5m×0.5m）内に平均2.5個体であったが同地点の別箇所では本種が密生している場所も確認された。

- ・見られた生物

アマモ、サンショウウニ

- ・測定したもの

アマモ 23～26cm

サンショウウニの個体数

方形枠①・・・2個体 アマモ被度0

方形枠②・・・2個体 アマモ被度0

方形枠③・・・3個体 アマモ被度0

方形枠④・・・4個体 アマモ被度0

【水中の写真】



アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



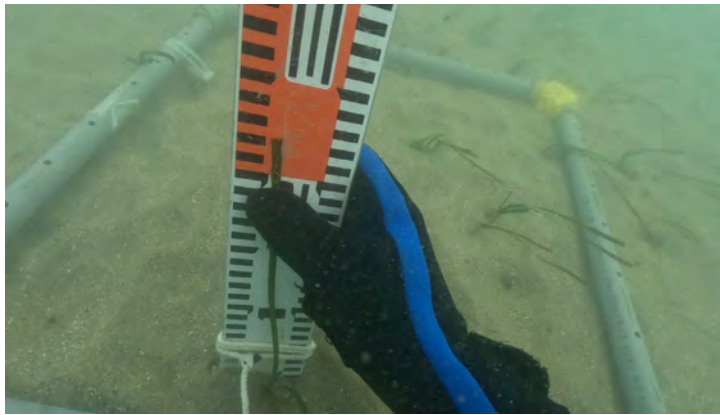
アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモの測定の様子



アマモの生育状況

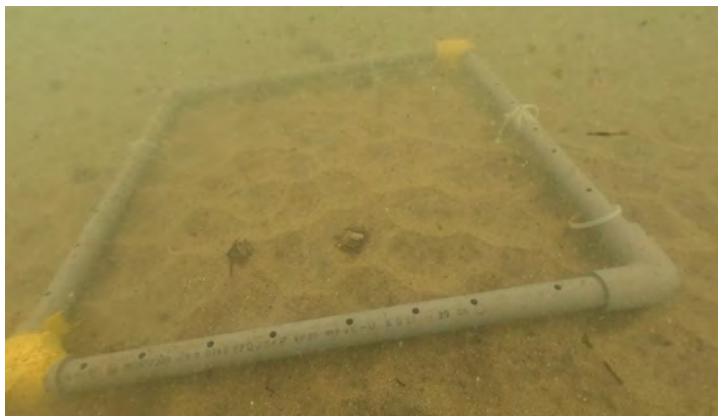


種子から発芽したアマモ

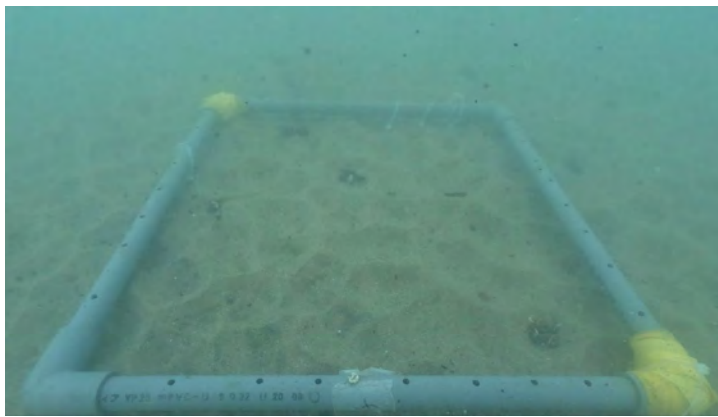
【サンショウウニの個体数調査】



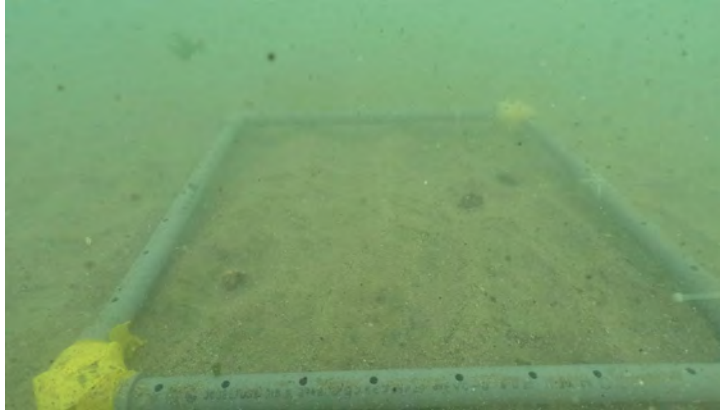
方形枠 (0.5m×0.5m) ①



方形枠 (0.5m×0.5m) ②



方形枠 (0.5m×0.5m) ③



方形枠 (0.5m×0.5m) ④

## 志賀島（明石）アカモク調査報告

令和7年12月16日（火）

### 1. 地点情報

調査地点：志賀島（明石）

#### 【地図】



GPS 座標：33.675523, 130.288063

調査：潜水調査およびアカモク生育状況調査

天候：曇り

海況 波高：1.0m

風速、風向：11:00 南西 2.9m

風速、風向：12:00 南西 2.5m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 09:00（158cm）、20:29（180cm）

干潮 02:39（19cm）、14:30（70cm）

### 2. 潜水情報

調査員名：智原、山崎

エントリー時間：11:10

エグジット時間：11:40

最大水深：4.0m

平均水深：2.7m

水温：15.6℃

透視度：3.0m

### 3. 調査内容

- ・目的

志賀島明石における造成したアカモクの生育状況調査

※2025年5月に自生のアカモクをスポアバッグに入れ、投下した造成場

- ・所見

前回調査を行った11月11日と同様、2cmまで成長したアカモクの芽を、1株確認することができた。

造成場周辺ではムラサキウニは確認されなかった一方、サンショウウニが確認された。

前回の調査で確認した、かご網内部のアカモクは今回の調査でも確認することができた。

- ・見られた生物

アカモク、ミナミハタンポ、キュウセン、ホンベラ、ウミタナゴ、ヘビギンポ、サンショウウニ

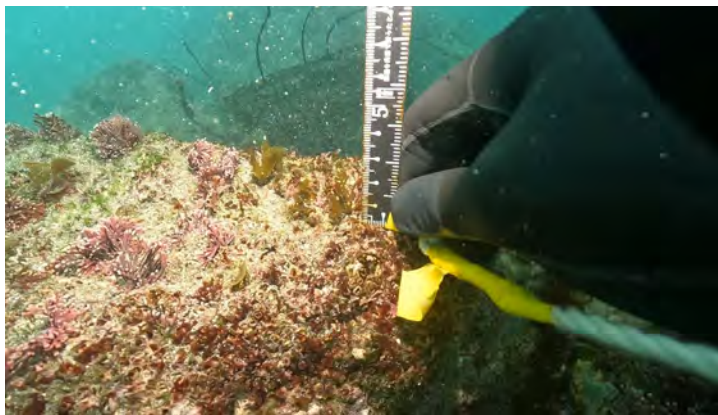
- ・測定したもの

アカモク 2cm

【水中の写真】



アカモクの生育状況



アカモクの測定の様子



かご網内部のアカモク



食害を受けたアカモクの芽



ウミタナゴとクサフグ



ミナミハタンポ



サンショウウニ

## 地行浜（東側）アマモ場調査報告

令和7年12月18日（木）

### 1. 地点情報

調査地点：地行浜（東側）

#### 【地図】



GPS 座標：33.598440, 130.360308

調査：潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候：晴れ

海況 波高：1.0m

風速、風向：10:00 南東 2.2m

風速、風向：12:00 南東 2.2m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 09:18 (145cm)、20:23 (166cm)

干潮 02:44 (30cm)、14:24 (73cm)

### 2. 潜水情報

調査員名：智原、山崎

エントリー時間：10:15

エグジット時間：10:59

最大水深：3.2m

平均水深：2.0m

水温：12.9℃

透視度：1.5m

### 3. 調査内容

- 目的

地行浜東側におけるアマモの生育状況調査

- 所見

今回の調査において、種子から発芽したアマモを確認した。確認場所は自生のアマモ場近辺であり、株数は30～40株程度であった。なお、その大半は葉長10cm以下の実生であった。

アマモ確認地点以外では海底に有機物が堆積していた。

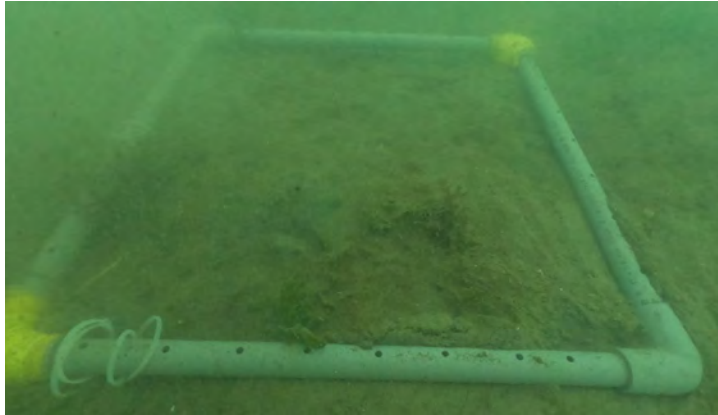
- 見られた生物

アマモ、ウミサボテン、マハゼ

- 測定したもの

アマモ 4～10cm

【水中の写真】



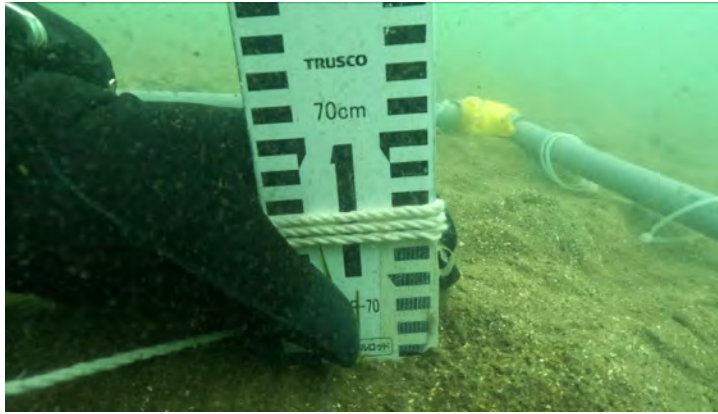
アマモ確認地点以外の方形枠（0.5m×0.5m）横から



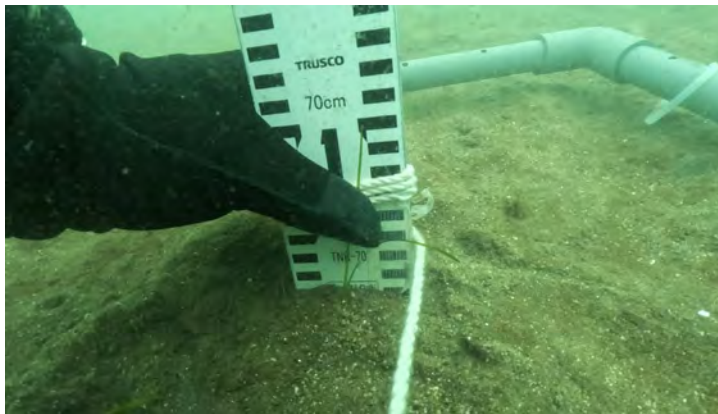
アマモ確認地点の方形枠（0.5m×0.5m）横から



方形枠内のアマモ



アマモの測定の様子①



アマモの測定の様子②



アマモの生育状況



種子から発芽したアマモ



マハゼ



ウミサボテン

## 能古島（東側）アマモ場調査報告

令和8年1月6日（火）

### 1. 地点情報

調査地点:能古島（東側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.617745, 130.314098

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:10:00 北 2.0m

風速、風向:12:00 北西 2.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 12:00（180cm）

干潮 06:00（-2cm）、17:49（56cm）

### 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀

エントリー時間:12:05

エグジット時間:12:24

最大水深:2.9m

平均水深:2.0m

水温:10.4℃

透視度:1.5m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島（東側）におけるアマモの生育状況調査

- 所見

既存の自生アマモは、葉長が約 65cm まで成長していることを確認した。  
また、その周辺では、種子から発芽したと推察される実生の定着も多数見られた。

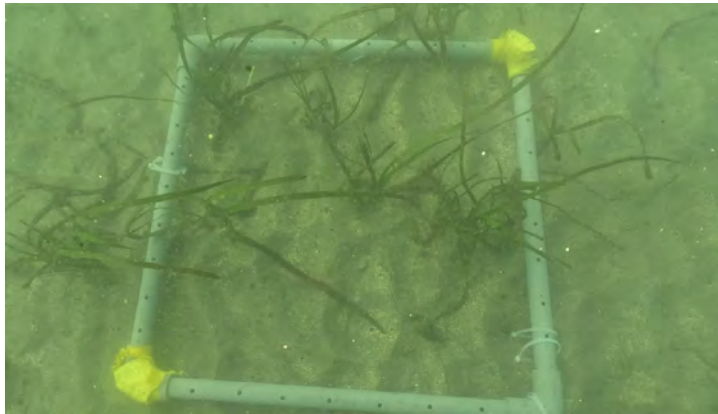
- 見られた生物

アマモ、クサフグ

- 測定したもの

アマモ 50～65cm

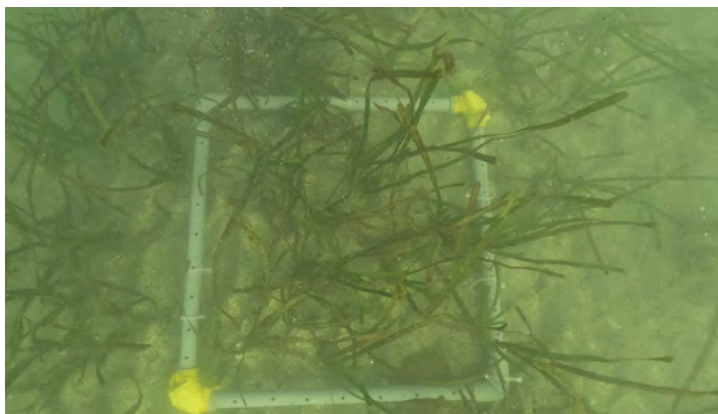
【水中の写真】



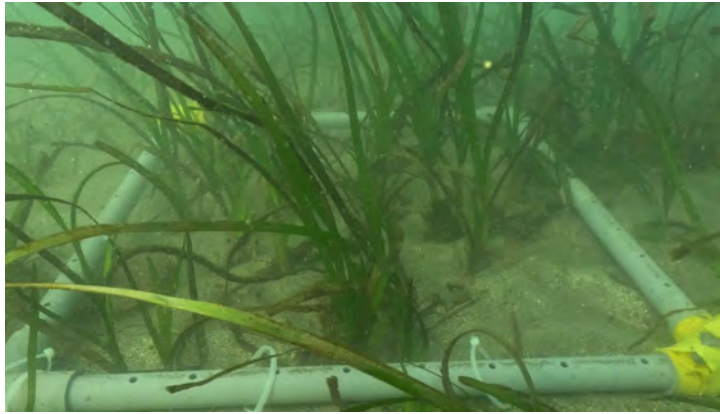
アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠（0.5m×0.5m）の上から撮影



アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠（0.5m×0.5m）の横から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠（0.5m×0.5m）の上から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモの測定の様子



調査の様子



アマモの生育状況



発芽したアマモの様子



底質調査の様子



クサフグ

## 能古島（南側）アマモ場調査報告

令和8年1月6日（火）

### 1. 地点情報

調査地点:能古島（南側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.609597, 130.308784

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:10:00 北 2.0m

風速、風向:12:00 北西 2.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 12:00 (180cm)

干潮 06:00 (-2cm)、17:49 (56cm)

### 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀

エントリー時間:10:55

エグジット時間:11:21

最大水深:2.3m

平均水深:1.8m

水温:10.0℃

透視度:1.5m

### 3. 調査内容

- 目的

能古島（南側）におけるアマモの生育状況調査

- 所見

前回調査では視界不良の影響もあり、確認できたアマモは3株に留まった。しかし今回の調査では、種子から発芽した個体を約100株確認した。この大幅な増加は、前回調査時の観測条件による未確認個体が存在したことに加え、その後の順調な生長によるものと考えられる。

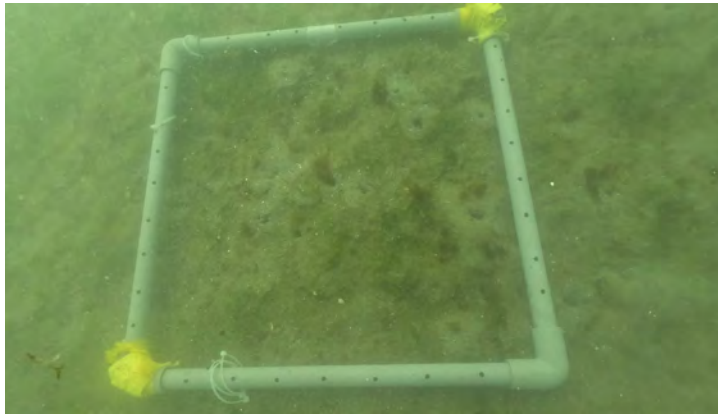
- 見られた生物

アマモ

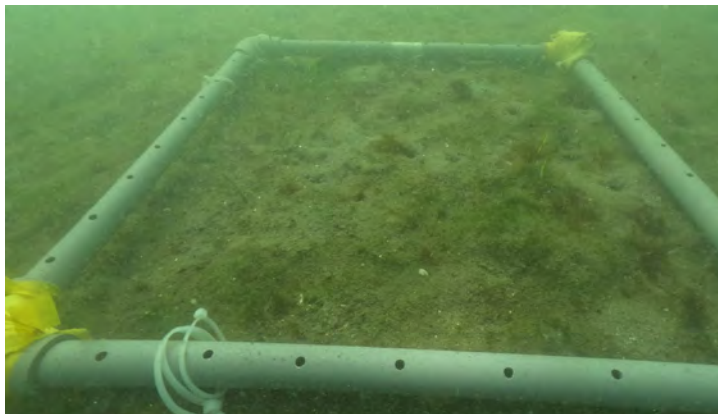
- 測定したもの

アマモ 6～12cm

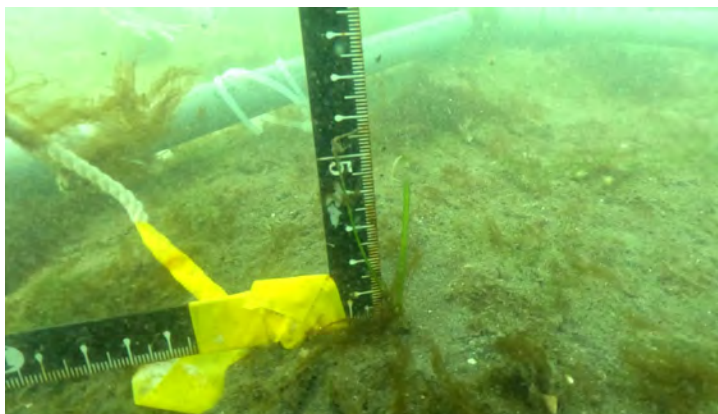
【水中の写真】



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモ測定の様子



発芽したアマモの様子



アマモの生育状況



底質調査の様子

# 志賀島（弘）アカモク生育状況調査報告

令和8年1月16日（金）

## 1. 地点情報

調査地点：志賀島（弘）

### 【地図】



GPS 座標：33.684444, 130.288829

調査：潜水調査およびアカモクの生育状況調査

天候：曇り

海況 波高：2m

風速、風向：11:00 北西 5.0m

風速、風向：15:00 北西 5.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 07:29 (146cm)、19:09 (164cm)

干潮 01:00 (44cm)、13:00 (74cm)

## 2. 潜水情報

調査員名：智原、山崎

エントリー時間：11:26

エグジット時間：12:25

最大水深：6.4m

平均水深：5.7m

水温：13.0℃

透視度：5.0m

### 3. 調査内容

- ・目的

志賀島（弘）における造成したアカモクの生育状況調査

※2025年5月に自生のアカモクをスポアバッグに入れ、投下した造成場

- ・所見

方形枠（0.5m×0.5m）の枠内において、5株のアカモクの芽を確認した。

前回調査時11月24日の6株と比較すると1株減少しているが、株のサイズは1cm～3cmと大きな変動は見られなかった。

- ・見られた生物

アカモク、ムラサキウニ、キュウセン、ホンベラ、イシダイ、メバル

- ・測定したもの

アカモク 1cm～3cm

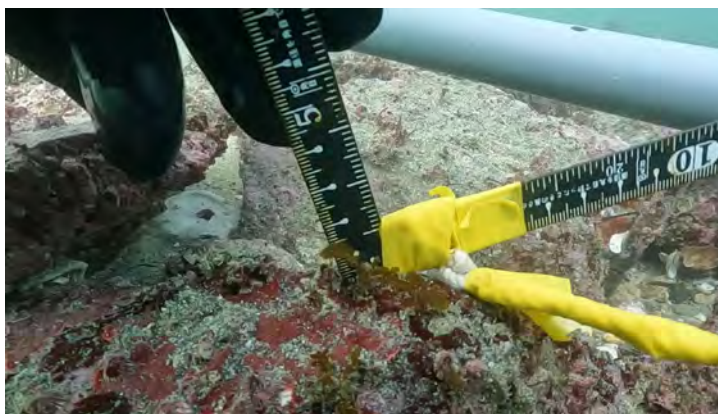
【水中の写真】



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



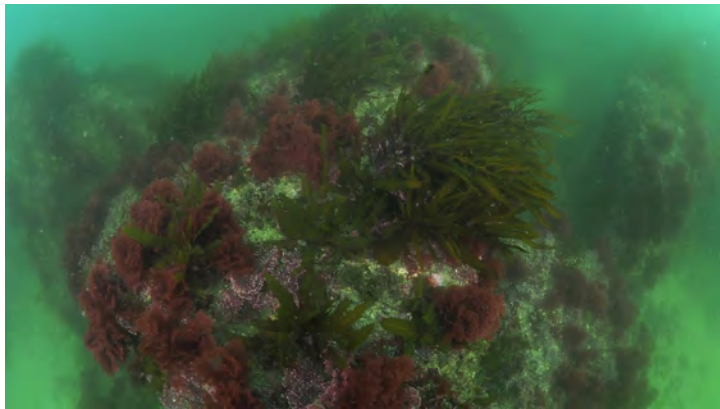
アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アカモクの測定の様子



アカモクの生育状況



周辺の藻場の様子

## 志賀島（明石）アカモク調査報告

令和7年1月16日（金）

### 1. 地点情報

調査地点：志賀島（明石）

#### 【地図】



GPS 座標：33.675523, 130.288063

調査：潜水調査およびアカモク生育状況調査

天候：曇り

海況 波高：2m

風速、風向：11:00 北西 5.0m

風速、風向：15:00 北西 5.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 07:29 (146cm)、19:09 (164cm)

干潮 01:00 (44cm)、13:00 (74cm)

### 2. 潜水情報

調査員名：智原、山崎

エントリー時間：13:35

エグジット時間：13:56

最大水深：4.0m

平均水深：2.9m

水温：11.4℃

透視度：1.5m

### 3. 調査内容

- 目的

志賀島（明石）における造成したアカモクの生育状況調査

※2025年5月に自生のアカモクをスポアバッグに入れ、投下した造成場

- 所見

前回調査時12月16日と同様、アカモクの芽を1株確認することができた。

造成場周辺ではムラサキウニは確認されなかった一方、サンショウウニが確認された。

- 見られた生物

アカモク、サンショウウニ、クサフグ、イトマキヒトデ

【水中の写真】



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アカモクの芽



イトマキヒトデ



サンショウウニ



クサフグ

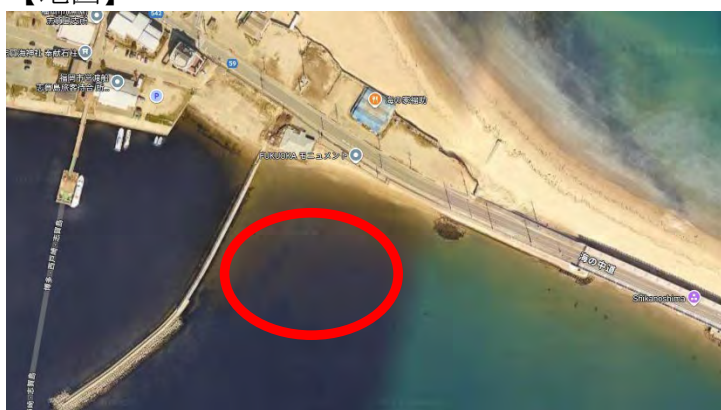
# 志賀島（志賀）アマモの生育状況調査報告

令和8年1月16日（金）

## 1. 地点情報

調査地点：志賀島（志賀）

### 【地図】



GPS 座標：33.660919, 130.314945

調査：潜水調査およびアマモ生育状況調査

天候：曇り

海況 波高：2m

風速、風向：11:00 北西 5.0m

風速、風向：15:00 北西 5.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 07:29 (146cm)、19:09 (164cm)

干潮 01:00 (44cm)、13:00 (74cm)

## 2. 潜水情報

調査員名：智原、山崎

エントリー時間：15:04

エグジット時間：15:27

最大水深：1.7m

平均水深：1.0m

水温：10.5℃

透視度：1.5m

### 3. 調査内容

- 目的

志賀島（志賀）におけるアマモの生育状況調査

- 所見

前回調査時と同様に、アマモの群落を維持していることを確認した。既存株の地下茎から伸長した個体に加え、種子から発芽した個体も確認された。

また、秋季に消失が確認されていた地点においては、新たに種子から発芽したアマモが多数定着していることを確認した。

今回の調査でサンショウウニは死骸のみ確認され、確認数も方形枠（0.5m×0.5m）内に1個程度と前回調査から大幅な減少が見られた。

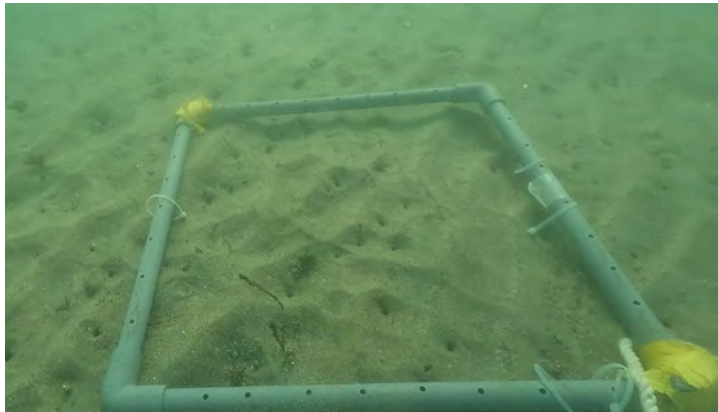
- 見られた生物

アマモ、サンショウウニ、クサフグ

- 測定したもの

アマモ 10～31cm

【水中の写真】



アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



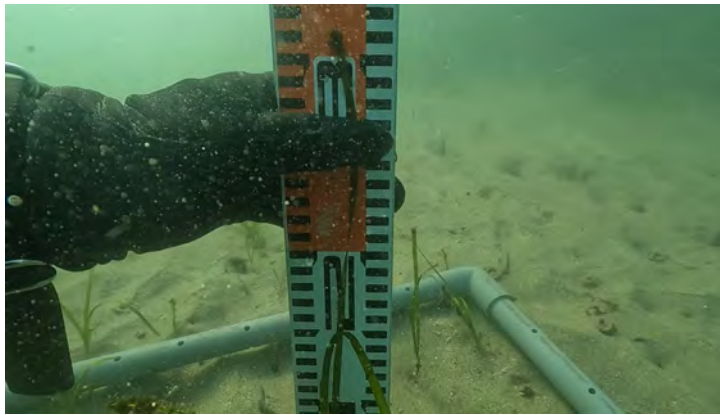
アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



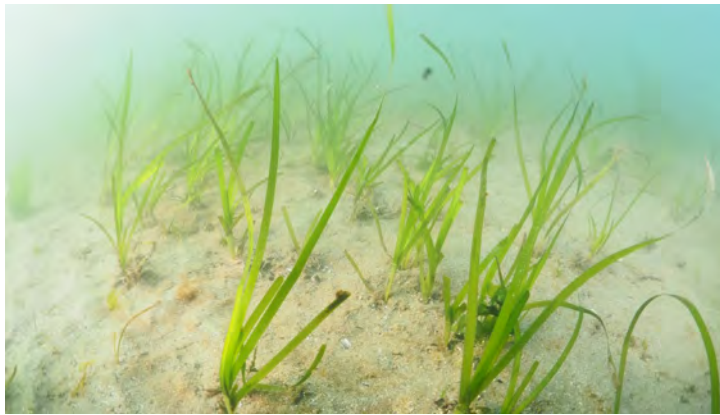
アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモの測定の様子



アマモの生息状況



アマモの生息状況



サンショウウニの死骸

## 地行浜（東側）アマモ場調査報告

令和8年1月26日（月）

### 1. 地点情報

調査地点：地行浜（東側）

#### 【地図】



GPS 座標：33.598440, 130.360308

調査：潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候：晴れ

海況 波高：1.0m

風速、風向：10:00 南東 3.0m

風速、風向：12:00 南東 2.6m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 02:29 (152cm)、14:30 (166cm)

干潮 08:00 (71cm)、21:40 (59cm)

### 2. 潜水情報

調査員名：智原、古賀

エントリー時間：11:00

エグジット時間：11:38

最大水深：2.7m

平均水深：1.9m

水温：8.6℃

透視度：2.0m

### 3. 調査内容

- 目的

地行浜（東側）におけるアマモの生育状況調査

- 所見

前回調査時1月8日では確認されなかったアマモの実生を、今回の調査で確認することができた。この実生は12月の調査地点と同じ場所で確認されており、葉の長さも前回調査時は4～10cmだったが、今回調査では8～20cmにまで成長していることから、生育は順調であると考えられる。

また、以前「アマモ種子団子投げ入れ活動」を実施した場所においても、新たに実生を10株程確認した。

- 見られた生物

アマモ、クサフグ、ハダカモウミウシ科の一種

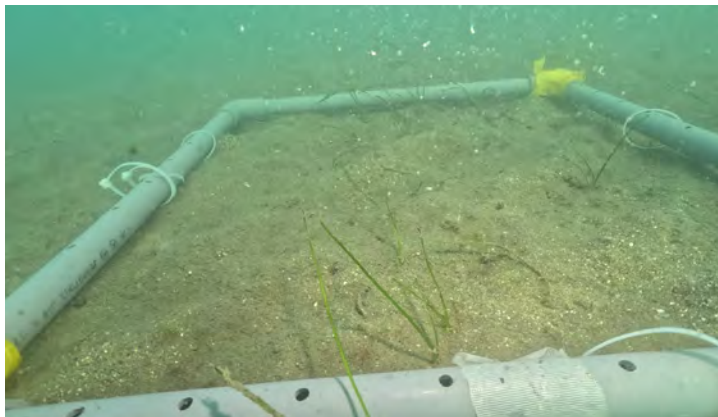
- 測定したもの

アマモ 8～20cm

【水中の写真】



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモ測定の様子



アマモの生育状況



アマモの生育状況



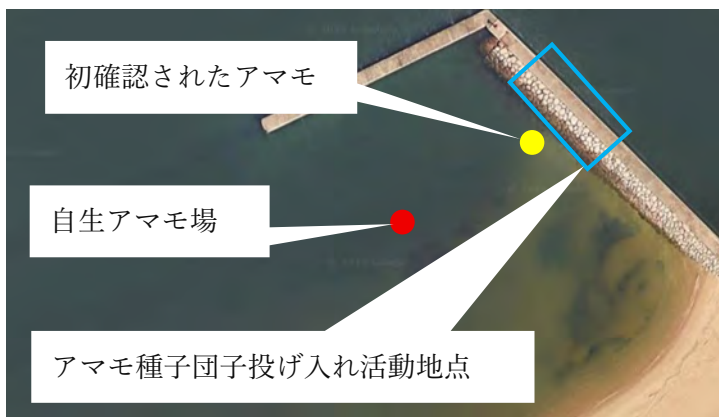
クサフグ



ハダカモウミウシ科の一種



初確認されたアマモの実生



初確認されたアマモ

自生アマモ場

アマモ種子団子投げ入れ活動地点

確認されたアマモ場の位置

## 地行浜（東側）アマモ場調査報告

令和8年2月12日（木）

### 1. 地点情報

調査地点：地行浜（東側）

#### 【地図】



GPS 座標：33.598440, 130.360308

調査：潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候：晴れ

海況 波高：1.0m

風速、風向：10:00 北西 4.0m

風速、風向：12:00 北西 4.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 08:17 (104cm)、17:42 (124cm)

干潮 00:55 (59cm)、11:58 (97cm)

### 2. 潜水情報

調査員名：智原、古賀、青木

エントリー時間：10:58

エグジット時間：11:40

最大水深：2.3m

平均水深：0.9m

水温：8.9℃

透視度：2.0m

### 3. 調査内容

- 目的

地行浜（東側）におけるアマモの生育状況調査

- 所見

前回調査時 1 月 26 日に引き続き、同地点においてとアマモの実生を確認した。葉長は前回の 8～20cm に対し、今回は 19～24cm まで伸長しており、生育状況は順調と考えられる。

一方、10 月 18 日に「アマモ種子団子投げ入れ活動」を実施した突堤沿いの個体群においては、局所的に生育を確認した。葉長は 10～19cm であり、同地点の自然群落と比較するとやや成長速度に遅れが見られる。

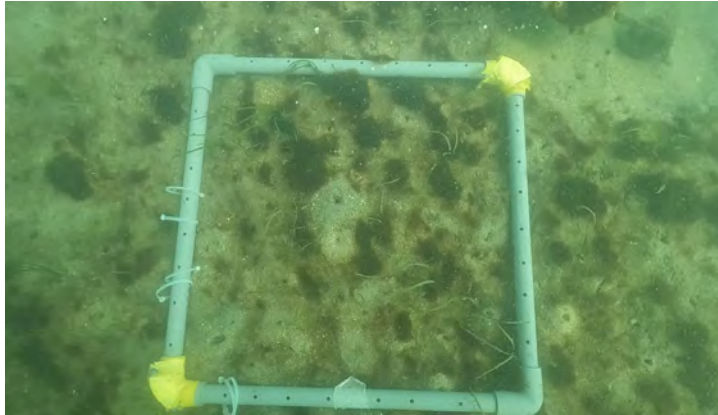
- 見られた生物

アマモ、ツメタガイ、ガザミ、クロミドリガイ

- 測定したもの

アマモ 10～24cm

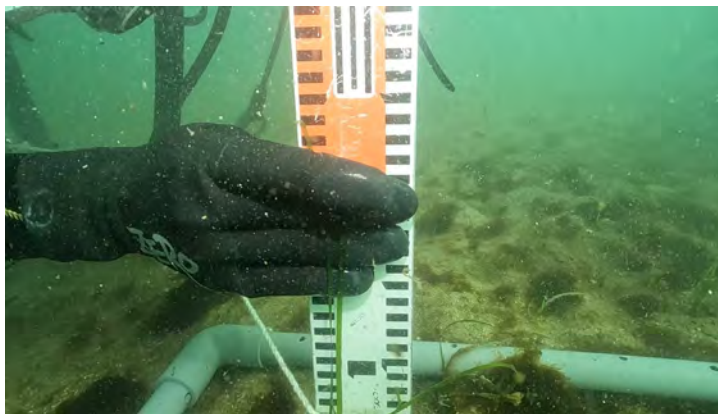
【水中の写真】



自然群落のアマモ場の状況  
方形枠（0.5m×0.5m）の上から撮影



自然群落のアマモ場の状況  
方形枠（0.5m×0.5m）の横から撮影



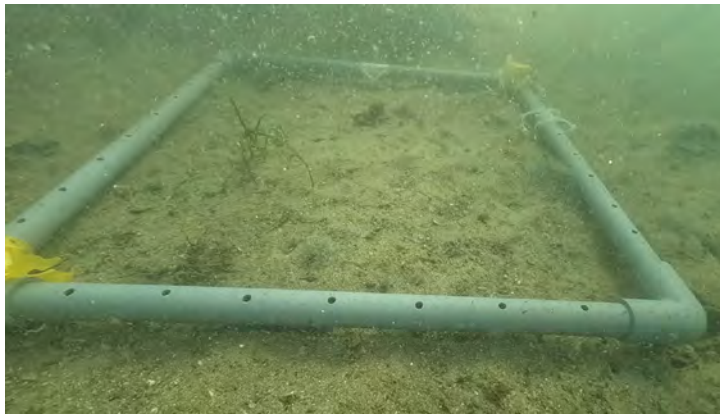
アマモ測定の様子



自然群落のアマモの生育状況



突堤沿いのアマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



突堤沿いのアマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



突堤沿いのアマモの生育状況



底質調査の様子



ツメタガイ



クロミドリガイ

## 能古島（東側）アマモ場調査報告

令和8年2月17日（火）

### 1. 地点情報

調査地点:能古島（東側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.617745, 130.314098

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:11:00 北西 3.0m

風速、風向:12:00 北西 3.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 10:00 (155cm) 22:00 (181cm)

干潮 04:00 (4cm)、16:00 (35cm)

### 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀

エントリー時間:12:53

エグジット時間:13:17

最大水深:1.7m

平均水深:1.4m

水温:11.0℃

透視度:2.0m

### 3. 調査内容

- ・目的

能古島（東側）におけるアマモの生育状況調査

- ・所見

今回の調査においても、広範囲にわたる安定したアマモの群落を確認した。地点の南北にかけて群生しており、自生個体に加えて実生も多数定着していることから、生育状況は極めて良好である。

また、ウミウシ類等の付着生物も確認され、豊かな生態系が維持されている。

- ・見られた生物

アマモ、クサフグ、アカエラミノウミウシ、クロミドリガイ、クロコソデウミウシ

- ・測定したもの

アマモ 38～53cm

【水中の写真】



アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



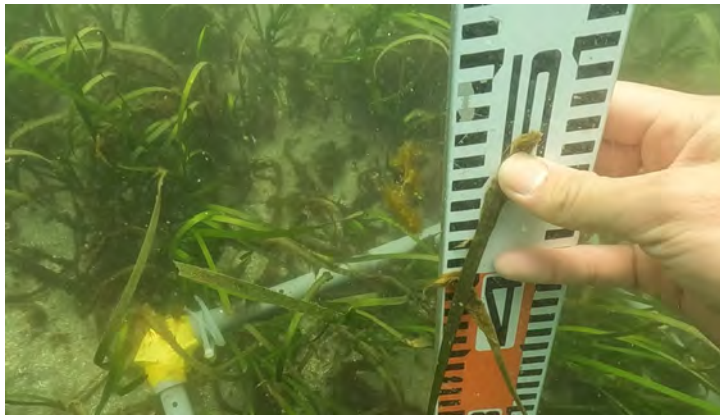
アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモの測定の様子



発芽したアマモの様子



底質調査の様子



クサフグ



アカエラミノウミウシ



クロミドリガイ

## 能古島（南側）アマモ場調査報告

令和8年2月17日（火）

### 1. 地点情報

調査地点:能古島（南側）

#### 【地図】



GPS 座標:33.609597, 130.308784

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:11:00 北西 3.0m

風速、風向:12:00 北西 3.0m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 10:00 (155cm) 22:00 (181cm)

干潮 04:00 (4cm)、16:00 (35cm)

### 2. 潜水情報

調査員名:智原、古賀

エントリー時間:11:12

エグジット時間:11:42

最大水深:2.1m

平均水深:1.6m

水温:11.0℃

透視度:2.0m

### 3. 調査内容

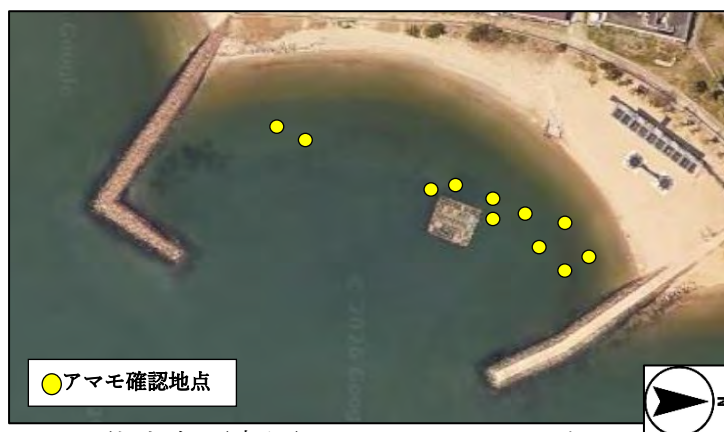
- ・目的

能古島（南側）におけるアマモの生育状況調査

- ・所見

今回の調査においても、アマモの実生が計 100 株以上確認された。葉長は前回調査時 1 月 6 日の 6～12cm から 15～25cm まで伸長しており、約 1 ヶ月で 2 倍程度の長さには達するなど生育は順調である。

一方で、生育場所は北側に偏る傾向が見られた。



能古島（南側）におけるアマモ確認地点

- ・見られた生物

アマモ、アカクラゲ、クサフグ

- ・測定したもの

アマモ 15～25cm

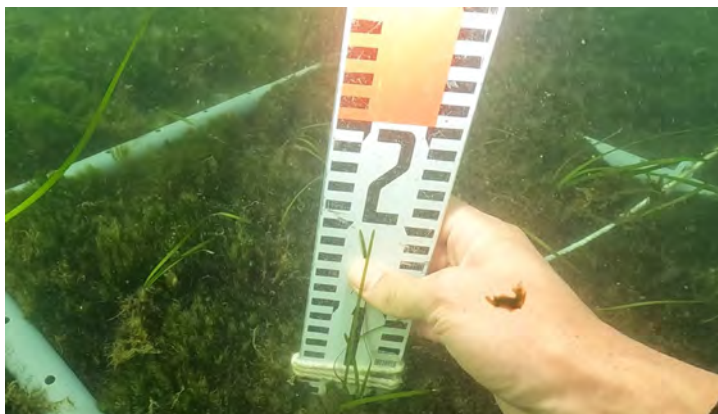
【水中の写真】



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモ測定の様子



アマモの生育状況



底質調査の様子



クサフゲ



アカクラゲ

# 志賀島（志賀）アマモの生育状況調査報告

令和8年2月21日（土）

## 1. 地点情報

調査地点:志賀島（志賀）

### 【地図】



GPS 座標:33.660919, 130.314945

調査:潜水調査およびアマモの生育状況調査

天候:晴れ

海況 波高:1.0m

風速、風向:11:00 南 4.5m

風速、風向:13:00 北西 2.2m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 11:59 (175cm)

干潮 05:45 (9cm)、18:06 (11cm)

## 2. 潜水情報

調査員名:智原、中島

エントリー時間:13:04

エグジット時間:13:38

最大水深:2.3m

平均水深:1.8m

水温:12.7℃

透視度:5.0m

### 3. 調査内容

- 目的

志賀島（志賀）におけるアマモの生育状況調査

- 所見

前回調査時1月16日と同様、アマモ群落の維持を確認した。既存株の地下茎からの伸長に加え、種子から発芽したアマモも多数定着していた。

一方で、調査で地点においてサンショウウニが確認され、確認数も方形枠(0.5m×0.5m)内に3~4個体出現した。

また、一部で地下茎の露出が見られ、近接する消波ブロックへの漂着も確認された。

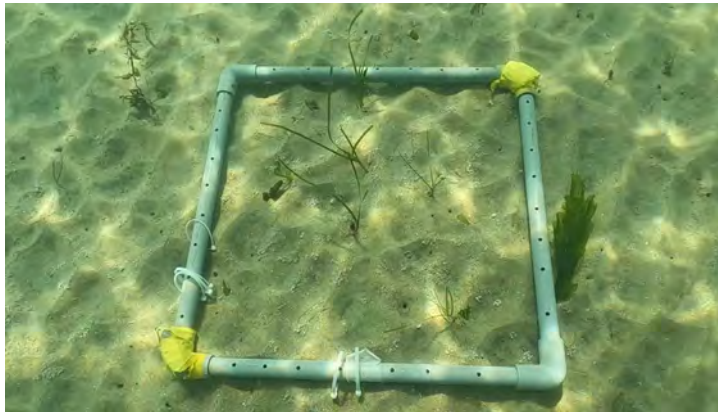
- 見られた生物

アマモ、サンショウウニ、アカクラゲ、ヤドカリ

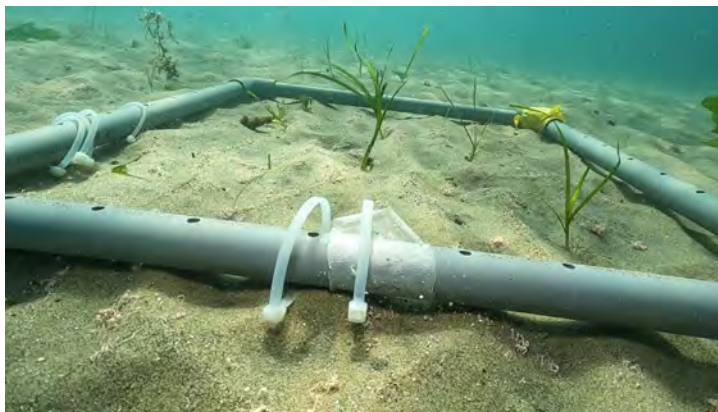
- 測定したもの

アマモ 11~23cm

【水中の写真】



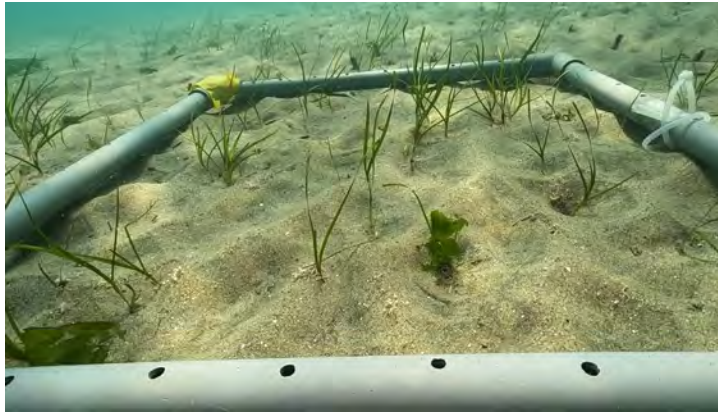
アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



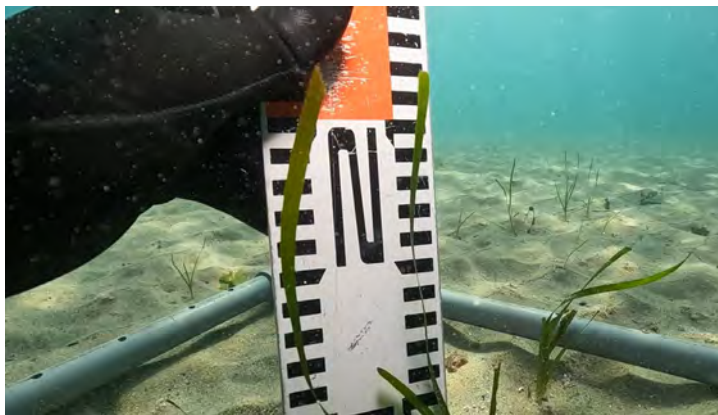
アマモ被度が低い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アマモ被度が高い区画の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アマモの測定の様子



アマモの生息状況



砂面から露出した地下茎



サンショウウニ



アカクラゲ

# 志賀島（弘）アカモク生育状況調査報告

令和8年2月21日（土）

## 1. 地点情報

調査地点：志賀島（弘）

### 【地図】



GPS 座標：33.684444, 130.288829

調査：潜水調査およびアカモクの生育状況調査

天候：晴れ

海況 波高：1.0m

風速、風向：11:00 南 4.5m

風速、風向：13:00 北西 2.2m

一日の潮汐（干潮／満潮時刻・潮位）

満潮 11:59 (175cm)

干潮 05:45 (9cm)、18:06 (11cm)

## 2. 潜水情報

調査員名：智原、中島

エントリー時間：11:20

エグジット時間：12:06

最大水深：7.0m

平均水深：5.2m

水温：12.6℃

透視度：5.0m

### 3. 調査内容

- 目的

志賀島（弘）における造成したアカモクの生育状況調査

※2025年5月に自生のアカモクをスポアバッグに入れ、投下した造成場

- 所見

方形枠（0.5m×0.5m）の枠内において、9株のアカモクの芽を確認した。

前回調査時1月16日と比較すると4株増加しており、個体サイズも前回の1cm～3cmから5cm～10cmへと順調な成長が確認された。

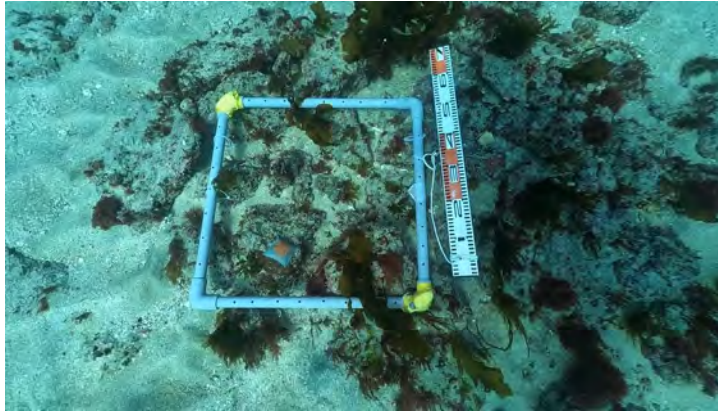
- 見られた生物

アカモク、メバル、シロウミウシ、クロミドリガイ、クロヘリアメフラシ

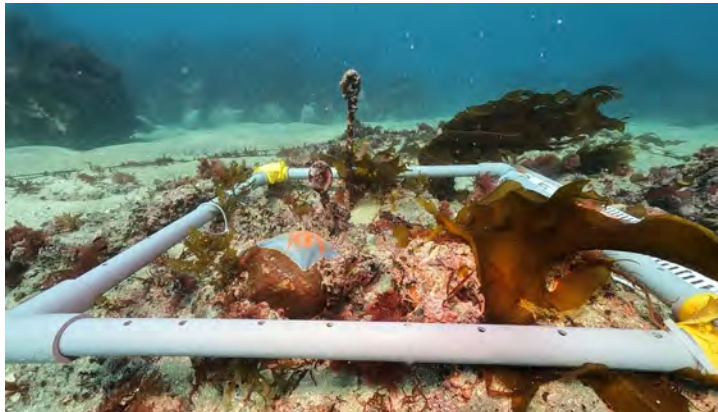
- 測定したもの

アカモク 5cm～10cm

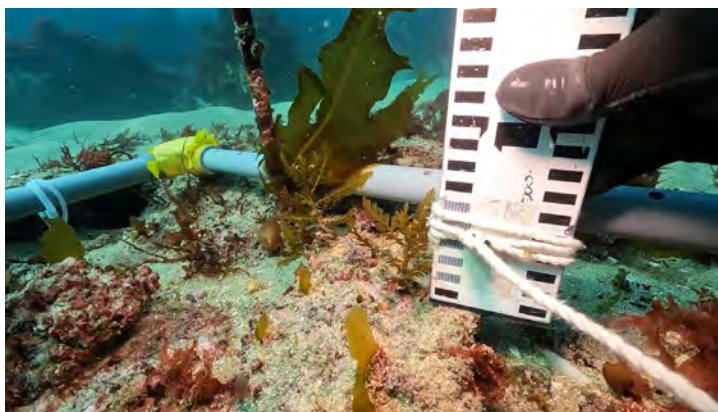
【水中の写真】



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の上から撮影



アカモク場の状況  
方形枠 (0.5m×0.5m) の横から撮影



アカモクの測定の様子



アカモクの生育状況



周辺の藻場の様子



調査の様子



シロウミウシ



クロミドリガイ



クロヘリアメフラシ

### ③結果

#### 【志賀島（弘）におけるアカモク場造成の現状と課題】

##### 1. スポアバッグ手法による初期定着の評価

令和7年5月末に設置したスポアバッグ手法は、初期の種子散布において高い効果を示したと考えられる。5月末の設置後、7月の調査では約200株の新芽（約2cm）が確認されており、狙い通り母藻からの種子供給と定着が成功したと言える。

##### 2. アカモク群落の変遷と減少原因の考察

7月に確認された約200株は、10月には66株（方形枠内）、11月には6株、2月には9株と大幅に減少した。この減衰には、以下の要因が複合的に影響していると推測される。

###### ・物理的要因（埋没と波浪）

当該調査地点は砂の移動が激しいという特徴を持つ。秋から冬にかけての荒天時における波浪による砂の巻き上げや、石の埋没が、未成熟な芽の生存を阻害した可能性がある。

食害の可能性：当該地点ではクロダイ、コロダイ、メジナ、イシダイなどの雑食性（植食傾向のある）魚類が確認されている。アカモクが数センチ程度の脆弱な時期に、これら魚類による摂食を受けた可能性は否定できない。

###### ・自己間引きの可能性

初期定着段階では局所的な高密度状態が形成されており、個体間における光・空間・栄養資源を巡る競争が生じたと考えられる。この過密状態は、成長に伴って密度依存的な自己間引きを引き起こした可能性がある。

##### 3. 今後の展望

今回の調査結果を踏まえ、志賀島（弘）地点での藻場定着をより確実にするため、以下の対策を検討する。

###### ・基盤の安定化と砂対策

砂による埋没を防ぐため、設置する礫（れき）のサイズを大きくする、あるいは高さを出すなどの工夫を検討する必要がある。5月に実施した「新たな礫の運び入れ」は、定着基盤の確保として有効な処置であったと考えられる。

###### ・食害生物への対応

継続的に確認されている雑食性魚類への対策として、食害防止ネットの試験導入など、物理的な保護策の検討が必要である。

- ・モニタリングの継続

最終的に残った9株（2月時点）が今後成熟し、次世代の種子供給源となるかを引き続き注視する必要がある。

## 【志賀島（志賀）におけるアマモ場の現状と課題】

### 1. アマモ場の周年動態と再生能力

志賀島地点のアマモ場は、年間を通じて群落を維持されていることが確認された。

#### ・生活史の循環

令和7年6月には多数の「花枝」と種子の放出が確認され、8月には早くも若い群落の形成が見られた。同月には水温が31.5℃まで上昇し、続く9月にかけて葉の短縮や被度の低下が見られたものの、群落自体は消失することなく夏季を乗り越えた。さらに令和7年12月から令和8年1月にかけては、既存の地下茎からの伸長に加え、種子から発芽した実生（みしょう）が多数確認された。

### 2. サンショウウニによる食害のリスク

本調査期間中、最も注視すべき課題として、サンショウウニによる大規模な食害の可能性が浮き彫りとなった。

#### ・負の相関関係

11月の調査では、サンショウウニが1㎡あたり平均45個体という極めて高い密度で生息している地点において、アマモの葉部の消失や被度の低下が確認された。

#### ・直接的な摂食の確認

漁業者の協力による内部調査の結果、サンショウウニが実際にアマモを摂食していることが確認された。これにより、秋季に見られた一部地点でのアマモ消失は、アイゴやクロダイなどの食害だけでなくサンショウウニの食害である可能性も検討する必要がある。

### 3. 個体数減少と回復の兆し

令和8年2月時点の調査では、サンショウウニの個体数が大幅に減少し、1㎡あたり平均4個体ほどとなった。

#### ・季節的要因と定着

サンショウウニの減少に伴い、秋に消失した地点でも新たに種子から発芽したアマモが多数定着し始めていることが確認されたため、今後も水温変化と食害の因果関係についてもモニタリングしていく必要がある。

### 4. 今後の展望

#### ・食害モニタリングの継続

サンショウウニの大量発生が一時的なものか、あるいは周期的なものかを把握するため、継続的な密度調査が必要である。

#### ・保全対策の検討

過密地点におけるウニの除去や、アマモの実生が食害を受けやすい時期を特定し、重点的に保護する対策を検討する価値がある。

- 花枝採取による支援

令和 7 年 6 月に実施したような花枝採取と種子供給の取り組みを継続することで、食害等で一時的に減衰した地点の回復を促進する効果が期待できる。

## 【志賀島（明石）におけるアカモク藻場造成の現状と課題】

### 1. スポアバッグ手法による初期定着の評価

令和7年5月末に設置したスポアバッグ手法は、初期の孢子散布において高い効果を示したと考えられる。5月末の設置後、7月の調査では約100株、8月には約200株（方形枠内で33株）の新芽（約2cm）が確認された。狙い通り母藻からの種子供給と定着が成功したと言える。

### 2. 生育過程における急激な減衰要因の分析

8月に確認された約200株は、10月には1株のみへと激減した。この要因として、以下の2点が推察される。

#### ・植食性魚類による食害

当該調査地点ではアイゴやメジナ、イシダイなどの雑食性（植食傾向のある）魚類が優占的に確認されている。アカモクの新芽に顕著な食痕が確認されたことから、これらが新芽を集中的に摂食している可能性が高い。

#### ・ウニ類による影響

当該地点ではサンショウウニやムラサキウニといったウニ類が散見され、残存するアカモクや新芽に対する摂食圧（食害）となっている可能性が考えられる。

### 3. 物理的保護による食害回避の可能性

11月および12月の調査における「かご網内部でのアカモク生存」の確認は、今後の藻場造成において重要な示唆を与えている。網によって魚類の侵入が遮断された空間では、アカモクが生存・成長を続けていたことから、物理的な防護策が食害対策として極めて有効であると考えられる。

### 4. 今後の展望

今回の調査結果を踏まえ、志賀島（明石）地点での藻場定着をより確実にするため、以下の対策を検討する。

#### ・防除ネット等の導入

かご網の事例から明らかなように、アカモクが食害に対して脆弱な成長初期段階（数センチ程度）において、食害防止ネットや保護ケージを設置することで食害による定着率減少への対策を行う。

#### ・魚類とウニの複合的な管理

ムラサキウニの駆除を継続するとともに、サンショウウニの動向を注視し、アイゴ等の魚類の活動が活発になる時期（水温の高い夏から秋）における保護体制について、有識者や漁業者と連携した対策を行う。

#### ・温度耐性の注視

8月には水温が31.6℃まで上昇しており、食害に加えて高水温による生理

的ストレスが成長に与える影響についても、有識者の知見をふまえ注視していく必要がある。

## 【地行浜（東側）におけるアマモ場の現状と課題】

### 1. 移植手法の有効性と初期成長

令和7年6月に実施した「生分解性ポット」を用いた移植手法は、初期定着において一定の成果を収めた。

#### ・資材の適合性

植え付け直後の調査ではポットの崩壊は見られず、苗を安定させる基盤として有効に機能した。

#### ・初期成長

7月の調査では、移植個体が最大55cmまで成長していることが確認され、移植後の環境適応はおおむね良好であったと言える。

### 2. 夏季における衰退要因の分析

8月から10月にかけて、移植個体および自生群落に顕著な衰退・消失が見られた。これには以下の環境要因が強く影響していると考えられる。

#### ・高水温によるストレス

8月には水温が29.5℃に達しており、アマモの生育限界とされているに水温に近い状態が数か月続いたことが、葉の短縮や消失の直接的な要因と考えられる。

#### ・底質の悪化（有機物の堆積）

海底にホトトギスガイの死骸やアオサ類が大量に堆積し、腐泥化したことが確認されている。これにより底層が貧酸素状態となり、地下茎の維持を困難にした可能性が高い。

### 3. 実生による再生の確認

冬季（令和7年12月以降）に入り、水温の低下とともに新たな再生の兆しが明確に確認された。

#### ・自生のアマモ場の変化

令和7年12月には30~40株、令和8年1月にはさらに多くの実生（みしゅう）が確認された。特に、12月に4~10cmだった葉長が1月には8~20cmへと倍増しており、低水温期における極めて旺盛な成長が示された。

#### ・種子団子手法の成果

令和7年10月に実施した「アマモ種子団子投げ入れ活動」の地点からも、12月時点で新たに10株ほどの実生が確認された。これは、移植（苗）だけでなく、種子による補植手法が地行浜の環境において有効であることを示唆している。

### 4. 今後の展望

- 底質改善の検討

夏季の有機物堆積がアマモの永続的な定着を阻害する最大の要因と考えられ、特に閉鎖性が高く水交換が停滞しているエリアに対して、どのような人為的な底質改善措置を講じるか有識者の協力を得ながら検討していく必要がある。

- アマモの多年生から一年生の変化

秋から冬にかけて既存の栄養株（地下茎で越冬する株）が発見できなかった一方で、1月には実生が多数確認された。このことから、当地のアマモが過酷な夏季を乗り越える戦略として、従来の「多年生」から、種子で次世代を繋ぐ「一年生」へと生活史を変化させている可能性が示唆される。

- モニタリングの継続

令和8年2月に確認された実生が春にかけてどの程度群落を拡大させるか、また、種子団子の定着率についてもモニタリングを行い、より効果的な手法を模索していく必要がある。

## 【能古島（南側）におけるアマモ場の現状と課題】

### 1. 季節的な生育サイクルの特徴

能古島（南側）のアマモ場は、夏季に一度完全に消失し、冬季に種子から再生するという周年変動を示している。

#### ・夏季の状況

令和7年7月から8月にかけてはアマモの生育が確認されており、8月には17cm～28cmの株が多数見られた。しかし、水温が33.0℃に達した8月を境に急激な衰退が始まった。

#### ・秋季の消失

9月から11月にかけては、海底からアマモの葉（地上部）が消失した。令和5年以前は秋以降も地上部が残存する傾向にあったが、令和6年に引き続き2年連続で秋季に消失したことから、本地点におけるアマモの生存パターンが近年変容しつつあることが推察される。

#### ・冬季の再生

12月に初めて3株の実生が確認され、令和8年1月には約100株（6cm～12cm）まで大幅に増加した。これにより、地下茎による越夏は困難であるものの、種子による生存は可能であることが示唆される。

### 2. アナアオサによる物理的圧迫と底質環境への影響

本地点においてアマモの定着を阻害している最大の要因は、アナアオサの大量発生であると考えられる。

#### ・被覆による影響

7月から9月にかけてアナアオサが海底一帯を覆いつくすほど大量発生しており、これがアマモへの光を遮り、物理的に成長を阻害した可能性が高いと思われる。

#### ・地下茎の枯死

11月調査では、地表面に露出した地下茎が黒く変色し、中が空洞になって枯死している様子が確認された。アオサの堆積や高水温による底質の悪化が、地下茎の維持を困難にしている主要因であると推察される。

### 3. 他の生物相との関わり

#### ・多様な生物の利用

アマモが残存していた8月には、アミメハギ、ガザミ、コロダイ、アカオビシマハゼなどの多様な生物が確認されており、一時的であっても藻場が生息拠点として機能していることが示された。

- ・ホトトギスガイの優占

9月以降、アマモが消失した海底ではホトトギスガイが広く確認されており、これらの底生生物との生息場所の競合についても注視する必要がある。

#### 4. 今後の展望

- ・実生の保護と追跡

令和8年2月までに確認された約100株の実生が、春から初夏にかけてどの程度まで群落を拡大させるかを継続してモニタリングする必要がある。

- ・アオサ対策の検討

夏季のアオサの大量堆積をいかに軽減できるかが、地下茎による越夏の成否を分ける鍵となる可能性がある。

## 【能古島（東側）におけるアマモ場の現状と課題】

### 1. 高い生態的機能：産卵基質としての貢献

能古島（東側）のアマモ場は、単なる群落の維持にとどまらず、地域の生態系においても重要な役割を果たしていることが確認された。特に令和7年7月の調査で見られたカミナリイカの産卵は、本海域のアマモ場が魚介類の産卵基質（ゆりかご）として有効に機能していることを示す重要な知見である。水深 50cm から 2m にわたって広く繁茂しており、安定した生息空間を提供していると言える。

### 2. 夏季の環境ストレスとアマモ場の変遷

8月から10月にかけて、水温が 30°C を超える過酷な環境下でアマモの葉の長さが最大で 61cm（8月）から 10cm 以下（10月）と変化が確認された。

#### ・物理・化学的ストレス

9月には一部で底質の黒化が確認され、アマモへのシルトの蓄積や、砂の移動による埋没も確認されている。これらの要因が複合的に作用し、夏季の活力低下を招いたと考えられる。

### 3. 冬季の旺盛な再生と群落の回復力

11月以降、水温の低下（19.1°C から 10.4°C）とともに、アマモ場は急速な回復を見せた。

#### ・地下茎からの再生

11月には「古い葉が朽ちて新しい葉が伸長する」様子が確認され、令和8年

1月には既存の地下茎由来の株が 65cm まで成長した。

#### ・実生による更新

1月には種子から発芽したと推察される実生が多数確認された。これは、夏季の減衰を乗り越え、次世代への更新が確実に行われていることを示しており、本地点のアマモ場が極めて高い回復力を維持していると考えられる。

### 4. 今後の展望

本地点の底質は、「粘土質で締りが良い」という特徴を持っており、これは波浪による物理的な引き抜きに対する耐性や、安定した群落維持に寄与している可能性がある。

今後は、夏季の底質黒化（シルト蓄積）が長期的・周期的にどのような影響を与えるかを注視しつつ、この安定した母場（種子供給源）を維持することが重要であると考えられる。

## 【室見川における生物相と環境特性】

### 1. 確認生物から考察する室見川の特徴

今年度の調査において確認された魚類および底生生物は、室見川が多様な生態的特性を持つ生物の生息環境として維持されていることを示している。特に砂礫底を好むカマツカや、河床環境に依存するヨシノボリ類の確認は、本河川における河床構造がこれらの生物の生息条件と整合していることを示し、テナガエビ、モクズガニ、ミナミスナヤツメといった底生生物の確認は、底質の安定性が一定程度維持されている可能性を示すものである。さらに、オイカワやフナ類といった環境適応幅の広い種群が確認されたことは、本河川において流速環境および生息場が維持されている可能性があると考えられる。

### 2. 両側回遊魚類の出現傾向

一方で、両側回遊性魚類（アユ、ニホンウナギ）の確認は限定的であった。両側回遊性魚類の出現が少なかった要因として、河川連続性、水理環境、流速場の構造、遡上経路条件など、複数の環境要因が関与している可能性がある。特に、室見川には堰構造物が多く存在しており影響が考えられる。

### 3. 今後の展望

当団体としては河川構造物を直接改変する立場にはないものの、回遊性生物の動態把握および河川環境の評価を目的とした継続的モニタリングを実施し、科学的知見の蓄積と研究者との情報共有を通じて、河川環境の適切な評価および市民への河川環境保全の普及啓発活動を行い保全に貢献していくことが可能であると考えられる。

【環境 DNA 調査に基づく魚類相の季節変動とその場所が持つ独自の性質や特徴の評価（7月・10月）】

1. 季節による優占種の変遷と生物動態

7月と10月のデータを比較すると、水温や魚の生活史に応じた劇的な変化が確認された。

- ・回遊魚の来遊パターンの変化：7月の地行浜や能古島では、カタクチイワシやトウゴロウイワシ等の小型浮魚類が高いリード値を示しているが、10月にはヒイラギやサッパのリード値が上昇した。これは、湾内を利用する回遊魚の種類が季節とともに移り変わっていることを示唆している。
- ・アユの降河回遊（産卵）：室見川河口では、10月のアユのリード値（9,240）が7月（6,956）を上回った。10月下旬はアユの産卵期にあたり、産卵のために中流域から降河した個体群を環境 DNA がはっきりと捉えたと考えられる。

2. 地点ごとの生態的役割と環境特性

- ・藻場の重要性（地行浜 東側）：10月の地行浜（東側）では、クロダイ／ミナミクロダイが極めて高いリード値（96,591）を記録した。これは周辺の藻場が、これらの種の主要な餌場や生息拠点として機能していると考えられる。
- ・外洋の影響と多様性（志賀島 勝馬）：志賀島（勝馬）では、他の地点では見られない「クエ」や、南方種である「クロホシマンジュウダイ」が10月に検出された。これは外海からの潮汐の影響を強く受けていることを示しており、湾奥部とは異なる多様な魚類相が形成されている。
- ・特定の魚種が集中する海域（能古島 南側）：能古島（南側）では、7月のトウゴロウイワシ（34,543）や10月のヒイラギ（56,696）など、特定の魚種が大量に検出される傾向にあった。島周辺が回遊魚の通り道や、一時的に立ち寄る場所になっている可能性が考えられる。

3. 河川と海域の連続性（室見川）

室見川の中流から河口にかけて、水系のつながりを示す結果が得られた。

- ・両側回遊種の分布：オオヨシノボリ／トウヨシノボリ類が、7月・10月ともに中流域と河口域の両方で高い値で検出された。これは、海と川を行き来する生物にとって、室見川が良好な連続性を維持していると考えられる。
- ・潮汐による海産種の遡上：10月の河口調査は「上げ潮」のタイミングで実施されたため、ヒイラギやクロダイなどの海産種が多く河口内に出現し、高い検出値に繋がったと考えられる。

#### 4. 今後の展望と課題：環境 DNA とダイバーによる目視で描く博多湾の「今」を可視化

環境 DNA による「広域的な網羅データ」と、ダイバーによる「現場の目視調査」を融合させ、博多湾の再生と魅力発信を加速させる。

- ・「点」と「面」をつなぐハイブリッド調査の確立

ダイバーが捉える詳細な生態情報（点）に、広範囲をカバーする環境 DNA のデータ（面）を重ねることで、そこに住む生物についての現状を明らかにする。これにより、南方系の増加といった環境変化を早期に察知し、有識者との連携を行うことでアイゴ等の食害リスクに対する先制的な保全措置などの対応が可能となる。

- ・「見えない豊かさ」の可視化と科学的証明

目視困難な砂中に潜む生物などの存在を環境 DNA などの科学的調査で補完し、「ダイバーによるリアルな映像」と「環境 DNA が示す種数」などの情報を組み合わせることで、目に見えない「海の豊かさ」を可視化することができる。

また、水温や透視度などの環境変化を継続的に記録し、目視調査と科学的調査をリンクさせることで、刻々と変化し続ける博多湾の「今」を的確に切り取る。これにより、健全な環境を維持するための早期対応と発生抑制を行うとともに、直感とデータの両面から魅力を伝えることでより効果的な里海づくりにつなげていく。

(2)教育プログラム・人材育成

① 目的

持続可能な発育のための教育（ESD）の理念のもと、里海づくりにおける課題（社会課題）を自らの問題として主体的に捉え、将来や次世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるように、新たな価値観や行動等の変容をもたらすことを目的とした海洋教育を実施する。  
また、フィールドワーク等の運営には積極的に若手人材を登用して、ネイチャーポジティブに取り組む人材の醸成をはかる。

② 実施状況

令和7年度において、下記の海洋教育を実施した。  
取組内容は290ページ以降に記述する。

実施日	対象	啓発人数
6月8日	福岡市および福岡市近郊に在住の高校生と大学生	5名
6月13日	福岡市立百道浜小学校5年生	72名
6月27日	学校法人筑陽学園 筑陽学園中学校3年生	25名
7月14日	福岡県立玄洋高等学校1～3年生（※1）	650名
7月28日	福岡市舞鶴公民館 小学1～6年生（※2）	18名
7月29日	福岡市立西都北小学校1～6年生（※2）	70名
7月30日	福岡市立長丘小学校1～6年生（※2）	90名
8月5日	福岡市立西陵小学校1～6年生（※2）	50名
8月7日	福岡市立姪北小学校1～6年生（※2）	80名
8月8日	福岡市立田村小学校1～6年生（※2）	100名
8月19日	福岡市立金山小学校1～6年生（※2）	48名
8月20日	福岡市立城原小学校1～6年生（※2）	71名
8月21日	福岡市立鶴田小学校1～6年生（※2）	96名
8月22日	福岡市立原西小学校1～6年生（※2）	90名
9月12日	福岡市立下山門小学校5年生	72名
9月19日	福岡市立北崎小学校5年生 朝倉市立秋月小学校5年生	30名
9月25日	福岡市立福重小学校4年生	74名
10月8日	福岡市立百道浜小学校5年生（※3）	74名
10月18日	株式会社ドコモ九州支社 日本航空株式会社（※4） 株式会社福岡放送	33名
10月30日	福岡市立下山門小学校5年生	85名
10月31日	福岡市立大原小学校5年生	56名
11月7日	福岡市立北崎小学校3年生	25名
11月12日	学校法人筑陽学園 筑陽学園高等学校1年生（※5）	23名
11月14日	福岡市立北崎小学校3年生	25名

実施日	対象	啓発人数
11月25日	福岡市立下山門小学校5年生	85名
12月9日	福岡市立原小学校5年生	160名
12月24日	九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科	70名
1月22日	福岡県立柏陵高等学校 環境科学コース 2年生	35名
2月4日	学校法人東福岡学園 東福岡高等学校 1年生	500名

- ※1 株式会社福岡放送との協働により実施した。
- ※2 福岡市西部3Rステーションとの協働により実施した。
- ※3 福岡市海浜公園指定管理者 マリゾン・博多湾環境整備共同事業体との連携により実施した。
- ※4 福岡市海浜公園指定管理者 マリゾン・博多湾環境整備共同事業体との連携および福岡市西部3Rステーションとの協働により実施した。
- ※5 福岡市環境局ごみ減量推進課 および 福岡市志賀公民館との連携により実施した。

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年6月8日（日）9:00～12:00

対象：福岡市および福岡市近郊に在住の大学生 5名

場所：福岡市 海の中道「青少年海の家」

内容：フィールドワークや座学を通じ、海洋ごみ問題や生物多様性の保全について感じたことを参加者同士で言語化し、自らの生活と自然との繋がりを認識する場を創出した。



海岸清掃の様子



座学の様子



環境保全について話し合う大学生



環境への配慮を記載した模造紙

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年6月13日（金）10:45～12:20

対象：福岡市立百道浜小学校5年生 72名

場所：福岡市立百道浜小学校 体育館

内容：潜水調査によって撮影した水中写真や画像を通して、博多湾における海洋環境の現状をリアルに知ることのできる契機とした。

また、「側溝～川～海」による水の流れを認識し、自らの生活と海が繋がっていることを学ぶ機会を創出した。



学習の様子



投影された水中映像



海洋環境について伝える講師



講師と対話する児童たち

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年6月27日（金）9:20～11:30

対象：学校法人筑陽学園 筑陽学園中学校3年生 25名

場所：TNC放送会館 会議室 および 百道浜

内容：博多湾の海洋環境について考えるとともに、山川里海のつながりに  
ついて考える機会を創出した。

また、マイクロプラスチックを収集し、その現状と課題について考える  
ための場づくりを行った。



座学の様子



フィールドワークの様子



生徒たちが収集したマイクロプラスチック



質疑に答える講師

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年7月14日（月）14:35～15:25

対象：福岡県立玄洋高等学校1～3年生 650名

場所：福岡県立玄洋高等学校

内容：潜水調査によって撮影した水中写真や画像を通して、アマモ場の現状や重要性についての講義を行った。

令和7年2月24日に実施したアマモ場づくり活動に参加した学生に向けては視聴覚室において対面で実施し、その他の学生へは視聴覚室から各教室へオンライン配信を行った。



対面での講義の様子



オンライン配信のための機材



各教室（オンライン配信）の様子



積極的に講義に参加する学生たち

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年7月28日（月）10:00～12:00

対象：福岡市舞鶴公民館近郊に在住の小学1～6年生 18名

場所：福岡市舞鶴公民館

内容：潜水調査によって撮影した水中写真や画像を通して、博多湾における海洋環境の現状をリアルに知ることのできる契機とした。

また、「側溝～川～海」による水の流れを認識し、自らの生活と海が繋がっていることを学ぶ機会を創出した。

さらに、シーグラスを活用したアート制作を行い、地球温暖化抑制や生物多様性保全に向けてごみ減量に取り組むきっかけの場づくりを行った。



会場の様子



受講する児童



シーグラスを使用したアート制作の様子



完成した制作物

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年7月29日（火）10:30～11:30

対象：福岡市立西都北小学校 70名

場所：福岡市立西都北小学校

内容：潜水調査によって撮影した水中写真や画像を通して、博多湾における海洋環境の現状をリアルに知ることのできる契機とした。

また、「側溝～川～海」による水の流れを認識し、自らの生活と海が繋がっていることを学ぶ機会を創出した。



水中映像を使用した学習の様子



積極的に学習に参加する児童たち



児童と対話しながら進行する講師



会場全体の様子

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年7月30日（水）10:00～11:00

対象：福岡市立長丘小学校1～6年生 90名

場所：福岡市立長丘小学校

内容：潜水調査によって撮影した水中写真や画像を通して、博多湾における海洋環境の現状をリアルに知ることのできる契機とした。

また、「側溝～川～海」による水の流れを認識し、自らの生活と海が繋がっていることを学ぶ機会を創出した。

また、トイレトペーパーの芯などの廃材を使用した万華鏡を制作し、ごみ削減に向けた取り組みについて考える機会を創出した。



会場の様子



講師の様子



積極的に学習に参加する児童たち



廃材を活用した万華鏡を楽しむ児童

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年8月5日（火）13:00～15:00

対象：福岡市立西陵小学校1～6年生 50名

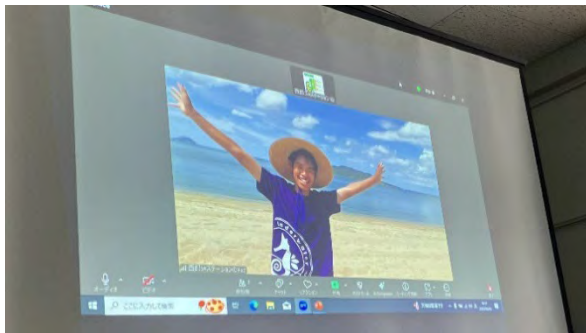
場所：福岡市立西陵小学校 および 生の松原海岸

内容：福岡市立西陵小学校と、学校から徒歩15分程の場所にある生の松原海岸をオンライン会議システムによって繋いで学習を行った。

これより、海岸に落ちている海洋ごみの現状を配信することで、博多湾における海洋ごみ問題の現状をリアルに知ることのできる契機とした。

また、「側溝～川～海」による水の流れを認識し、自らの生活と海が繋がっていることを学ぶ機会を創出した。

さらに、トイレトペーパーの芯などの廃材を使用した万華鏡制作を行い、ごみ削減に向けた取り組みについて考える機会を創出した。



オンライン配信の様子



配信された海岸の映像



オンライン配信後、児童と合流した講師



万華鏡制作の様子

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年8月7日（木）14:00～15:00

対象：福岡市立姪北小学校1～6年生 80名

場所：福岡市立姪北小学校

内容：潜水調査によって撮影した水中写真や画像を通して、博多湾における海洋環境の現状をリアルに知ることのできる契機とした。

また、「側溝～川～海」による水の流れを認識し、自らの生活と海が繋がっていることを学ぶ機会を創出した。

また、トイレトペーパーの芯などの廃材を使用した万華鏡を制作し、ごみ削減に向けた取り組みについて考える機会を創出した。



講師の様子



積極的に学習に参加する児童



水中映像に見入る児童たち



完成した万華鏡を楽しむ様子

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年8月8日（金）10:30～11:30

対象：福岡市立田村小学校1～6年生 100名

場所：福岡市立田村小学校

内容：潜水調査によって撮影した水中写真や画像を通して、博多湾における海洋環境の現状をリアルに知ることのできる契機とした。

また、「側溝～川～海」による水の流れを認識し、自らの生活と海が繋がっていることを学ぶ機会を創出した。



会場の様子



児童とコミュニケーションを取る講師



クイズを交えながら進行する様子



積極的に挙手する児童たち

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年8月19日（火）14:00～15:00

対象：福岡市立金山小学校1～6年生 48名

場所：福岡市立金山小学校

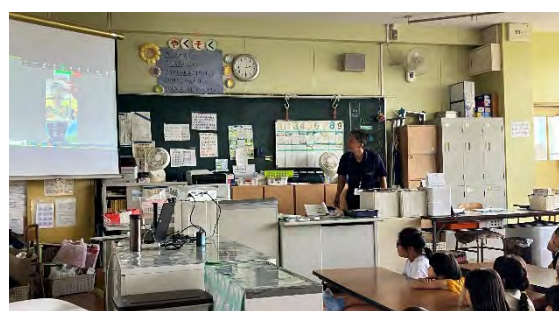
内容：福岡市立金山小学校と、身近な場所を流れる樋井川をオンライン会議システムによって繋いで学習を行った。

これより、自らの生活が川を通して海と繋がっていることを考える機会を創出した。

また、樋井川においては事前にタモ網によって採取した多種多様な生物を紹介して、生物多様性への関心を深めた。



会場の様子



オンライン配信の様子



採取した生物を紹介する講師



オンライン配信後、対話する講師と児童

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年8月20日（水）10:00～11:00

対象：福岡市立城原小学校1～6年生 71名

場所：福岡市立城原小学校

内容：潜水調査によって撮影した水中写真や画像を通して、博多湾における海洋環境の現状をリアルに知ることのできる契機とした。

また、「側溝～川～海」による水の流れを認識し、自らの生活と海が繋がっていることを学ぶ機会を創出した。

また、トイレトペーパーの芯などの廃材を使用した万華鏡を制作し、ごみ削減に向けた取り組みについて考える機会を創出した。



会場の様子



積極的に学習に参加する児童たち



マイクロプラスチックについて話す講師



廃材で万華鏡を制作する児童の様子

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年8月21日（木）14:00～15:00

対象：福岡市立鶴田小学校1～6年生 96名

場所：福岡市立鶴田小学校

内容：潜水調査によって撮影した水中写真や画像を通して、博多湾における海洋環境の現状をリアルに知ることのできる契機とした。

また、「側溝～川～海」による水の流れを認識し、自らの生活と海が繋がっていることを学ぶ機会を創出した。



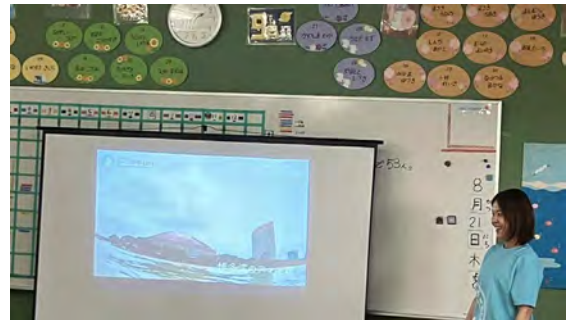
連携先の西部3Rステーション館長の様子



講師の様子



学習中のクイズに参加する児童たち



陸域と海を伝える映像を上映する様子

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年8月22日（金）14:00～15:00

対象：福岡市立原西小学校1～6年生 90名

場所：福岡市立原西小学校

内容：潜水調査によって撮影した水中写真や画像を通して、博多湾における海洋環境の現状をリアルに知ることのできる契機とした。

また、「側溝～川～海」による水の流れを認識し、自らの生活と海が繋がっていることを学ぶ機会を創出した。



会場の様子



水中映像上映の様子



マイクロプラスチックに関する学習の様子



積極的に学習に参加する児童たち

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年9月12日（金）9:40～10:25

対象：福岡市立下山門小学校5年生 72名

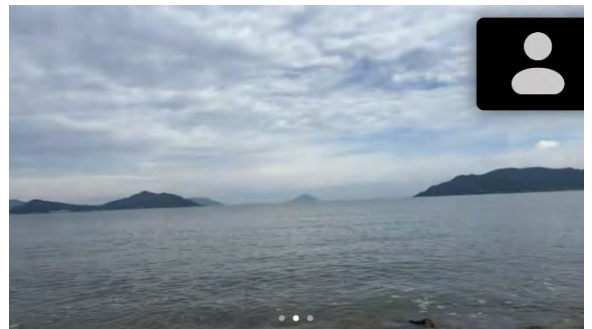
場所：福岡市立下山門小学校 および 生の松原海岸、十郎川、下山門駅

内容：福岡市立下山門小学校と、校区の3地点（生の松原海岸、十郎川、下山門駅）をオンライン会議システムによって繋ぎ、地域の魅力と課題について考える場を創出した。

これにより、自らが生活する地域に存在する自然環境への興味関心を高めた。



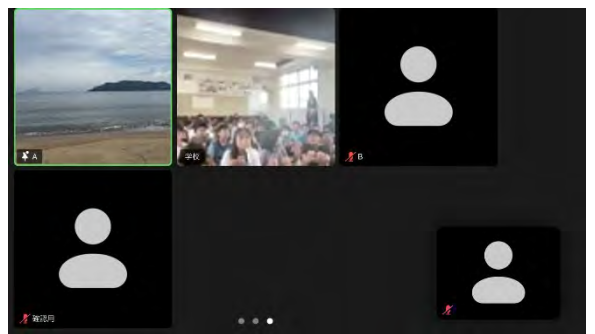
児童達の様子



配信された生の松原海岸の映像



配信された十郎川の映像



オンライン配信の様子

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年9月19日（金）12:25～15:20

対象：福岡市立北崎小学校5年生 9名  
朝倉市立秋月小学校5年生 21名

場所：福岡市立北崎小学校

内容：海が身近にある福岡市立北崎小学校の児童と、山が身近にある朝倉市立秋月小学校の児童とともに海遊び体験を実施した。  
また、たも網によって採取した生物の観察会を実施した。  
これにより、海の魅力を知る機会を提供することで、山川里海の繋がりが環境保全について考える契機とした。



器材フィッティングの様子



海遊びをする児童たち



採集した生物の紹介



集合写真

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年9月25日（木）10:30～11:15

対象：福岡市立福重小学校4年生 74名

場所：福岡市立福重小学校

内容：河川調査で採集した生物の写真や、潜水調査によって撮影した水中写真や映像を使用した授業を行った。

身近な場所を流れる室見川と博多湾の水中世界について、その魅力をリアルに知ることのできる契機とした。

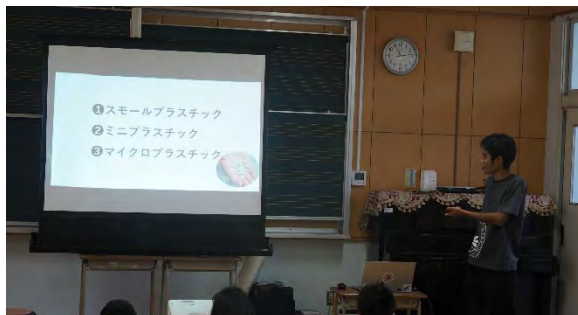
また、ごみ問題を通して「側溝～川～海」による水の流れを認識し、自らの生活と海が繋がっていることを学ぶ機会を創出した。



講師の様子



児童とコミュニケーションを取る様子



クイズを交えながら進行する様子



積極的に挙手する児童たち

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年10月8日（金）9:30～10:15

対象：福岡市立百道浜小学校5年生 74名

場所：福岡市立百道浜小学校

内容：令和7年6月13日（金）に博多湾における海洋環境についての座学を行った児童たちと、校外学習（アマモ場づくり活動）を行った。  
当団体において温度管理しながら冷蔵保存しているアマモ種子を寒天粘土にまぶして海へと散布し、自らの手で海洋環境を改善することができるという契機の間を提供した。



座学をふりかえる児童と講師



アマモについて説明する講師



アマモ場づくりの様子



寒天粘土にまぶしたアマモ種子

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年10月18日（土）13:00～15:30

対象：株式会社ドコモ九州支社 25名

日本航空株式会社 5名

株式会社福岡放送 3名

場所：まもる一む福岡 および 地行浜

内容：福岡の海の海洋環境やアマモについての座学を実施した後、アマモ種子を寒天粘土にまぶして地行浜へ散布した。

また、マイクロプラスチックを回収して、トイレトペーパーの芯などの廃材を活用した万華鏡を制作するワークショップを行った。

これにより、身近な海に生息する生物の様子を想像することや、海洋ごみや廃材有効活用といったポジティブな思考が、持続的な環境保全活動につながるということを考える機会を提供した。



会場の様子



アマモ種子を寒天粘土にまぶす参加者たち



マイクロプラスチックを回収する様子



制作した万華鏡を楽しむ様子

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年10月30日（木）13:00～13:45

対象：福岡市立下山門小学校5年生 85名

場所：十郎川

内容：令和7年9月12日（金）に学校と校区の3地点（生の松原海岸、十郎川、下山門駅）をオンライン会議システムによって繋ぎ、自らが生活する地域に存在する自然環境について考える場を創出した児童に向けて、河川（十郎川）での校外学習を行った。

児童たちは、水中生物や川辺の環境を観察しながらタブレットで撮影を行い、身近な場所に存在する自然環境についてリアルに体感した。また、生活ごみが河川から海へと流れ出ている現状を自らの目で確認した。



講師の話を聞く児童たち



観察した生物（ゴクラクハゼ）



生物を観察する児童たち



タブレットを持ち、河川を観察する様子

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年10月31日（金）10:35～11:20

対象：福岡市立大原小学校5年生 56名

場所：福岡市立大原小学校

内容：自然教室において海岸でのマイクロプラスチック回収を行った児童たちに向け、身近な海の水中世界についての学習を行った。

自らの生活が側溝や河川を通じて海と繋がっていることや、SDGsの目標達成に向けた取り組みについての学びを深め、環境保全の重要性や自らの生活との関連性を考える場を創出した。



会場の様子



講師の様子



積極的に挙手する児童たち



児童たちと対話する講師

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年11月7日（金）9:45～11:35

対象：福岡市立北崎小学校3年生 25名

場所：福岡市立北崎小学校 および 小学校前の海岸

内容：海岸沿いに位置する小学校に通学する児童たちと、校外学習（ビーチコーミング）を行った。

また、当団体のスタッフが事前に採取した水中生物の観察や水中映像の上映を行い、身近な海について理解を深める時間を創出した。



ビーチコーミングの様子



児童たちが見つけた海洋ごみ



座学の様子



教室での生物観察

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年11月12日（水）14:00～15:30

対象：学校法人筑陽学園 筑陽学園高等学校1年生 23名

場所：福岡市志賀公民館 および 志賀島海水浴場

内容：ワンヘルスの取り組みについて学ぶ高校生に向けて、人々の生活と海とのつながりについての講義を行った。

座学後には海岸においてクリーンアップを行い、マイクロプラスチックなどをはじめとする海洋ごみ問題の現状を知ること、海洋環境保全の重要性について考える場を創出した。



座学の様子



クリーンアップの様子



ザルを使ってマイクロプラスチックを選別する生徒



集合写真

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年11月14日（金）9:45～10:30

対象：福岡市立北崎小学校3年生 25名

場所：福岡市立北崎小学校

内容：令和7年11月7日（金）に校外学習と座学において身近な海の魅力と課題を学んだ児童たちが「海について感じたこと」や「海を守るためにできること」を自らの言葉でポスター発表した。

講師は、児童たちとコミュニケーションを取りながら発表についての感想を述べ、海洋環境保全に向けた気持ちを醸成した。



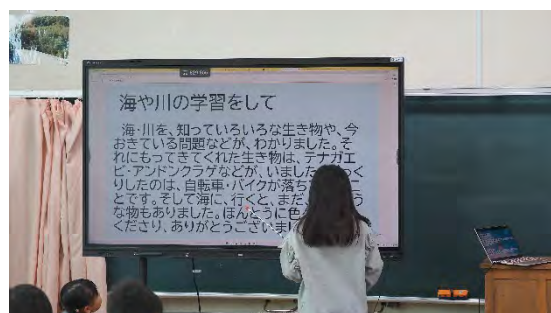
ビーチコーミングを振り返る児童たち



発表の方法を伝える講師の様子



水中生物について伝える児童たち



学んだことを発表する児童

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年11月25日（火）13:50～14:35

対象：福岡市立下山門小学校5年生 85名

場所：福岡市立下山門小学校

内容：令和7年9月12日（金）と10月30日（木）の学習において、校区の自然（川や海）や歴史など自らが関心を持った事柄について、チームごとにプレゼン発表を行った。

人の生活が側溝や川を通じて海と繋がっていることや、身近な場所にある神社が海に由来するものであることなどを発表する過程において、人と自然のつながりについての学びを深める時間を創出した。



会場の様子



講師の様子



調べたことを発表する児童たち①



調べたことを発表する児童たち②

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年12月9日（火）10:45～11:30

対象：福岡市立原小学校5年生 160名

場所：福岡市立原小学校

内容：当授業以降に実施される自然教室でビーチクリーンアップを行う児童に向けて、福岡の海の水映像や写真を活用しながら、海洋環境の現状を身近に感じられるような気持ちを醸成した。

インフルエンザ感染拡大防止による学級閉鎖期間中であったため、オンライン授業となったが、リアクション機能なども利用して児童とのコミュニケーションを図った。



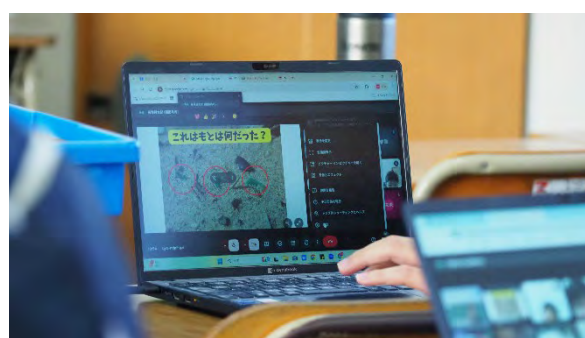
教室の様子



オンラインで授業を進行する講師



児童の様子を確認する学校の教師



タブレットに映し出された資料

## 海洋教育事業記録

日時：令和7年12月24日（水）13:40～15:20

対象：九州産業大学建築都市工学部都市デザイン工学科 70名

場所：九州産業大学

内容：都市空間・景観・交通・環境・建設などを学ぶ大学生に向けて、他分野の主体と協働や連携することの重要性について講義を行った。  
福岡の海の水中写真や映像を活用しながら、海洋環境保全に向けて当団体が構築している他主体による連携体制を紹介し、持続可能で豊かな地域社会の創造の実現に向けて考える機会を創出した。



講義室の様子



講師の様子



対話する講師と学生



講義を受ける学生たち

## 海洋教育事業記録

日時：令和8年1月22日（木）15:40～16:30

対象：福岡県立柏陵高校 環境科学コース 2年生 35名

場所：福岡県立柏陵高校

内容：「環境」の視点からSDGsの実現に貢献するため、様々な課題研究を行う高校生へ向けて、森川里海のつながりや福岡の海における現状と課題を水中写真や映像を用いて伝えた。

また、当団体が環境課題解決のために実施している保全活動や啓発活動について、多様な場面や対象における実例を紹介した。

さらに、同学校の卒業生である当団体職員が講師を務めたことにより、環境事業に従事することを、より身近に感じてもらうことができた。



教室の様子



授業を進行する講師



水中写真の投影



授業後に対話する講師と生徒

## 海洋教育事業記録

日時：令和8年2月4日（水）13:10～14:10

対象：学校法人東福岡学園 東福岡高等学校 1年生 500名

場所：学校法人東福岡学園 東福岡高等学校

内容：当団体のダイバーが撮影した水中映像や画像をとおして、博多湾を中心とする身近な海の水の世界について、生徒たちとしっかりコミュニケーションを取りながら講義を行った。

また、当団体設立の契機についても伝え、多様な場面におけるボランティア活動の重要性や、それを継続し続けるために大切な要素について考えるための場を創出した。

これにより、ボランティア活動への興味関心を深めた。



会場の様子



授業を進行する講師



水中写真（アマモ）の投影



講師の講話を聞く生徒たち

### ③ 結果

令和7年度に実施した教育プログラム・人材育成の取組みにより、年間29回の海洋教育機会を創出し、延べ2,812名に対して普及啓発を実施した。対象は小学生・中学生・高校生・大学生に加え、企業関係者や地域住民にまで及び、世代や立場を超えた幅広い層へ向けて、海洋環境について考える機会を提供することができた。

各プログラムでは、潜水調査によって得られた実際の水中写真や映像を活用することで、参加者が博多湾の現状を「自分事」として捉える契機を形成した。特に児童・生徒においては、講義中の積極的な発言や質疑応答、さらには探究学習や発表活動へと発展する事例が多く確認され、自然環境や海洋問題への興味関心の向上が認められた。

また、アマモ場づくり活動や海岸・河川での体験型学習を通じて「自らの行動により自然環境を守ることができる」という認識の醸成が見られた。単なる知識提供にとどまらず、行動変容の芽生えにつながる教育効果が得られたことは、本事業の重要な成果である。

さらに、オンライン会議システムを活用した学習を実施したことで、場所の制約や感染症対策といった社会的条件に柔軟に対応しながら教育展開を行う体制を構築できた。これにより、教育機会の継続性および拡張性が確保された。

情報発信の面では、関連する取組内容について13回※にわたりメディアで紹介される機会を得たことにより、里海づくりに関する社会的認知の向上に寄与した。

人材育成の観点では、各教育プログラムおよびフィールド活動の運営に若手人材を積極的に登用した。その結果、若手スタッフが講師補助や進行管理、企画運営を担う場面が増加し、実践的経験の蓄積が図られた。これは、将来的な地域の自然環境保全を担う「ネイチャーポジティブ人材」の醸成につながる基盤形成として評価できる。

以上のことから、本年度の教育プログラムは、啓発規模の拡大、行動変容の促進、多様な主体への波及、人材育成の推進という観点において、一定の成果を得ることができた。

#### ※メディア出演実績

放送日	放送局	番組名
6月5日	FBS 福岡放送	バリはやッ!
7月25日	RKB ラジオ	ポジモン!
7月28日	FBS 福岡放送	バリはやッ!
8月1日	KBC 九州朝日放送	ぎゅっと
8月2日	KBC 九州朝日放送	第29回 水と緑の物語
8月8日	TBS ラジオ	あなたの夢は何ですか?
8月31日	FBS 福岡放送	24時間テレビ in 福岡
9月14日	テレビ東京	ブルードリーム 森と海の守り人たち
9月15日	FBS 福岡放送	バリはやッ!
10月5日	KBC ラジオ	サトコノヘヤ

放送日	放送局	番組名
11月28日	NHK 福岡放送	ロクいち！福岡
12月22日	NHK（全国エリア）	NHK ニュース おはよう日本
1月23日	NHK（九州沖縄エリア）	From Seas 潜水アナと見つめる九州 沖縄の海

(3)プロジェクト全体のビジョン策定

① 目的



多様な主体の連携を強固にし、協働ができる関係性を構築していくために、情報共有・協働活動・取組検討の場を創出する。  
また、大学等の研究機関と連携することで、調査モニタリングの学術的価値を高める。

② 実施状況

令和7年度において、下記の情報共有・協働活動・取組検討協議を実施した。

対象：株式会社 福岡放送	
日時	令和7年7月11日 13:00～14:00
連携人数	1名
内容	海洋ごみ問題やアマモ場づくり活動の啓発に向けた情報共有・協議

対象：J:COM 株式会社	
日時	令和7年7月14日 10:30～11:30
連携人数	1名
内容	海洋環境啓発に向けた情報共有・協議

対象：株式会社 福岡放送	
日時	令和7年7月26日 9:30～12:00
連携人数	52名
内容	シュノーケリング体験およびアマモ種子選別
参考事項	 <p>アマモについて学ぶ参加者</p>
	 <p>シュノーケリング体験の様子</p>
	 <p>アマモ種子選別の様子</p>
	 <p>集合写真</p>
<p>※活動の様子は令和7年7月28日 FBS 福岡放送「バリはやッ！」および、令和7年8月31日 FBS 福岡放送「24時間テレビ in 福岡」において放送された。</p>	

対象：福岡県漁協青壮年協議会	
日時	令和7年7月28日 18:00～19:00
連携人数	2名
内容	今後の連携に向けた意見交換

対象：福岡市漁業協同組合 弘支所	
日時	令和7年8月19日 10:00～11:00
連携人数	2名
内容	ウニ除去活動に向けた情報共有・協議

対象：福岡市漁業協同組合 姪浜支所	
日時	令和7年8月25日 16:30～17:30
連携人数	4名
内容	藻場造成活動に向けた意見交換

対象：福岡県漁協青壮年協議会	
日時	令和7年8月26日 13:00～14:00
連携人数	10名
内容	今後の連携に向けた情報共有・協議

対象：福岡県漁協青壮年協議会	
日時	令和7年9月6日 15:00～17:00
連携人数	15名
内容	ブルーカーボン創出に関する情報共有・協議

対象：福岡市立下山門小学校	
日時	令和7年9月8日 15:00～16:00
連携人数	2名
内容	総合的な学習の時間における海洋学習の打ち合わせ

対象：福岡県漁協青壮年協議会	
日時	令和7年9月16日 9:00～12:00
連携人数	11名
内容	ブルーカーボン創出に向けたウニ除去活動連携

対象：福岡県漁協青壮年協議会	
日時	令和7年9月25日 13:00～16:00
連携人数	11名
内容	ブルーカーボン創出に向けたウニ除去活動連携

対象：株式会社NTT ドコモ 九州支社	
日時	令和7年9月25日 16:30～17:30
連携人数	5名
内容	環境学習イベント開催に関する打ち合わせ・協議

対象：福岡市漁業協同組合 弘支所	
日時	令和7年10月2日 15:00～16:00
連携人数	2名
内容	アカモクの生育状況について

対象：福岡市漁業協同組合 伊崎支所	
日時	令和7年10月9日 13:30～14:30
連携人数	1名
内容	藻場造成活動についての打ち合わせ

対象：NHK 福岡放送局	
日時	令和7年10月16日 11:00～12:00
連携人数	1名
内容	藻場や海底ごみの潜水調査・撮影について

対象：福岡県漁業協同組合連合会	
日時	令和7年10月16日 15:30～16:30
連携人数	3名
内容	水産業向上への取り組みについての打合せ

対象：福岡市立北崎小学校	
日時	令和7年10月22日 16:00～17:00
連携人数	3名
内容	海洋教育学習についての打合せ

対象：福岡市ヨットハーバー	
日時	令和7年10月23日 10:00～11:00
連携人数	4名
内容	藻場造成活動についての打合せ・協議

対象：福岡県自然環境部自然環境課	
日時	令和7年10月23日 14:00～15:00
連携人数	1名
内容	生物多様性保全活動に関する打合せ・協議

対象：SALT	
日時	令和7年11月11日13:00～14:00
連携人数	3名
内容	海洋環境保全についての打合せ

対象：福岡市農林水産局水産振興課 および 福岡市漁業協同組合 姪浜支所	
日時	令和7年11月20日10:00～11:00
連携人数	5名
内容	海底ごみ啓発についての打合せ

対象：福岡県漁業協同組合連合会	
日時	令和7年11月20日14:00～15:00
連携人数	10名
内容	水産業向上への取り組みについての打合せ

対象：株式会社NTTドコモ九州支社	
日時	令和7年11月25日10:00～11:00
連携人数	2名
内容	生物多様性保全活動についての打合せ

対象：ザ・ルイガンズ スパ&リゾート	
日時	令和7年11月26日11:00～12:00
連携人数	1名
内容	海洋環境保全を目的とした連携についての意見交換

対象：福岡市漁業協同組合 唐泊支所	
日時	令和7年12月3日10:00～11:00
連携人数	2名
内容	海洋環境保全についての打合せ

対象：福岡市原小学校	
日時	令和7年12月8日14:00～15:00
連携人数	3名
内容	海洋教育についての打合せ

対象：糸島市企画秘書課	
日時	令和7年12月25日14:00～15:00
連携人数	2名
内容	海洋環境保全についての打合せ

対象：福岡県漁業協同組合連合会	
日時	令和7年12月25日15:00～16:00
連携人数	1名
内容	海洋環境保全についての打合せ

対象：株式会社やますえ・福岡県漁業協同組合連合会	
日時	令和7年12月26日10:00～11:00
連携人数	3名
内容	海洋環境保全についての打合せ

対象：福岡市漁業協同組合 能古支所	
日時	令和8年1月6日10:00～11:00
連携人数	2名
内容	アマモ場の現状についての情報共有

対象：福岡市 西部3Rステーション	
日時	令和8年1月6日14:30～15:30
連携人数	2名
内容	今後の啓発活動に向けた取組検討協議

対象：福岡市海浜公園指定管理者 マリゾン・博多湾環境誠意共同事業体	
日時	令和8年1月8日10:00～11:00
連携人数	2名
内容	アマモ場の現状についての情報共有

対象：九州大学大学院	
日時	令和8年1月13日13:15～14:45
連携人数	5名
内容	今後の連携に向けた取組検討協議

対象：海あそび舎	
日時	令和8年1月15日14:00～16:00
連携人数	1名
内容	今後の連携に向けた取組検討協議

対象：福岡県漁業管理課・福岡県水産技術センター・九州大学ダイビングサークル	
日時	令和8年1月16日15:00～16:00
連携人数	5名
内容	今後の連携に向けた取組検討協議

対象：福岡市海浜公園指定管理者 マリゾン・博多湾環境誠意共同事業体	
日時	令和8年1月26日 10:00～11:00
連携人数	2名
内容	アマモ場の現状についての情報共有

対象：住商メタルワン鋼管 株式会社	
日時	令和8年2月3日 14:00～15:00
連携人数	5名
内容	啓発活動に向けた取組検討協議

対象：福岡市 西部3Rステーション	
日時	令和8年2月9日 13:00～14:00
連携人数	1名
内容	啓発活動に向けた取組検討協議

対象：福岡市港湾空港局みなと環境政策課	
日時	令和8年2月10日 13:00～14:00
連携人数	2名
内容	今後の連携に向けた情報共有

対象：福岡市農林水産局水産振興課	
日時	令和8年2月17日 10:00～11:00
連携人数	2名
内容	啓発活動に向けた取組検討協議

対象：福岡市環境局環境調整課	
日時	令和8年2月17日 11:00～12:00
連携人数	3名
内容	啓発活動に向けた取組検討協議

対象：大野城市立大利中学校	
日時	令和8年2月17日 16:00～17:00
連携人数	1名
内容	海洋教育に向けた取組検討協議

### ③ 結果

令和7年度に実施した情報共有・協働活動・取組検討協議の取組みにより、多様な主体との継続的な対話および関係構築を進めることができた。行政機関、研究機関、教育機関、企業、漁業関係者等との意見交換や協議を重ねた結果、里海づくりを共通のテーマとした相互理解の深化が図られた。

特に、単発的ではなく、継続的な協議や活動へと発展する関係性が構築され、協働を前提とした取組検討の基盤が形成されたことは重要な成果である。

漁業関係者との対話および協議においては、ブルーカーボン創出を目的としたウニ除去活動を実践することができた。これは、対話が具体的な保全活動へと展開した事例であり、協働関係の深化を示す成果である。

さらに、教育機関との意見交換により、海洋環境学習に関する次年度以降の授業構想および連携の方向性を共有することができた。これにより、地域が一体となった継続的な教育活動への基盤が構築された。

加えて、行政機関との情報共有および協議を通じて、行政機関と行政機関、行政機関と教育機関など、多様な主体が連携して活動を推進していくための協議の場を設けることができた。これは、本事業が地域における連携基盤の形成に寄与した成果として位置付けられる。

研究機関との連携においては、調査・モニタリング活動における学術的視点の導入に向けた方向性を検討することができた。これは、今後の里海づくりにおける科学的根拠を強化するものである。

以上のことから、本年度の取組みは、多様な主体の参画促進、関係性の継続化、協働可能性の拡張という観点において成果が得られた。

### 3 今後の課題、次年度以降の取組方針

本年度の事業を通じて、藻場保全および里海づくりを発展させていくための重要な視点が得られるとともに、多様な主体との連携および継続的な協議の場を創出することができた。

藻場の保全、藻場造成エリアの選定、海洋環境変化の把握においては、潜水による目視調査や触感による底質確認が、現場の実態を把握する上で重要な役割を果たした。一方で、これらの現場調査で得られる知見を、科学的データと統合していく必要性が改めて認識された。今後は、これまでの経験的知見の蓄積を活かしつつ、科学的根拠に基づく評価へと段階的に発展させていくことが求められる。

そのため、次年度以降は、ダイバーによる目視調査と環境 DNA 調査をはじめとする科学的調査を組み合わせたモニタリングを継続的に実施し、研究機関との連携のもと分析を進めることで、生物相の変化をより定量的かつ継続的に把握できる体制の強化を図る。あわせて、その成果を市民や教育機関と共有し、市民参加型のモニタリングや体験活動といった市民科学へと展開することで、データに基づいた里海づくりを社会とともに実践していく。

また、アマモ場の被度減少については、水温の上昇、生物による食害等、複数の要因が複合的に影響している可能性が考えられる。特に、サンショウウニ等による食害の影響については、被度変動との関係を含めた検証が重要である。次年度以降は、研究機関との連携を更に深化させ、アマモ場の変化要因について多角的な再検討を進めていく。

さらに、他者との協働を通じて、現場で蓄積されてきた知見や経験を科学的に整理し、社会へ分かりやすく還元していくことが重要である。海洋環境に関する情報を継続的にアップデートし、その成果を共有していくことは、里海づくりにおける理解の促進および取組みの持続性に寄与する。

多様な主体が議論する場として、すでに行政主導で運営されている福岡県ブルーカーボン推進協議会や博多湾 NEXT 会議のみにとどまらず、各主体との対話を丁寧に行いながらファシリテーターの役割を担い、主体同士をつなぎながら里海づくりを発展させていく。

その具体的な目標として、博多湾流域における自然共生サイトの登録を目指し、調査・保全・教育の成果を活用する。

加えて、近年の海洋環境の変化に伴い、アマモ苗の植栽など従来の保全活動手法のみでは十分な効果が得られにくい状況も見られる。今後は、調査結果および有識者連携による新たな知見を踏まえた取組手法の見直しおよび再設計を進めていく。

これらの検討を踏まえ、次年度以降は、科学的検証、環境教育、地域連携を統合した取組みの更なる強化を推進する。

#### 4 総括（まとめ）

本事業では、「学術連携・基礎調査」「教育プログラム・人材育成」「ビジョン策定」という3つの取組を通じて、博多湾の里海づくりを一步前へ進めることができた。

基礎調査では、ダイバーによる目視調査と環境DNA調査を組み合わせることで「見える海」と「見えない海」の両面から博多湾の現状を捉える取組みを進めた。

7月と10月の比較では、季節に応じた魚類相の動きを環境DNAが明確に捉え、博多湾および室見川の水系が持つ特徴が可視化された。

また、地行浜東側の藻場機能や、志賀島勝馬における外洋の影響、能古島周辺の回遊経路としての可能性など、同じ博多湾周辺海域においても地点ごとの「海の個性」も見えてきた。

これらは単なる種数の把握にとどまらず「その場所がどのような役割を果たしているのか」を考える材料となった。

環境DNA調査は、潜水調査だけでは捉えきれない生物の存在を補完し、ダイバーの映像記録と重ね合わせることで、博多湾の現状をより立体的に描くことを可能にした。本年度は、その融合の可能性と当団体の担う役割について確認する一年となった。

一方で、アマモ場の被度減少については、水温上昇や食害など複数の要因が絡み合っている可能性があり、特にサンショウウニ等の影響については継続的な検証が求められることも明らかとなった。

従来のアマモ苗植栽のみでは十分な回復につながらない場面も見られ、保全手法の再設計の必要性が具体的に見えてきたことも重要な成果である。

教育プログラムでは、海を「遠い自然」ではなく「自分の暮らしとつながる存在」として伝える機会を創出した。単なる知識提供ではなく、行動変容のきっかけづくりを重視し、多世代への働きかけを進めた。

また、ネイチャーポジティブ人材の育成を見据え、活動回数などの定量的な評価だけでなく、内部人材の育成や教育効果といった定性的な評価方法の整理にも着手した。

さらに、行政、研究機関、教育機関、漁業者等との継続的な対話を通じて、連携体制の再構築を進めた。新たに船を導入し、ブルーツーリズムの立案・実施体制の整備を進めたことも、里海づくりを社会へ広げていく基盤づくりの一環である。

本事業は、単なる調査や啓発にとどまらず、「海の変化」「社会の変化」「人の成長」をあわせて捉えていき、調査（データ）・教育（意識）・連携（仕組み）を一体として進めることで、里海づくりに活かしていく。

また、連携活動に重きを置いたことで、有識者やステークホルダーとの協働による里海づくりを実施する基盤を構築することができた。

今後は、生物や海洋環境のモニタリングに加え、参加者の継続率や行動変容、人材の成長といった社会的側面もあわせて見える化しながら、ネイチャーポジティブの実現をKGIとする里海づくりへと発展させていく。